

別記様式第2号（その1の1）

基本計画書

基本計画書									
事項	記入欄						備考		
計画の区分	研究科の設置								
フリガナ設置者	コクリツガクカクシツン ヤマガタガク								
フリガナ大学の名称	ヤマガタガクカクシツン 山形大学大学院 (Graduate school of Yamagata University)								
大学本部の位置	山形県山形市小白川町一丁目4番12号								
大学の目的	<p>山形大学は、教育基本法(平成18年法律第120号)の精神にのっとり、学術文化の中心として広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し知的道徳的及び応用的能力を展開させて、平和的民主的な国家社会の形成に寄与し、文化の向上及び産業の振興に貢献することを目的とする。</p> <p>本大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。</p>								
新設学部等の目的	<p>人文科学、社会科学、臨床心理学及び芸術・スポーツ科学を核にしなが、人間社会を「社会」と「文化」の関係から捉え直し、地域的な展開を新たに創造・実践できる人材を養成することを目的とする。</p>								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	基礎となる学部：人文社会科学部 地域教育文化学部 14条特例を実施
	社会文化創造研究科 [Graduate School of Creative Studies in Society and Culture] 社会文化創造専攻 [Department of Creative Studies in Society and Culture]	年	人	年次人	人	修士(文学) 修士(政策科学) 修士(臨床心理学) 修士(学術) [Master of Literature] [Master of Policy Science] [Master of Clinical Psychology] [Master of Arts]	令和3年4月 第1年次	山形県山形市小白川町一丁目4番12号	
	計	—	24	—	48				
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	<p>社会文化システム研究科 文化システム専攻（廃止） (△6) ※令和3年4月学生募集停止 社会システム専攻（廃止） (△6) ※令和3年4月学生募集停止</p> <p>地域教育文化研究科 臨床心理学専攻（廃止） (△6) ※令和3年4月学生募集停止 文化創造専攻（廃止） (△8) ※令和3年4月学生募集停止</p> <p>理工学研究科 物質化学工学専攻（廃止） (△38) ※令和3年4月学生募集停止 バイオ化学工学専攻（廃止） (△28) ※令和3年4月学生募集停止 応用生命システム工学専攻（廃止） (△23) ※令和3年4月学生募集停止 情報科学専攻（廃止） (△28) ※令和3年4月学生募集停止 電気電子工学専攻（廃止） (△34) ※令和3年4月学生募集停止 ものづくり技術経営学専攻（廃止） (△10) ※令和3年4月学生募集停止 化学・バイオ工学専攻 (67) (令和2年4月事前伺い) 情報・エレクトロニクス専攻 (62) (令和2年4月事前伺い) 建築・デザイン・マネジメント専攻 (12) (令和2年4月事前伺い)</p>								

		農学研究科 生物生産学専攻（廃止）（△12） ※令和3年4月学生募集停止 生物資源学専攻（廃止）（△14） ※令和3年4月学生募集停止 生物環境学専攻（廃止）（△10） ※令和3年4月学生募集停止 農学専攻（ 32）（令和2年4月事前伺い）								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	社会文化創造研究科 社会文化創造専攻	講義 127科目	演習 145科目	実験・実習 15科目	計 287科目	30単位(社会文化システムコース) 30単位(芸術・スポーツ科学コース) 39単位(臨床心理学コース)				
教員	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等		
			教授 人	准教授 人	講師 人	助教 人	計 人	助手 人	人	
新設	社会文化創造研究科 社会文化創造専攻（修士課程）		52 (54)	40 (40)	7 (7)	0 (0)	99 (101)	0 (0)	53 (51)	令和3年4月 事前伺い
	理工学研究科 化学・バイオ工学専攻（博士前期課程）		15 (15)	14 (14)	0 (0)	13 (13)	42 (42)	0 (0)	51 (51)	令和3年4月 事前伺い
設	理工学研究科 情報・エレクトロニクス専攻（博士前期課程）		12 (12)	16 (16)	0 (0)	7 (7)	35 (35)	0 (0)	53 (53)	令和3年4月 事前伺い
	理工学研究科 建築・デザイン・マネジメント専攻（博士前期課程）		6 (6)	2 (2)	0 (0)	3 (3)	11 (11)	0 (0)	50 (50)	令和3年4月 事前伺い
分	農学研究科 農学専攻（修士課程）		24 (24)	26 (26)	0 (0)	7 (7)	57 (57)	0 (0)	42 (42)	令和3年4月 事前伺い
	計		109 (111)	98 (98)	7 (7)	30 (30)	244 (246)	0 (0)	— (—)	
組	医学系研究科 医学専攻（博士課程）		29 (29)	24 (24)	27 (27)	104 (104)	184 (184)	0 (0)	24 (24)	
	医学系研究科 看護学専攻（博士前期課程）		9 (9)	6 (6)	2 (2)	7 (7)	24 (24)	0 (0)	22 (22)	
織	医学系研究科 先進的医科学専攻（博士前期課程）		7 (7)	3 (3)	1 (1)	6 (6)	17 (17)	0 (0)	1 (1)	
	医学系研究科 看護学専攻（博士後期課程）		9 (9)	6 (6)	2 (2)	7 (7)	24 (24)	0 (0)	22 (22)	
の	医学系研究科 先進的医科学専攻（博士後期課程）		7 (7)	3 (3)	1 (1)	6 (6)	17 (17)	0 (0)	1 (1)	
	理工学研究科 理学専攻（博士前期課程）		35 (37)	20 (20)	4 (4)	0 (0)	59 (61)	0 (0)	50 (51)	
設	理工学研究科 機械システム工学専攻（博士前期課程）		12 (13)	15 (15)	0 (0)	7 (7)	34 (35)	0 (0)	59 (59)	
	理工学研究科 地球共生圏科学専攻（博士後期課程）		34 (36)	19 (19)	3 (3)	0 (0)	56 (58)	0 (0)	3 (3)	
概	理工学研究科 物質化学工学専攻（博士後期課程）		10 (10)	5 (5)	0 (0)	4 (4)	19 (19)	0 (0)	2 (2)	
	理工学研究科 バイオ工学専攻（博士後期課程）		6 (6)	14 (14)	0 (0)	4 (4)	24 (24)	0 (0)	0 (0)	
要	理工学研究科 電子情報工学専攻（博士後期課程）		13 (14)	15 (15)	0 (0)	4 (4)	32 (33)	0 (0)	0 (0)	
	理工学研究科 機械システム工学専攻（博士後期課程）		10 (11)	11 (11)	0 (0)	1 (1)	22 (23)	0 (0)	0 (0)	
分	理工学研究科 ものづくり技術経営学専攻（博士後期課程）		2 (3)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	5 (6)	0 (0)	1 (1)	
	有機材料システム研究科 有機材料システム専攻（博士前期課程）		19 (19)	9 (9)	0 (0)	7 (7)	35 (35)	0 (0)	69 (69)	
要	有機材料システム研究科 有機材料システム専攻（博士後期課程）		19 (19)	9 (9)	0 (0)	6 (6)	34 (34)	0 (0)	10 (10)	
	教育実践研究科 教職実践専攻（専門職学位課程）		8 (8)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	0 (0)	
		計		229 (237)	170 (170)	40 (40)	164 (164)	603 (611)	0 (0)	— (—)
		合計		338 (348)	268 (268)	47 (47)	194 (194)	847 (857)	0 (0)	— (—)

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計					
	事 務 職 員		331 (331)	290 (290)	621 (621)					
	技 術 職 員		1,015 (1015)	227 (227)	1,242 (1242)					
	図 書 館 専 門 職 員		6 (6)	0 (0)	6 (6)					
	そ の 他 の 職 員		11 (11)	13 (13)	24 (24)					
	計		1,363 (1363)	530 (530)	1,893 (1893)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	374,451 m ²	— m ²	— m ²	374,451 m ²					
	運 動 場 用 地	125,722 m ²	— m ²	— m ²	125,722 m ²					
	小 計	500,173 m ²	— m ²	— m ²	500,173 m ²					
	そ の 他	7,927,854 m ²	— m ²	— m ²	7,927,854 m ²					
	合 計	8,428,027 m ²	— m ²	— m ²	8,428,027 m ²					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		206,034 m ² (206,034 m ²)	— m ² (— m ²)	— m ² (— m ²)	206,034 m ² (206,034 m ²)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設					
	102 室	75 室	359 室	17 室 (補助職員0人)	1 室 (補助職員0人)		大学全体			
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		社会文化創造研究科 社会文化創造専攻		99 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	研究科単位での 特定不能なため 大学全体の数		
	—	1,092,962 [317,660] (1,092,962 [317,660])	24,861 [7,066] (24,861 [7,066])	7,940 [5,873] (7,940 [5,873])	6,933 (6,933)	144 (144)	717 (717)			
	計	1,092,962 [317,660] (1,092,962 [317,660])	24,861 [7,066] (24,861 [7,066])	7,940 [5,873] (7,940 [5,873])	6,933 (6,933)	144 (144)	717 (717)			
図 書 館		面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
		12,866 m ²		1,422 席		1,060,056 冊				
体 育 館		面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要						
		7,067 m ²		陸 上 競 技 場		野 球 場				
				サ ッ カ ー 場		テ ニ ス コ ー ト				
				水 泳 プ ー ル (5 0 m)		武 道 場				
				弓 道 場		重 量 拳 練 習 場				
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次	国 費 (運 営 費 交 付 金) に よ る
		教員1人当り研究費等		—	—	—	—	—	—	
		共同研究費等		—	—	—	—	—	—	
		図書購入費	—	—	—	—	—	—	—	
	設備購入費	—	—	—	—	—	—	—	—	
	学生1人当り 納付金	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次			
	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要		—								
大 学 の 名 称		国立大学法人山形大学								
学 部 等 の 名 称		修 業 年 限	入 学 定 員	編 入 学 員	収 容 定 員	学 位 又 は 称 号	定 員 超 過 率	開 設 年 度	所 在 地	
人文社会科学部 人文社会科学科		4 年	290 人	3 年 次 20 人	1,200 人	学士 (文 学) 学士 (学 術) 学士 (法 学) 学士 (政 策 科 学) 学士 (経 済 学)	1.05 1.05	平成29年度 平成29年度	山形県山形市小白川町一丁目4番12号	

既設大学等の状況	人文学部							昭和42年度	山形県山形市小白川町一丁目4番12号			
	人間文化学科	4	—	—	—	学士（文学）	—	平成8年度		平成29年度より学生募集停止		
	法経政策学科	4	—	—	—	学士（法学） 学士（経済学） 学士（政策科学）	—	平成18年度		平成29年度より学生募集停止		
	地域教育文化学部							平成17年度	山形県山形市小白川町一丁目4番12号			
	地域教育文化学科		175	—	700	学士（教育学） 学士（学術）	1.03 1.03	平成24年度				
	理学部							1.04	昭和42年度	山形県山形市小白川町一丁目4番12号		
	理学科	4	210	—	840	学士（理学）	1.04	平成29年度				
	数理科学科	4	—	—	—	学士（理学）	—	平成7年度	平成29年度より学生募集停止			
	物理学科	4	—	—	—	学士（理学）	—	昭和42年度	平成29年度より学生募集停止			
	物質生命化学科	4	—	—	—	学士（理学）	—	平成7年度	平成29年度より学生募集停止			
	生物学科	4	—	—	—	学士（理学）	—	昭和42年度	平成29年度より学生募集停止			
	地球環境学科	4	—	—	—	学士（理学）	—	平成7年度	平成29年度より学生募集停止			
	医学部							1.00	昭和48年度	山形県山形市飯田西二丁目2番2号		
	医学科	6	105	—	720	学士（医学）	1.00	昭和48年度	令和2年度入学定員減（△15）			
	看護学科	4	60	3年次 5	250	学士（看護学）	1.00	平成5年度				
	工学部								1.03	昭和24年度	山形県米沢市城南四丁目3番16号	
	高分子・有機材料工学科	4	140	—	560	学士（工学）	1.03	平成29年度				
	化学・バイオ工学科	4	140	—	560	学士（工学）	1.03	平成29年度				
	情報・エレクトロニクス学科	4	150	—	600	学士（工学）	1.04	平成29年度				
	機械システム工学科	4	140	—	560	学士（工学）	1.04	平成2年度				
建築・デザイン学科	4	30	—	120	学士（工学）	1.03	平成29年度					
機能高分子工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成12年度	平成29年度より学生募集停止				
物質化学工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成12年度	平成29年度より学生募集停止				
バイオ化学工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成22年度	平成29年度より学生募集停止				
応用生命システム工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成12年度	平成29年度より学生募集停止				
情報科学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成12年度	平成29年度より学生募集停止				
電気電子工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成12年度	平成29年度より学生募集停止				
システム創成工学科	4	50	—	200	学士（工学）	1.05	平成22年度					
農学部								1.01	昭和24年度	山形県鶴岡市若葉町1番23号		
食料生命環境学科	4	165	—	660	学士（農学）	1.01	平成22年度					
社会文化システム研究科									平成9年度	山形県山形市小白川町一丁目4番12号		
（修士課程）												
文化システム専攻	2	6	—	12	修士（文学）	1.58	平成9年度					
社会システム専攻	2	6	—	12	修士（政策科学）	0.74	平成9年度					
地域教育文化研究科									平成21年度	山形県山形市小白川町一丁目4番12号		
（修士課程）												
臨床心理学専攻	2	6	—	12	修士（臨床心理学）	0.99	平成21年度					
文化創造専攻	2	8	—	16	修士（学術）	0.99	平成21年度					
医学系研究科									昭和54年度	山形県山形市飯田西二丁目2番2号		
（博士課程）												
医学専攻	4	26	—	104	博士（医学）	0.92	昭和54年度					
（博士前期課程）												
看護学専攻	2	16	—	32	修士（看護学）	0.65	平成9年度					
先進的医科学専攻	2	6	—	21	修士（医科学）	0.26	平成29年度	令和2年度入学定員減（△9）				
（博士後期課程）												
看護学専攻	3	3	—	9	博士（看護学）	1.10	平成19年度					
先進的医科学専攻	3	4	—	22	博士（医科学）	0.51	平成29年度	令和2年度入学定員減（△5）				

生命環境医科学専攻	3	—	—	—	博士 (医科学)	—	平成16年度		平成29年度より学生募集停止
理工学研究科							昭和45年度		
(博士前期課程)									
理学専攻	2	53	—	106	修士 (理学)	1.02	平成29年度	山形県山形市小白川町一丁目4番12号	
物質化学工学専攻	2	38	—	76	修士 (工学)	1.13	平成16年度	山形県米沢市城南四丁目3番16号	
バイオ化学工学専攻	2	28	—	56	修士 (工学)	0.99	平成22年度	〃	
応用生命システム工学専攻	2	23	—	46	修士 (工学)	1.08	平成16年度	〃	
情報科学専攻	2	28	—	56	修士 (工学)	1.08	平成16年度	〃	
電気電子工学専攻	2	34	—	68	修士 (工学)	1.04	平成16年度	〃	
機械システム工学専攻	2	50	—	100	修士 (工学)	1.30	平成5年度	〃	
ものづくり技術経営学専攻	2	10	—	20	修士 (工学)	1.00	平成17年度	〃	
(博士後期課程)									
地球共生圏科学専攻	3	5	—	15	博士 (理学) 博士 (工学) 博士 (学術)	0.80	平成11年度	山形県山形市小白川町一丁目4番12号	
物質化学工学専攻	3	3	—	9	博士 (工学)	0.99	平成28年度	山形県米沢市城南四丁目3番16号	
バイオ工学専攻	3	4	—	12	博士 (工学) 博士 (学術)	0.41	平成22年度	〃	
電子情報工学専攻	3	4	—	12	博士 (工学) 博士 (学術)	0.75	平成22年度	〃	
機械システム工学専攻	3	3	—	9	博士 (工学) 博士 (学術)	0.77	平成22年度	〃	
ものづくり技術経営学専攻	3	2	—	6	博士 (工学) 博士 (学術)	0.83	平成19年度	〃	
有機材料工学専攻	3	—	—	—	博士 (工学) 博士 (学術)	—	平成22年度	〃	平成28年度より学生募集停止
有機材料システム研究科							平成28年度	山形県米沢市城南四丁目3番16号	
(博士前期課程)									
有機材料システム専攻	2	85	—	150	修士 (工学)	1.19	平成28年度		令和2年度入学生定員増(20)
(博士後期課程)									
有機材料システム専攻	3	10	—	20	博士 (工学)	0.80	平成28年度		
農学研究科							昭和45年度	山形県鶴岡市若葉町1番23号	
(修士課程)									
生物生産学専攻	2	12	—	26	修士 (農学)	0.50	平成7年度		令和2年度入学生定員減(△2)
生物資源学専攻	2	14	—	30	修士 (農学)	0.92	平成14年度		令和2年度入学生定員減(△2)
生物環境学専攻	2	10	—	22	修士 (農学)	0.99	平成7年度		令和2年度入学生定員減(△2)
教育実践研究科							平成21年度	山形県山形市小白川町一丁目4番12号	
(専門職学位課程)									
教職実践専攻	2	20	—	40	教職修士 (専門職)	1.05	平成21年度		
<p>名称：医学部附属病院 目的：診療を通して、教育、研究及び学生の臨床実習の場を提供する。 所在地：山形県山形市飯田西二丁目2番2号 設置年月：昭和51年5月 規模：土地 71,275 m²、建物 56,181 m²</p> <p>名称：農学部附属やまがたフィールド科学センター（農場・演習林） 目的：環境保全型農林業の実践教育や自然と人間との関係を結ぶ体験学習の場を提供する。 所在地：（農場）山形県鶴岡市高坂字古町5番3号 （演習林）山形県鶴岡市上名川字早田川10 設置年月：昭和24年5月 規模：（農場）土地 240,655 m²、建物 4,067 m² （演習林）土地 7,530,908 m²、建物 885 m²</p>									

附属施設の概要	<p>名称：ものづくりセンター（実習工場）</p> <p>目的：工学部の全学科を対象とした実習工場としての場を提供する。</p> <p>所在地：山形県米沢市城南四丁目3番16号</p> <p>設置年月：平成22年4月</p> <p>規模：工学部敷地内、建物 2,434 m²</p>
	<p>名称：附属学校（幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校）</p> <p>目的：教育実習指導、大学との共同研究に取り組み、地域教育の拠点となる。</p> <p>所在地：（附属幼稚園）山形県山形市松波二丁目7番1号 （附属小学校）山形県山形市松波二丁目7番2号 （附属中学校）山形県山形市松波二丁目7番3号 （附属特別支援学校）山形県山形市飯田西三丁目2番55号</p> <p>設置年月：昭和26年4月（幼稚園、小学校、中学校） 昭和49年4月（特別支援学校）</p> <p>規模：（附属幼稚園）土地 13,442 m²、建物 992 m² （附属小学校）土地 21,791 m²、建物 7,535 m² （附属中学校）土地 24,761 m²、建物 6,852 m² （附属特別支援学校）土地 19,831 m²、建物 3,982 m²</p>
	<p>名称：保健管理センター</p> <p>目的：学生及び職員の保健管理に関する専門的業務を行い、もって健康の保持増進を図る。</p> <p>所在地：山形県山形市小白川町一丁目4番12号</p> <p>設置年月：昭和58年4月</p> <p>規模：小白川キャンパス内、500 m²</p>
	<p>名称：教育開発連携支援センター</p> <p>目的：教育方法等の改善及び教育の社会連携に関する業務を行う。</p> <p>所在地：山形県山形市小白川町一丁目4番12号</p> <p>設置年月：平成23年4月</p> <p>規模：人的構成組織</p>
	<p>名称：ナスカ研究所</p> <p>目的：ナスカ研究を推進する。</p> <p>所在地：Lote R Residencial Bisambra 1 de Nasca, Calle Las Acacias, Nasca, Ica, Peru</p> <p>設置年月：平成24年10月</p> <p>規模：土地 536 m²、建物 291 m²</p>
	<p>名称：人文社会科学部附属映像文化研究所</p> <p>目的：映像文化研究と映像文化に関連する教育を推進する。</p> <p>所在地：山形県山形市小白川町一丁目4番12号</p> <p>設置年月：平成26年12月</p> <p>規模：人的構成組織</p>
	<p>名称：人文社会科学部附属やまがた地域社会研究所</p> <p>目的：自治体や団体などが個別に抱える具体的課題に対し、調査研究を実施し問題点を解明する。</p> <p>所在地：山形県山形市小白川町一丁目4番12号</p> <p>設置年月：平成26年12月</p> <p>規模：人的構成組織</p>
	<p>名称：教職研究総合センター</p> <p>目的：教職課程の整備充実を図るとともに、地域の教育力の向上に貢献する。</p> <p>所在地：山形県山形市小白川町一丁目4番12号</p> <p>設置年月：平成17年4月</p> <p>規模：人的構成組織</p>

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る教を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校に収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「－」又は「該当なし」と記入すること。

国立大学法人山形大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
山形大学				山形大学				
人文社会科学部		3年次		人文社会科学部		3年次		
人文社会科学科	290	20	1,200	人文社会科学科	290	20	1,200	
地域教育文化学部				地域教育文化学部				
地域教育文化学科	175	—	700	地域教育文化学科	175	—	700	
理学部				理学部				
理学科	210	—	840	理学科	210	—	840	
医学部				医学部				
医学科(6年制)	105	—	630	医学科(6年制)	105	—	630	
看護学科	60	3年次 5	250	看護学科	60	3年次 5	250	
工学部				工学部				
高分子・有機材料工学科	140	—	560	高分子・有機材料工学科	140	—	560	
化学・バイオ工学科	140	—	560	化学・バイオ工学科	140	—	560	
情報・エレクトロニクス学科	150	—	600	情報・エレクトロニクス学科	150	—	600	
機械システム工学科	140	—	560	機械システム工学科	140	—	560	
建築・デザイン学科	30	—	120	建築・デザイン学科	30	—	120	
システム創成工学科	50	—	200	システム創成工学科	50	—	200	
農学部				農学部				
食料生命環境学科	165	—	660	食料生命環境学科	165	—	660	
計	1,655	25	6,880	計	1,655	25	6,880	
山形大学大学院				山形大学大学院				
社会文化システム研究科								
文化システム専攻(M)	6	—	12		0	—	0	令和3年4月学生募集停止
社会システム専攻(M)	6	—	12		0	—	0	令和3年4月学生募集停止
地域教育文化研究科								
臨床心理学専攻(M)	6	—	12		0	—	0	令和3年4月学生募集停止
文化創造専攻(M)	8	—	16		0	—	0	令和3年4月学生募集停止
医学系研究科				<u>社会文化創造研究科</u>				研究科の設置(事前伺い)
医学専攻(4年制D)	26	—	104	<u>社会文化創造専攻(M)</u>	24	—	48	研究科の専攻の設置(事前伺い)
看護学専攻(M)	16	—	32	医学系研究科				
先進的医科学専攻(M)	6	—	12	医学専攻(4年制D)	26	—	104	
看護学専攻(D)	3	—	9	看護学専攻(M)	16	—	32	
先進的医科学専攻(D)	4	—	12	先進的医科学専攻(M)	6	—	12	
理工学研究科				看護学専攻(D)	3	—	9	
理学専攻(M)	53	—	106	先進的医科学専攻(D)	4	—	12	
機械システム工学専攻(M)	50	—	100	理工学研究科				
物質化学工学専攻(M)	38	—	76	理学専攻(M)	53	—	106	
バイオ化学工学専攻(M)	28	—	56	機械システム工学専攻(M)	50	—	100	
応用生命システム工学専攻(M)	23	—	46		0	—	0	令和3年4月学生募集停止
情報科学専攻(M)	28	—	56		0	—	0	令和3年4月学生募集停止
電気電子工学専攻(M)	34	—	68		0	—	0	令和3年4月学生募集停止
ものづくり技術経営学専攻(M)	10	—	20		0	—	0	令和3年4月学生募集停止
地球共生圏科学専攻(D)	5	—	15		0	—	0	令和3年4月学生募集停止
物質化学工学専攻(D)	3	—	9		0	—	0	令和3年4月学生募集停止
バイオ工学専攻(D)	4	—	12		0	—	0	令和3年4月学生募集停止
電子情報工学専攻(D)	4	—	12		0	—	0	令和3年4月学生募集停止
機械システム工学専攻(D)	3	—	9		0	—	0	令和3年4月学生募集停止
ものづくり技術経営学専攻(D)	2	—	6		0	—	0	令和3年4月学生募集停止
有機材料システム研究科					0	—	0	令和3年4月学生募集停止
有機材料システム専攻(M)	85	—	170		0	—	0	令和3年4月学生募集停止
有機材料システム専攻(D)	10	—	30		0	—	0	令和3年4月学生募集停止
農学研究科					0	—	0	令和3年4月学生募集停止
生物生産学専攻(M)	12	—	24		0	—	0	令和3年4月学生募集停止
生物資源学専攻(M)	14	—	28		0	—	0	令和3年4月学生募集停止
生物環境学専攻(M)	10	—	20		0	—	0	令和3年4月学生募集停止
教育実践研究科					0	—	0	令和3年4月学生募集停止
教職実践専攻(P)	20	—	40		32	—	64	研究科の専攻の設置(事前伺い)
計	517	—	1,124	計	491	—	1,072	

教 育 課 程 等 の 概 要														
(社会文化創造研究科 社会文化創造専攻)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基盤科目教育	地域創生・次世代形成・多文化共生論	1前	2			○			2					兼1 共同
	小計（1科目）	—	2	0	0	—			2	0	0	0	0	兼1
基礎専門科目	異分野連携論	1後		1		○								兼2 共同
	異分野実践研修	1通		1				○						兼2 共同
	キャリア・マネジメント	1前		1		○			1					
	研究者としての基礎スキル	1前		1		○			1	2				兼6 オムニバス 兼4 オムニバス
	データサイエンス	1後		1		○								
	Academic Skills : Scientific Presentations + Writing	1後		1		○								兼2 共同
	知財と倫理	1後		1		○								兼1 集中
	技術経営学概論	1前		1		○								兼4 集中
	食の未来を考える	1後		1		○								兼8 オムニバス
	Global Materials System Innovation	1前		1		○								兼1
	先端医学特論	1後		2		○								兼15オムニバス
小計（11科目）	—	0	12	0	—			2	2	0	0	0	兼39	
高度専門科目	社会文化創造論Ⅰ	1前	1			○			4					オムニバス
	社会文化創造論Ⅱ	1後	1			○			4					共同
	小計（2科目）	—	2	0	0	—			5	0	0	0	0	
社会文化システムプログラム	英語学特論	1前		2		○			1					
	英語語法論特論	1前		2		○			1					
	英語音声学特論	1前		2		○			1					
	生成文法論特論	1前		2		○				1				
	歴史言語学特論	1前		2		○			1					
	異文化間コミュニケーション論特論	1前		2		○			1					
	心理言語学特論	1前		2		○				1				
	比較文化論特論	1前		2		○			1					
	英米現代文化論特論	1前		2		○				1				
	イギリス近現代文化論特論	1前		2		○			1					
	英語学特別演習	1後		2				○	1					
	英語語法論特別演習	1後		2				○	1					
	英語音声学特別演習	1後		2				○	1					
	生成文法論特別演習	1後		2				○		1				
	歴史言語学特別演習	1後		2				○	1					
	異文化間コミュニケーション論特別演習	1後		2				○	1					
	心理言語学特別演習	1後		2				○		1				
	比較文化論特別演習	1後		2				○	1					
	英米現代文化論特別演習	1後		2				○		1				
	イギリス近現代文化論特別演習	1後		2				○	1					
	言語・文化学特別演習	2前		2				○	7	3				
	日本語文法論特論	1前		2		○			1					
	日本語学特論	1前		2		○			1					
	言語学特論	1前		2		○			1					
	比較文学論特論	1前		2		○			1					
	日本古典文学特論	1前		2		○				1				
	日本近代文学特論	1前		2		○			1					
日本語文法論特別演習	1後		2				○	1						
日本語学特別演習	1後		2				○	1						
言語学特別演習	1後		2				○	1						

	比較文学論特別演習	1後	2			○		1					
	日本古典文学特別演習	1後	2			○			1				
	日本近代文学特別演習	1後	2			○		1					
	日本学特別演習	2前	2			○		5	1				
	心理科学特論A	1前	2		○				1				
	心理科学特論B	1前	2		○				1				
	人間情報科学特論	1前	2		○			1					
	哲学特論	1前	2		○			1					
	表象文化理論特論	1前	2		○				1				
	美学・芸術史特論	1前	2		○			1					
	心理科学特別演習A	1後	2			○			1				
	心理科学特別演習B	1後	2			○			1				
	人間情報科学特別演習	1後	2			○		1					
	哲学特別演習	1後	2			○		1					
	表象文化理論特別演習	1後	2			○			1				
	美学・芸術史特別演習	1後	2			○		1					
	人間科学・思想文化学特別演習	2前	2			○		3	3				
	日本近世史特論	1前	2		○			1					
	日本近代史特論	1前	2		○				1				
	北アジア史特論	1前	2		○				1				
	グローバル経済史特論	1前	2		○					1			
	ドイツ史特論	1前	2		○			1					
	日本近世史特別演習	1後	2			○		1					
	日本近代史特別演習	1後	2			○			1				
	北アジア史特別演習	1後	2			○			1				
	グローバル経済史特別演習	1後	2			○				1			
	ドイツ史特別演習	1後	2			○		1					
	歴史文化学特別演習	2前	2			○		2	2	1			
	中国古代中世文化論特論	1前	2		○			1					
	東アジア近現代文化論特論	1前	2		○				1				
	東南アジア文化論特論	1前	2		○				1				
	北東アジア文化論特論	1前	2		○				1				
	ドイツ文化論特論	1前	2		○				1				
	ドイツ現代文化論特論	1前	2		○				1				
	ロシア文化論特論	1前	2		○			1					
	フランス文化論特論	1前	2		○				1				
	中国古代中世文化論特別演習	1後	2			○		1					
	東アジア近現代文化論特別演習	1後	2			○			1				
	東南アジア文化論特別演習	1後	2			○			1				
	北東アジア文化論特別演習	1後	2			○			1				
	ドイツ文化論特別演習	1後	2			○			1				
	ドイツ現代文化論特別演習	1後	2			○			1				
	ロシア文化論特別演習	1後	2			○		1					
	フランス文化論特別演習	1後	2			○			1				
	グローバル文化学特別演習	2前	2			○		2	6				
	言語・文化学特別研究Ⅰ	1前・後	4			○		7	3				
	言語・文化学特別研究Ⅱ	2前・後	4			○		7	3				
	日本学特別研究Ⅰ	1前・後	4			○		5	1				
	日本学特別研究Ⅱ	2前・後	4			○		5	1				
	人間科学・思想文化学特別研究Ⅰ	1前・後	4			○		3	3				
	人間科学・思想文化学特別研究Ⅱ	2前・後	4			○		3	3				
	歴史文化学特別研究Ⅰ	1前・後	4			○		2	2				
	歴史文化学特別研究Ⅱ	2前・後	4			○		2	2				
	グローバル文化学特別研究Ⅰ	1前・後	4			○		2	5				
	グローバル文化学特別研究Ⅱ	2前・後	4			○		2	5				
	小計(85科目)	—	0	190	0	—		19	15	1	0	0	
考古人類学プロ	人類学・考古学特論A	1前	2			○		1	3				オムニバス
	人類学・考古学特論B	1前	2			○		1	3				オムニバス
	人類学・考古学特論C	1前	2			○		1	3				オムニバス
	人類学・考古学特論D	1前	2			○		1	3				オムニバス
	人類学・考古学特別演習A	1後	2			○		1	3				オムニバス

レ グ ラ ム	人類学・考古学特別演習B	1後	2		○	1	3				オムニハス
	人類学・考古学特別演習C	1後	2		○	1	3				オムニハス
	人類学・考古学特別演習D	1後	2		○	1	3				オムニハス
	考古人類学特別演習	2前	2		○	1	3				オムニハス
	考古人類学特別研究 I	1前・後	4		○	1	3				
	考古人類学特別研究 II	2前・後	4		○	1	3				
小計 (11科目)		—	0	26	0	—	1	3	0	0	0
社 会 シ ス テ ム プ ロ グ ラ ム	人権論特論	1前	2		○	1					
	行政法特論	1前	2		○		1				
	刑法特論	1前	2		○	1					
	刑事訴訟法特論	1前	2		○	1					
	公共経済学特論	1前	2		○	1					
	財政学特論	1前	2		○		1				
	統治組織論特論	1前	2		○	1					
	社会経済システム論特論	1前	2		○		1				
	経済学史特論	1前	2		○	1					
	行政学特論	1前	2		○			1			
	マクロ経済学特論	1前	2		○			1			
	公共政策学特論	1前	2		○			1			
	法哲学特論	1前	2		○			1			
	計量社会学特論	1前	2		○	1					
	家族社会学特論	1前	2		○			1			
	環境地理学特論	1前	2		○	1					
	都市計画特論	1前	2		○	1					
	地域政策学特論	1前	2		○				1		
	環境経済学特論	1前	2		○			1			
	人権論特別演習	1後	2			○	1				
	行政法特別演習	1後	2			○		1			
	刑法特別演習	1後	2			○	1				
	刑事訴訟法特別演習	1後	2			○	1				
	公共経済学特別演習	1後	2			○	1				
	財政学特別演習	1後	2			○		1			
	統治組織論特別演習	1後	2			○	1				
	社会経済システム論特別演習	1後	2			○		1			
	経済学史特別演習	1後	2			○	1				
	行政学特別演習	1後	2			○			1		
	マクロ経済学特別演習	1後	2			○		1			
	公共政策学特別演習	1後	2			○		1			
	法哲学特別演習	1後	2			○		1			
	計量社会学特別演習	1後	2			○	1				
	家族社会学特別演習	1後	2			○		1			
	環境地理学特別演習	1後	2			○	1				
	都市計画特別演習	1後	2			○	1				
	地域政策学特別演習	1後	2			○			1		
	環境経済学特別演習	1後	2			○		1			
	公共システム特別演習	2前	2			○	9	8	4		
	企業経営論特論	1前	2		○				1		
比較会計学特論	1前	2		○		1					
株式会社論特論	1前	2		○		1					
計量経済学特論	1前	2		○		1					
ゲーム理論特論	1前	2		○		1					
経営情報特論	1前	2		○			1				
マーケティング論特論	1前	2		○			1				
中小企業論特論	1前	2		○			1				
民法特論A	1前	2		○		1					
民法特論B	1前	2		○		1					
雇用関係法特論	1前	2		○		1					
商法特論	1前	2		○		1					
企業経営論特別演習	1後	2			○			1			
比較会計学特別演習	1後	2			○	1					
株式会社論特別演習	1後	2			○	1					

		計量経済学特別演習	1後	2		○		1							
		ゲーム理論特別演習	1後	2		○		1							
		経営情報特別演習	1後	2		○			1						
		マーケティング論特別演習	1後	2		○			1						
		中小企業論特別演習	1後	2		○			1						
		民法特別演習A	1後	2		○		1							
		民法特別演習B	1後	2		○		1							
		雇用関係法特別演習	1後	2		○		1							
		商法特別演習	1後	2		○		1							
		企業システム特別演習	2前	2		○		8	3	1					
		国際政治特論	1前	2		○		1							
		グローバル・ガバナンス論特論	1前	2		○			1						
		国際法特論	1前	2		○			1						
		現代中国政治特論	1前	2		○			1						
		国際取引法特論	1前	2		○		1							
		国際金融論特論	1前	2		○		1							
		国際経済論特論	1前	2		○				1					
		国際政治特別演習	1後	2		○		1							
		グローバル・ガバナンス論特別演習	1後	2		○			1						
		国際法特別演習	1後	2		○			1						
		現代中国政治特別演習	1後	2		○			1						
		国際取引法特別演習	1後	2		○		1							
		国際金融論特別演習	1後	2		○		1							
		国際経済論特別演習	1後	2		○				1					
		国際システム特別演習	2前	2		○		3	3	1					
		公共システム特別研究Ⅰ	1前・後	4		○		9	6						
		公共システム特別研究Ⅱ	2前・後	4		○		9	6						
		企業システム特別研究Ⅰ	1前・後	4		○		8	3						
		企業システム特別研究Ⅱ	2前・後	4		○		8	3						
		国際システム特別研究Ⅰ	1前・後	4		○		3	2						
		国際システム特別研究Ⅱ	2前・後	4		○		3	2						
		小計(85科目)	—	0	182	0	—	20	14	4	0	0			
臨床心理学コース	臨床心理学に関する必修科目	臨床心理学特論A	1前	2		○		1							
		臨床心理学特論B	1後	2		○		1							
		臨床心理学面接特論A(心理支援に関する理論と実践)	1前	2		○				1					
		臨床心理学面接特論B	1後	2		○			1						
		臨床心理学査定演習A(心理的アセスメントに関する理論と実践)	1前	2		○				1					
		臨床心理学査定演習B	1後	2		○			1						
		臨床心理学基礎実習	1通	2				○	1	1	1				ホムニバス
		臨床心理実習A(心理実践実習A)	2通	4				○	2						兼1 共同
		臨床心理実習B	2通	1				○	2						兼1 共同
		A群	心理学特別演習(統計)	1前	2			○							
	心理学研究法特論		1前	2			○		1						
	B群	発達心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)	1後	2			○				1				
		教育心理学特論(教育分野に関する理論と支援の展開)	1後	2			○				1				
	C群	家族心理学特論(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	1後	2			○				1				
		犯罪心理学特論(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	1前	2			○				1				
	D群	精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)	1前	2			○								兼1
		大脳生理学特論	1前	2			○								兼1
	E群	心理療法特論	1前	2			○					1			
		投映法特論	1後	2			○								兼1
		産業臨床心理学特論(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	1後	2			○								兼1

		心の健康教育に関する理論と実践	1後	2		○				1							
		心理学実践実習基礎	1通	2				○		3	2	1				共同	
		心理実践実習B	2通	1				○		3	2	1				共同	
		心理実践実習C	2通	2				○		3	2	1				共同	
		心理実践実習D	2通	1				○		3	2	1				共同	
		課題研究 I	1通	2				○		3	2	1					
		課題研究 II	2通	2				○		3	2	1					
		小計 (27科目)	—	0	53	0		—		3	2	1	0	0		兼5	
芸術・スポーツ科学コース	スポーツ科学プログラム	文化コーディネート実習 (スポーツ)	2通	2				○		3	2	1				共同	
		地域社会文化実習 (スポーツ)	1後	1					○		1						
		地域スポーツ実践特別演習	1前	2				○		3	2	1					共同
		生涯スポーツ特論	1前	2			○			1			1				
		スポーツ教育学特論	1前	2			○						1				
		コーチング学特論	1前	2			○						1				
		トレーニング科学特論	1前	2			○			1							
		パフォーマンス解析特論	1前	2			○						1				
		スポーツ心理学特論	1前	2			○						1				
		スポーツ文化論特論	1前	2			○			1							
		スポーツ栄養学特論	1前	2			○						1				
		人間栄養科学特論	1前	2			○						1				
		食健康科学特論	1前	2			○			1							
		生涯スポーツ論特別演習	1後	2					○		1						
		スポーツ教育学特別演習	1後	2					○					1			
		コーチング学特別演習	1後	2					○					1			
		トレーニング科学特別演習	1後	2					○		1						
		パフォーマンス解析特別演習	1後	2					○				1				
		スポーツ心理学特別演習	1後	2					○				1				
		スポーツ栄養学特別演習	1後	2					○				1				
		人間栄養科学特別演習	1後	2					○				1				
		食健康科学特別演習	1後	2					○		1						
		スポーツ科学特別研究 I	1前・後	4					○		3	4					
		スポーツ科学特別研究 II	2前・後	4					○		3	4					
		小計 (24科目)	—	0	51	0		—		4	4	1	0	0			
音楽芸術プログラム	音楽芸術プログラム	文化コーディネート実習 (音楽)	2通	2				○		2	1					共同	
		地域社会文化実習 (音楽)	1後	1					○		1						
		地域音楽活動実践特論	1前	2			○			1							
		地域音楽活動実践特別演習	1後	2					○		1						
		舞台芸術実習	2通	2						○		1					兼1 共同
		音楽表現特別演習 (声楽) A	1前	2					○								兼1
		音楽表現特別演習 (声楽) B	1後	2					○								兼1
		音楽表現特別演習 (ピアノ) A	1前	2					○		1						
		音楽表現特別演習 (ピアノ) B	1後	2					○		1						
		音楽表現特別演習 (管弦打) A	1前	2					○								兼1
		音楽表現特別演習 (管弦打) B	1後	2					○								兼1
		作曲特論	1前	2			○					1					
		作曲特別演習	1後	2			○						1				
		音楽教育学特論	1前	2			○				1						
		音楽教育学特別演習	1後	2					○		1						
		室内楽特別演習 (声楽) A	1前	2					○		1						兼1 共同
		室内楽特別演習 (声楽) B	1後	2					○		1						兼1 共同
		室内楽特別演習 (管弦打) A	1前	2					○		1						
		室内楽特別演習 (管弦打) B	1後	2					○		1						
		舞台芸術特別演習 A	1前	2					○		1						兼1 共同
		舞台芸術特別演習 B	1後	2					○		1						兼1 共同
		伝統音楽特論	1前	2			○										兼1
		総合音楽学特論	1後	2			○										兼1
		音楽芸術特別研究 I	1前・後	4					○		3	1					兼1
音楽芸術特別研究 II	2前・後	4					○		3	1					兼1		
		小計 (25科目)	—	0	53	0		—		3	1	0	0	0		兼2	
造形芸術		文化コーディネート実習 (造形)	2通	2				○		1							
		地域社会文化実習 (造形)	1後	1					○		1						

美術プログラム	伝統文化特論	1前	2	○											兼1
	美術史特論	1前	2	○			1								
	アートマネジメント特論	1後	2	○			1								
	デザイン方法特論	1前	2	○											兼1
	美術教育学特論	1前	2	○			1								
	美術教育学特別演習	1後	2		○		1								
	絵画表現特別演習	1前	2		○		1								
	彫刻表現特別演習	1前	2		○			1							
	美術史特別演習	1後	2		○		1								
	平面造形特別演習	1後	2		○		1								
	立体造形特別演習	1後	2		○			1							
	デザイン表現特別演習	1後	2		○										兼1
	造形芸術特別研究Ⅰ	1前・後	4		○		2								
	造形芸術特別研究Ⅱ	2前・後	4		○		2								
	小計 (16科目)	—	0	35	0	—	2	1	0	0	0				

合計 (287科目)	—	4	602	0	—	52	40	7	0	0				兼53
------------	---	---	-----	---	---	----	----	---	---	---	--	--	--	-----

学位又は称号	修士 (文学) 修士 (政策科学) 修士 (臨床心理学) 修士 (学術)	学位又は学科の分野	文学関係、法学関係、経済学関係、 美術関係、音楽関係、体育関係
--------	---	-----------	------------------------------------

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
修士課程に2年以上在学し、30単位以上（臨床心理学コースに関しては39単位以上）を習得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文または特定の課題についての研究成果の審査及び最終試験に合格することとする。 【社会文化システムコース】 基盤教育科目から2単位（必修科目）、基礎専門科目から2単位以上（選択必修科目）、研究科共通科目から2単位（必修科目）、高度専門科目から24単位以上（選択必修科目：教育プログラムから特論4単位・特別演習4単位・特別研究8単位、所属コースで開講される授業科目から4単位及び本研究科で開講される授業科目から4単位を含むこと）を修得し、30単位以上修得すること。 【臨床心理学コース】 基盤教育科目から2単位（必修科目）、基礎専門科目から2単位以上（選択必修科目）、研究科共通科目から2単位（必修科目）、高度専門科目から33単位以上（選択必修科目：臨床心理学に関する必修科目19単位、A・B・C・D・Eの5つの科目群からそれぞれ2単位ずつの計10単位及び課題研究4単位を含むこと）を修得し、39単位以上修得すること。 【芸術・スポーツ科学コース】 基盤教育科目から2単位（必修科目）、基礎専門科目から2単位以上（選択必修科目）、研究科共通科目から2単位（必修科目）、高度専門科目から24単位以上（選択必修科目：教育プログラムから「文化コーディネート実習」2単位を含む12単位（音楽芸術プログラムにおいては地域音楽活動実践特論2単位及び地域音楽活動実践特別演習2単位を含むこと）、特別研究8単位及び本研究科で開講される授業科目から4単位を含むこと）を修得し、30単位以上修得すること。	1 学年の学期区分	2 期
	1 学期の授業期間	1 5 週
	1 時限の授業時間	9 0 分

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教育課程等の概要															
（【既設】社会文化システム研究科 文化システム専攻）															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
人間科学 言語科学	英語学特論Ⅰ	1前		2		○			1						
	英語学特論Ⅱ	2前		2		○			1						
	音韻論特論Ⅰ	1前		2		○								兼1	
	音韻論特論Ⅱ	2前		2		○								兼1	
	英語語法論特論Ⅰ	1前		2		○			1						
	英語語法論特論Ⅱ	2前		2		○			1						
	英語音声学特論Ⅰ	1前		2		○			1						
	英語音声学特論Ⅱ	2前		2		○			1						
	英語語彙論特論Ⅰ	1前		2		○								兼1	
	英語語彙論特論Ⅱ	2前		2		○								兼1	
	社会言語学特論Ⅰ	1前		2		○								兼1	
	社会言語学特論Ⅱ	2前		2		○								兼1	
	生成文法論特論Ⅰ	1前		2		○				1					
	生成文法論特論Ⅱ	2前		2		○				1					
	日本語意味論特論Ⅰ	1前		2		○				1					
	日本語意味論特論Ⅱ	2前		2		○				1					
	日本語史特論Ⅰ	1前		2		○				1					
	日本語史特論Ⅱ	2前		2		○				1					
	言語学特論Ⅰ	1前		2		○				1					
	言語学特論Ⅱ	2前		2		○				1					
	歴史言語学特論Ⅰ	1前		2		○				1					
	歴史言語学特論Ⅱ	2前		2		○				1					
	異文化間コミュニケーション論特論Ⅰ	1前		2		○				1					
	異文化間コミュニケーション論特論Ⅱ	2前		2		○				1					
	心理言語学特論Ⅰ	1前		2		○					1				
	心理言語学特論Ⅱ	2前		2		○					1				
	英語学特別演習	1後		2				○		1					
	音韻論特別演習	1後		2				○							兼1
	英語語法論特別演習	1後		2				○		1					
	英語音声学特別演習	1後		2				○		1					
	英語語彙論特別演習	1後		2				○							兼1
	社会言語学特別演習	1後		2				○							兼1
	生成文法論特別演習	1後		2				○			1				
日本語意味論特別演習	1後		2				○		1						
日本語史特別演習	1後		2				○		1						
言語学特別演習	1後		2				○		1						
歴史言語学特別演習	1後		2				○		1						
異文化間コミュニケーション論特別演習	1後		2				○		1						
心理言語学特別演習	1後		2				○			1					
言語科学特別研究Ⅰ	1前・後		4				○		8	2					
言語科学特別研究Ⅱ	2前・後		4				○		8	2					
小計（41科目）				86			—		8	2				兼3	
心理・情報	実験心理学特論Ⅰ	1前		2		○				1					
	実験心理学特論Ⅱ	2前		2		○				1					
	実験心理学特論Ⅲ	1前		2		○				1					
	実験心理学特論Ⅳ	2前		2		○				1					
	対人行動論特論Ⅰ	1前		2		○				1					
	対人行動論特論Ⅱ	2前		2		○				1					

		社会心理学特論 I	1前	2	○								兼1	
		社会心理学特論 II	2前	2	○								兼1	
		人間情報科学特論 I	1前	2	○			1						
		人間情報科学特論 II	2前	2	○			1						
		実験心理学特別演習 I	1後	2		○			1					
		実験心理学特別演習 II	1後	2		○			1					
		対人行動論特別演習	1後	2		○			1					
		社会心理学特別演習	1後	2		○							兼1	
		人間情報科学特別演習	1後	2		○		1						
		心理・情報特別研究 I	1前・後	4		○		1	3					
		心理・情報特別研究 II	2前・後	4		○		1	3					
		小計 (17科目)		38		—		1	3				兼1	
思想 歴史 論	思想 文化	ヨーロッパ近世近代思想文化論特論 I	1前	2	○								兼1	
		ヨーロッパ近世近代思想文化論特論 II	2前	2	○								兼1	
		ヨーロッパ現代思想文化論特論 I	1前	2	○								兼1	
		ヨーロッパ現代思想文化論特論 II	2前	2	○								兼1	
		英米哲学特論 I	1前	2	○			1						
		英米哲学特論 II	2前	2	○			1						
		ヨーロッパ近世近代思想文化論特別演習	1後	2		○							兼1	
		ヨーロッパ現代思想文化論特別演習	1後	2		○							兼1	
		英米哲学特別演習	1後	2		○		1						
		思想文化特別研究 I	1前・後	4		○		1						
		思想文化特別研究 II	2前・後	4		○		1						
		小計 (11科目)		26		—		1				兼2		
歴史 文化		日本古代史特論 I	1前	2	○								兼1	
		日本古代史特論 II	2前	2	○								兼1	
		日本中世史特論 I	1前	2	○								兼1	
		日本中世史特論 II	2前	2	○								兼1	
		日本近世史特論 I	1前	2	○			1						
		日本近世史特論 II	2前	2	○			1						
		日本近代史特論 I	1前	2	○				1					
		日本近代史特論 II	2前	2	○				1					
		東アジア古代史特論 I	1前	2	○								兼1	
		東アジア古代史特論 II	2前	2	○								兼1	
		東アジア近世史特論 I	1前	2	○			1						
		東アジア近世史特論 II	2前	2	○			1						
		北アジア史特論 I	1前	2	○				1					
		北アジア史特論 II	2前	2	○				1					
		グローバル経済史特論 I	1前	2	○					1				
		グローバル経済史特論 II	2前	2	○					1				
		イギリス経済史特論 I	1前	2	○									兼1
		イギリス経済史特論 II	2前	2	○									兼1
		イギリス法制史特論 I	1前	2	○									兼1
		イギリス法制史特論 II	2前	2	○									兼1
		ドイツ史特論 I	1前	2	○			1						
		ドイツ史特論 II	2前	2	○			1						
		ロシア・東欧史特論 I	1前	2	○									兼1
		ロシア・東欧史特論 II	2前	2	○									兼1
		人類学・アンデス考古学特論 I	1前	2	○			1						
		人類学・アンデス考古学特論 II	2前	2	○			1						
		人類学・アンデス考古学特論 III	1前	2	○				1					
人類学・アンデス考古学特論 IV	2前	2	○				1							
人類学・アンデス考古学特論 V	1前	2	○				1							
人類学・アンデス考古学特論 VI	2前	2	○				1							
人類学・アンデス考古学特論 VII	1前	2	○				1							
人類学・アンデス考古学特論 VIII	2前	2	○				1							
		日本古代史特別演習	1後	2		○							兼1	
		日本中世史特別演習	1後	2		○							兼1	

		日本近世史特別演習	1後	2		○		1						
		日本近代史特別演習	1後	2		○			1					
		東アジア古代史特別演習	1後	2		○						兼1		
		東アジア近世史特別演習	1後	2		○		1						
		北アジア史特別演習	1後	2		○				1				
		グローバル経済史特別演習	1後	2		○					1			
		イギリス経済史特別演習	1後	2		○						兼1		
		イギリス法制史特別演習	1後	2		○						兼1		
		ドイツ史特別演習	1後	2		○		1						
		ロシア・東欧史特別演習	1後	2		○						兼1		
		人類学・アンデス考古学特別演習Ⅰ	1後	2		○		1						
		人類学・アンデス考古学特別演習Ⅱ	1後	2		○				1				
		人類学・アンデス考古学特別演習Ⅲ	1後	2		○				1				
		人類学・アンデス考古学特別演習Ⅳ	1後	2		○				1				
		歴史文化特別研究Ⅰ	1前・後	4		○		4	5					
		歴史文化特別研究Ⅱ	2前・後	4		○		4	5					
		小計(50科目)		104		—		4	5	1			兼6	
国際文化論	アジア文化	比較文学論特論Ⅰ	1前	2		○		1						
		比較文学論特論Ⅱ	2前	2		○		1						
		日本古代中世文化論特論Ⅰ	1前	2		○							兼1	
		日本古代中世文化論特論Ⅱ	2前	2		○							兼1	
		日本近現代文化論特論Ⅰ	1前	2		○		1						
		日本近現代文化論特論Ⅱ	2前	2		○		1						
		中国古典文化論特論Ⅰ	1前	2		○							兼1	
		中国古典文化論特論Ⅱ	2前	2		○							兼1	
		中国中世文化論特論Ⅰ	1前	2		○		1						
		中国中世文化論特論Ⅱ	2前	2		○		1						
		中国古代中世文化論特論Ⅰ	1前	2		○		1						
		中国古代中世文化論特論Ⅱ	2前	2		○		1						
		東アジア近現代文化論特論Ⅰ	1前	2		○				1				
		東アジア近現代文化論特論Ⅱ	2前	2		○				1				
		東南アジア文化論特論Ⅰ	1前	2		○				1				
		東南アジア文化論特論Ⅱ	2前	2		○				1				
		北東アジア文化論特論Ⅰ	1前	2		○				1				
		北東アジア文化論特論Ⅱ	2前	2		○				1				
		比較文学論特別演習	1後	2			○		1					
		日本古代中世文化論特別演習	1後	2			○						兼1	
		日本近現代文化論特別演習	1後	2			○		1					
		中国古典文化論特別演習	1後	2			○						兼1	
		中国中世文化論特別演習	1後	2			○		1					
		中国古代中世文化論特別演習	1後	2			○		1					
		東アジア近現代文化論特別演習	1後	2			○				1			
		東南アジア文化論特別演習	1後	2			○				1			
		北東アジア文化論特別演習	1後	2			○				1			
		アジア文化特別研究Ⅰ	1前・後	4		4		○		4	3			
		アジア文化特別研究Ⅱ	2前・後	4		4		○		4	3			
		小計(29科目)		62		—		4	3				兼2	
欧米文化		表象文化論(美学・芸術学)特論Ⅰ	1前	2		○							兼1	
		表象文化論(美学・芸術学)特論Ⅱ	2前	2		○							兼1	
		表象文化理論特論Ⅰ	1前	2		○				1				
		表象文化理論特論Ⅱ	2前	2		○				1				
		美学・芸術史特論Ⅰ	1前	2		○		1						
		美学・芸術史特論Ⅱ	2前	2		○		1						
		比較文化論特論Ⅰ	1前	2		○		1						
		比較文化論特論Ⅱ	2前	2		○		1						
		英米中世近世文化論特論Ⅰ	1前	2		○							兼1	
		英米中世近世文化論特論Ⅱ	2前	2		○							兼1	
		英米近世文化論特論Ⅰ	1前	2		○							兼1	

	英米近世文化論特論Ⅱ	2前	2	○							兼1
	英米近代文化論特論Ⅰ	1前	2	○			1				
	英米近代文化論特論Ⅱ	2前	2	○			1				
	英米現代文化論特論Ⅰ	1前	2	○				1			
	英米現代文化論特論Ⅱ	2前	2	○				1			
	ドイツ文化論特論Ⅰ	1前	2	○				1			
	ドイツ文化論特論Ⅱ	2前	2	○				1			
	ドイツ現代文化論特論Ⅰ	1前	2	○				1			
	ドイツ現代文化論特論Ⅱ	2前	2	○				1			
	ドイツ近代文化論特論Ⅰ	1前	2	○							兼1
	ドイツ近代文化論特論Ⅱ	2前	2	○							兼1
	ドイツ近世文化論特論Ⅰ	1前	2	○							兼1
	ドイツ近世文化論特論Ⅱ	2前	2	○							兼1
	ドイツ中世近世文化論特論Ⅰ	1前	2	○							兼1
	ドイツ中世近世文化論特論Ⅱ	2前	2	○							兼1
	フランス現代文化論特論Ⅰ	1前	2	○							兼1
	フランス現代文化論特論Ⅱ	2前	2	○							兼1
	フランス近世文化論特論Ⅰ	1前	2	○							兼1
	フランス近世文化論特論Ⅱ	2前	2	○							兼1
	ロシア文化論特論Ⅰ	1前	2	○			1				
	ロシア文化論特論Ⅱ	2前	2	○			1				
	ロシア東欧文学特論Ⅰ	1前	2	○							兼1
	ロシア東欧文学特論Ⅱ	2前	2	○							兼1
	イギリス近現代文化論特論Ⅰ	1前	2	○			1				
	イギリス近現代文化論特論Ⅱ	2前	2	○			1				
	フランス文化論特論Ⅰ	1前	2	○				1			
	フランス文化論特論Ⅱ	2前	2	○				1			
	表象文化論（美学・芸術学）特別演習	1後	2		○						兼1
	表象文化理論特別演習	1後	2		○			1			
	美学・芸術史特別演習	1後	2		○		1				
	比較文化論特別演習	1後	2		○		1				
	英米中世近世文化論特別演習	1後	2		○						兼1
	英米近世文化論特別演習	1後	2		○						兼1
	英米近代文化論特別演習	1後	2		○		1				
	英米現代文化論特別演習	1後	2		○			1			
	ドイツ文化論特別演習	1後	2		○			1			
	ドイツ現代文化論特別演習	1後	2		○			1			
	ドイツ近代文化論特別演習	1後	2		○						兼1
	ドイツ中世近世文化論特別演習	1後	2		○						兼1
	ドイツ近世文化論特別演習	1後	2		○						兼1
	フランス現代文化論特別演習	1後	2		○						兼1
	フランス近世文化論特別演習	1後	2		○						兼1
	ロシア文化論特別演習	1後	2		○		1				
	ロシア東欧文学特別演習	1後	2		○						兼1
	イギリス近現代文化論特別演習	1後	2		○		1				
	フランス文化論特別演習	1後	2		○			1			
	欧米文化特別研究Ⅰ	1前・後	4		○		5	4			
	欧米文化特別研究Ⅱ	2前・後	4		○		5	4			
	小計（59科目）		152		—		5	5			兼9
共通	情報処理実習	1後	2				○				兼1
	現代外国語（英語）Ⅰ	1前	2		○		1				
	現代外国語（英語）Ⅱ	1前・後	4		○		2				
	現代外国語（ドイツ語）	1前	2		○			1			
	現代外国語（フランス語）	1前	2		○			1			
	現代外国語（ロシア語）	1前	2		○		1				
	現代外国語（中国語）	1前	2		○		1				
	プロジェクト演習Ⅲ	1前	2			○					
	プロジェクト演習Ⅳ	1後	2			○					

	プロジェクト演習V	1前		2		○		1	3				
	プロジェクト演習VI	1後		2		○		1	3				
	小計 (11科目)			24		—		6	5				兼1
大学 共通	キャリア・マネジメント	1後		1		○		1					
	研究者としての基礎スキル	1前		1		○							兼7、オムニバス
	社会文化システム特論	1前		1		○		8					
	生涯学習特論	1前		2		○							兼4
	知財と倫理	1後		1		○							兼1
	Academic Skills: scientific Presentations + Writing	1後		1		○							兼1
	Career Designing Seminar	1前		2		○							兼1
	先端医科学特論	1後		2		○							兼15、オムニバス
	食の未来を考える	1後		1		○							兼8、オムニバス
小計 (9科目)			12		—		9					兼37	
合計 (227科目)		—		453		—		28	18	1			兼61
学位又は称号		修士 (文学)		学位又は学科の分野			文学関係						
卒業要件及び履修方法							授業期間等						
特別研究8単位, 専攻科目8単位 [特論4単位, 特別研究4単位], 共通科目4単位, 自由科目10単位以上を修得し, 30単位以上修得すること。							1 学年の学期区分		2期				
							1 学期の授業期間		15週				
							1 時限の授業時間		90分				

教育課程等の概要															
（【既設】社会文化システム研究科 社会システム専攻）															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
公共システム	現代社会システム論特論	1前		2		○									兼1
	人権論特論Ⅰ	1前		2		○				1					
	人権論特論Ⅱ	2前		2		○				1					
	行政法特論Ⅰ	1前		2		○					1				
	行政法特論Ⅱ	2前		2		○					1				
	刑法特論Ⅰ	1前		2		○					1				
	刑法特論Ⅱ	2前		2		○					1				
	刑事訴訟法特論Ⅰ	1前		2		○				1					
	刑事訴訟法特論Ⅱ	2前		2		○				1					
	刑事法特論Ⅰ	1前		2		○									兼1
	刑事法特論Ⅱ	2前		2		○									兼1
	地域経済論特論Ⅰ	1前		2		○									兼1
	地域経済論特論Ⅱ	2前		2		○									兼1
	地域産業連関論特論Ⅰ	1前		2		○									兼1
	地域産業連関論特論Ⅱ	2前		2		○									兼1
	地方財政論特論Ⅰ	1前		2		○									兼1
	地方財政論特論Ⅱ	2前		2		○									兼1
	公共経済学特論Ⅰ	1前		2		○					1				
	公共経済学特論Ⅱ	2前		2		○					1				
	財政学特論Ⅰ	1前		2		○						1			
	財政学特論Ⅱ	2前		2		○						1			
	統治組織論特論Ⅰ	1前		2		○					1				
	統治組織論特論Ⅱ	2前		2		○					1				
	社会経済システム論特論Ⅰ	1前		2		○						1			
	社会経済システム論特論Ⅱ	2前		2		○						1			
	イギリス経済学史特論Ⅰ	1前		2		○					1				
	イギリス経済学史特論Ⅱ	2前		2		○					1				
	行政学特論Ⅰ	1前		2		○							1		
	行政学特論Ⅱ	2前		2		○							1		
	社会政策特論Ⅰ	1前		2		○									兼1
	社会政策特論Ⅱ	2前		2		○									兼1
	マクロ経済学特論Ⅰ	1前		2		○						1			
	マクロ経済学特論Ⅱ	2前		2		○						1			
	家族法特論Ⅰ	1前		2		○									兼1
	家族法特論Ⅱ	2前		2		○									兼1
	公共政策学特論Ⅰ	1前		2		○						1			
	公共政策学特論Ⅱ	2前		2		○						1			
	経済政策論特論Ⅰ	1前		2		○						1			
	経済政策論特論Ⅱ	2前		2		○						1			
	法哲学特論Ⅰ	1前		2		○						1			
法哲学特論Ⅱ	2前		2		○						1				
人権論特別演習	1後		2					○		1					
行政法特別演習	1後		2					○			1				
刑法特別演習	1後		2					○			1				
刑事訴訟法特別演習	1後		2					○		1					
刑事法特別演習	1後		2					○						兼1	
地域経済論特別演習	1後		2					○						兼1	
地域産業連関論特別演習	1後		2					○						兼1	

	地方財政論特別演習	1後		2		○							兼1
	公共経済学特別演習	1後		2		○		1					
	財政学特別演習	1後		2		○			1				
	統治組織論特別演習	1後		2		○		1					
	社会経済システム論特別演習	1後		2		○			1				
	イギリス経済学史特別演習	1後		2		○		1					
	行政学特別演習	1後		2		○				1			
	社会政策特別演習	1後		2		○							兼1
	マクロ経済学特別演習	1後		2		○			1				
	家族法特別演習	1後		2		○							兼1
	公共政策学特別演習	1後		2		○				1			
	経済政策論特別演習	1後		2		○				1			
	法哲学特別演習	1後		2		○				1			
	公共政策特別研究 I	1前・後		4		○		5	7				
	公共政策特別研究 II	2前・後		4		○		5	7				
	小計 (63科目)			130		—		5	8	1			兼6
地域政策	地域社会論特論 I	1前		2		○							兼1
	地域社会論特論 II	2前		2		○							兼1
	計量社会学特論 I	1前		2		○		1					
	計量社会学特論 II	2前		2		○		1					
	家族社会学特論 I	1前		2		○				1			
	家族社会学特論 II	2前		2		○				1			
	環境地理学特論 I	1前		2		○			1				
	環境地理学特論 II	2前		2		○			1				
	都市計画特論 I	1前		2		○		1					
	都市計画特論 II	2前		2		○		1					
	地域政策学特論 I	1前		2		○					1		
	地域政策学特論 II	2前		2		○					1		
	環境経済学特論 I	1前		2		○			1				
	環境経済学特論 II	2前		2		○			1				
	地域社会論特別演習	1後		2			○						兼1
	計量社会学特別演習	1後		2			○		1				
	家族社会学特別演習	1後		2			○				1		
環境地理学特別演習	1後		2			○			1				
都市計画特別演習	1後		2			○		1					
地域政策学特別演習	1後		2			○				1			
環境経済学特別演習	1後		2			○			1				
地域政策特別研究 I	1前・後		4			○		2	2				
地域政策特別研究 II	2前・後		4			○		2	2				
	小計 (23科目)			50		—		2	2	2			兼1
企業システム	企業経営	企業経営論特論 I	1前		2		○				1		
	企業経営論特論 II	2前		2		○				1			
	比較会計学特論 I	1前		2		○		1					
	比較会計学特論 II	2前		2		○		1					
	経営情報特論 I	1前		2		○							兼1
	経営情報特論 II	2前		2		○							兼1
	日本産業構造分析特論 I	1前		2		○							兼1
	日本産業構造分析特論 II	2前		2		○							兼1
	株式会社論特論 I	1前		2		○		1					
	株式会社論特論 II	2前		2		○		1					
	計量経済学特論 I	1前		2		○		1					
	計量経済学特論 II	2前		2		○		1					
	ゲーム理論特論 I	1前		2		○		1					
	ゲーム理論特論 II	2前		2		○		1					
	経営システム特論 I	1前		2		○				1			
	経営システム特論 II	2前		2		○				1			
	マーケティング論特論 I	1前		2		○				1			
	マーケティング論特論 II	2前		2		○				1			

		管理会計特論Ⅰ	1前	2	○			1					
		管理会計特論Ⅱ	2前	2	○			1					
		中小企業論特論Ⅰ	1前	2	○			1					
		中小企業論特論Ⅱ	2前	2	○			1					
		企業経営論特別演習	1後	2		○			1				
		比較会計学特別演習	1後	2		○		1					
		経営情報特別演習	1後	2		○						兼1	
		日本産業構造分析特別演習	1後	2		○						兼1	
		株式会社論特別演習	1後	2		○		1					
		計量経済学特別演習	1後	2		○		1					
		ゲーム理論特別演習	1後	2		○		1					
		経営システム特別演習	1後	2		○			1				
		マーケティング論特別演習	1後	2		○			1				
		管理会計特別演習	1後	2		○			1				
		中小企業論特別演習	1後	2		○			1				
		企業経営特別研究Ⅰ	1前・後	4		○		4	4				
		企業経営特別研究Ⅱ	2前・後	4		○		4	4				
		小計(35科目)		74		—		4	4	1		兼2	
経営 法務		民法特論Ⅰ	1前	2	○			1					
		民法特論Ⅱ	2前	2	○			1					
		民法特論Ⅲ	1前	2	○			1					
		民法特論Ⅳ	2前	2	○			1					
		民事紛争処理法特論Ⅰ	1前	2	○							兼1	
		民事紛争処理法特論Ⅱ	2前	2	○							兼1	
		雇用関係法特論Ⅰ	1前	2	○				1				
		雇用関係法特論Ⅱ	2前	2	○				1				
		競争政策法特論Ⅰ	1前	2	○			1					
		競争政策法特論Ⅱ	2前	2	○			1					
		商法特論Ⅰ	1前	2	○			1					
		商法特論Ⅱ	2前	2	○			1					
		民法特別演習Ⅰ	1前	2	○			1					
		民法特別演習Ⅱ	2前	2	○			1					
		民事紛争処理法特別演習	1後	2		○						兼1	
		雇用関係法特別演習	1後	2		○				1			
		競争政策法特別演習	1後	2		○		1					
		商法特別演習	1後	2		○		1					
	経営法務特別研究Ⅰ	1前・後	4		○		4	1					
	経営法務特別研究Ⅱ	2前・後	4		○		4	1					
	小計(20科目)			44		—		4	1			兼1	
国際 システム	国際 関係	国際関係論特論Ⅰ	1前	2	○							兼1	
		国際関係論特論Ⅱ	2前	2	○							兼1	
		国際政治特論Ⅰ	1前	2	○			1					
		国際政治特論Ⅱ	2前	2	○			1					
		グローバル・ガバナンス論特論Ⅰ	1前	2	○				1				
		グローバル・ガバナンス論特論Ⅱ	2前	2	○				1				
		国際組織法特論Ⅰ	1前	2	○				1				
		国際組織法特論Ⅱ	2前	2	○				1				
		現代政治論特論Ⅰ	1前	2	○								兼1
		現代政治論特論Ⅱ	2前	2	○								兼1
		比較政治学特論Ⅰ	1前	2	○								兼1
		比較政治学特論Ⅱ	2前	2	○								兼1
		現代中国政治特論Ⅰ	1前	2	○				1				
		現代中国政治特論Ⅱ	2前	2	○				1				
		国際関係論特別演習	1後	2		○							兼1
		国際政治特別演習	1後	2		○		1					
グローバル・ガバナンス論特別演習	1後	2		○			1						
国際組織法特別演習	1後	2		○			1						
現代政治論特別演習	1後	2		○							兼1		

	比較政治学特別演習	1後		2		○								兼1
	現代中国政治特別演習	1後		2		○			1					
	国際関係特別研究Ⅰ	1前・後		4		○			1	2				
	国際関係特別研究Ⅱ	2前・後		4		○			1	2				
	小計(23科目)			50		—			1	3				兼3
国際 経済 法務	世界経済論特論Ⅰ	1前		2		○								兼1
	世界経済論特論Ⅱ	2前		2		○								兼1
	EU経済論特論Ⅰ	1前		2		○								兼1
	EU経済論特論Ⅱ	2前		2		○								兼1
	北米経済論特論	1前		2		○								兼1
	国際取引法特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	国際取引法特論Ⅱ	2前		2		○			1					
	国際経営特論Ⅰ	1前		2		○					1			
	国際経営特論Ⅱ	2前		2		○					1			
	国際金融論特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	国際金融論特論Ⅱ	2前		2		○			1					
	国際経済論特論Ⅰ	1前		2		○								兼1
	国際経済論特論Ⅱ	2前		2		○								兼1
	世界経済論特別演習	1後		2			○							兼1
	EU経済論特別演習	1後		2			○							兼1
	北米経済論特別演習	1後		2			○							兼1
	国際取引法特別演習	1後		2			○		1					
国際経営特別演習	1後		2			○				1				
国際金融論特別演習	1後		2			○		1						
国際経済論特別演習	1後		2			○							兼1	
国際経済法務特別研究Ⅰ	1前・後		4			○		2						
国際経済法務特別研究Ⅱ	2前・後		4			○		2						
小計(22科目)			48			—		2	1					兼4
共通	情報処理実習	1後		2				○						兼1
	現代外国語(英語)Ⅰ	1前		2		○		1						
	現代外国語(英語)Ⅱ	1前・後		4		○		2						
	現代外国語(ドイツ語)	1前		2		○			1					
	現代外国語(フランス語)	1前		2		○			1					
	現代外国語(ロシア語)	1前		2		○		1						
	現代外国語(中国語)	1前		2		○		1						
	調査の方法	1前		2		○					1			
	プロジェクト演習Ⅰ	1前		2			○	2						
	プロジェクト演習Ⅱ	1前		2			○	2						
小計(10科目)			22			—	5	2	1				兼1	
大学 共通	キャリア・マネジメント	1後		1		○		1						
	研究者としての基礎スキル	1前		1		○								兼7、オムニバス
	社会文化システム特論	1前		1		○		8						
	生涯学習特論	1前		2			○							兼4
	知財と倫理	1後		1		○								兼1
	Academic Skills: scientific Presentations + Writing	1後		1		○								兼1
	Career Designing Seminar	1前		2		○								兼1
	先端医科学特論	1後		2		○								兼15、オムニバス
	食の未来を考える	1後		1		○								兼8、オムニバス
小計(9科目)			12			—	9						兼37	
合計(205科目)		—		409		—		27	21	4				兼55
学位又は称号	修士(政策科学)		学位又は学科の分野				法学関係、経済学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
特別研究8単位、専攻科目8単位〔特論4単位、特別研究4単位〕、共通科目4単位、自由科目10単位以上を修得し、30単位以上修得すること。							1学年の学期区分			2期				
							1学期の授業期間			15週				
							1時限の授業時間			90分				

教育課程等の概要														
〔【既設】地域教育文化研究科 臨床心理学専攻〕														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
臨床心理学に関する必修科目	臨床心理学特論A	1前	2			○			1					
	臨床心理学特論B	1後	2			○			1					
	臨床心理学面接特論A（心理支援に関する理論と実践）	1前	2			○				1				
	臨床心理学面接特論B	1後	2			○			1					
	臨床心理学査定演習A（心理的アセスメントに関する理論と実践）	1前	2				○			1				
	臨床心理学査定演習B	1後	2				○		1					
	臨床心理学基礎実習	1通	2					○	1					
	臨床心理実習A（心理実践実習A）	2通	4						2					兼1
	臨床心理実習B	2通	1						2					兼1
小計（9科目）	—	19				—		3	1				兼1	
選択科目	A群 心理学特別演習（統計）	1前		2			○							兼1
	心理学研究法特論	1前		2		○			1					
	B群 発達心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	1後		2		○				1				
	教育心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	1後		2		○				1				
	C群 家族心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	1後		2		○			1					
	犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	1前		2		○			1					
	D群 精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	1前		2		○								兼1
	大脳生理学特論	1前		2		○								兼1
	E群 心理療法特論	1前		2		○					1			
	投映法特論	1後		2		○								兼1
	産業臨床心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	1後		2		○								兼1
	心の健康教育に関する理論と実践	1後		2		○					1			
	心理学実践実習基礎	1通		2				○	3	2	1			
	心理学実践実習B	2通		1				○	3	2	1			
	心理学実践実習C	2通		2				○	3	2	1			
	心理学実践実習D	2通		1				○	3	2	1			
	キャリア・マネジメント	1後		1		○								兼1
	研究者としての基礎スキル	1前		1		○								兼7、オムニバス
	社会文化システム特論	1前		1		○								兼8、オムニバス
	生涯学習特論	1前		2				○						兼4
	知財と倫理	1後		1		○								兼1
	Academic Skills: scientific Presentations + Writing	1後		1		○								兼1
	Career Designing Seminar	1前		2		○								兼1
	先端医科学特論	1後		2		○								兼15、オムニバス
	食の未来を考える	1後		1		○								兼8、オムニバス
小計（25科目）	—		42			—		3	2	1			兼51	
必修科目	課題研究Ⅰ	1通	2				○		3	2	1			
	課題研究Ⅱ	2通	2				○		3	2	1			
	小計（2科目）	—	4			—		3	2	1				
合計（36科目）			—	23	42		—		3	2	1			兼52
学位又は称号		修士（臨床心理学）			学位又は学科の分野			教育学・保育学関係						
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
臨床心理学に関する必修単位19単位、課題研究4単位、選択科目10単位 〔A, B, C, D, E群からそれぞれ2単位〕以上を修得し、33単位以上修得すること。							1学年の学期区分				2期			
							1学期の授業期間				15週			
							1時限の授業時間				90分			

教育課程等の概要															
（【既設】地域教育文化研究科 文化創造専攻）															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻必修科目	生涯学習特論	1前	2			○			3						兼1
	文化コーディネーター実習（音楽）	2通		2				○	2	1					
	文化コーディネーター実習（造形）	2通		2				○	4	1					
	文化コーディネーター実習（スポーツ）	2通		2			○	○	3	4					
	小計（4科目）		2	6			—		12	6					兼1
音楽芸術分野	音楽活動支援論	1通		2		○			1						
	伝統音楽論	1前		2		○									兼1
	舞台芸術実習	2通		2				○	1						兼1
	音楽表現演習（声楽）A	1前		2				○							兼1
	音楽表現演習（ピアノ）A	1前		2				○	1						
	音楽表現演習（管弦打）A	1前		2				○		1					兼1
	音楽表現演習（作曲）A	1前		2				○							
	音楽表現演習（声楽）B	1後		2				○							兼1
	音楽表現演習（ピアノ）B	1後		2				○	1						
	音楽表現演習（管弦打）B	1後		2				○							兼1
	音楽表現演習（作曲）B	1後		2				○		1					
	小計（11科目）			22			—		3	1					兼3
	選択科目	室内楽演習（声楽）	1前		2				○	1					
室内楽演習（器楽）		1前		2				○	1						
舞台芸術演習A		1前		2				○	1						兼1
総合音楽学		1後		2		○									兼1
室内楽演習（声楽）B		1後		2				○	1						兼1
室内楽演習（器楽）B		1後		2				○	1						
舞台芸術演習B		1後		2				○	1						兼1
日本伝統音楽文化演習		1前		2				○							兼1
小計（8科目）				16			—		1						兼3
特別研究	特別研究Ⅰ	1通		4				○	3	1					
	特別研究Ⅱ	2通		4				○	3	1					
	小計（2科目）			8			—		3	1					
造形芸術分野	分野必修科目														
	絵画・版画表現演習	1前		2				○	1						
	彫塑・立体表現演習	1前		2				○		1					
	デザイン方法論	1前		2		○									兼1
	デザイン表現演習	1後		2				○							兼1
	芸術と文化政策	1後		2		○			1						
小計（5科目）			10			—		2	1					兼1	
選択科目	美学・美術史特論	1前		2				○							兼1
	伝統文化論	1前		2				○							兼1
	造形芸術教育特論	1後		2				○	1						
	地域デザイン特論	1前		2				○	1						
	美学・美術史演習	1後		2											兼1
	平面造形演習	1後		2				○	1						
	立体造形演習	1後		2				○		1					
	デザイン・プロジェクト演習	1後		2				○							兼2
	アートマネジメント論	1前		2				○	1						
	地域デザイン演習	1後		2				○	1						
	構造デザイン	1後		2			○								兼1
	デザイン・マネジメント演習	2前		2				○							兼1
	地域産業開発演習	1前		2				○							兼1

	地域伝統造形演習・鍍金	1後		2		○							兼1
	小計 (15科目)			30		—			4	1			兼7
	特別研究 I	1通		4		○			4				
	特別研究 II	2通		4		○			4				
	小計 (2科目)			8		—			4				
スポーツ 科学分野	分野必修科目	現代スポーツ論	1前	2		○				1			
		生涯スポーツ論	1前	2		○			1				
		スポーツ政策論	1前	2		○							兼1
		伝統スポーツ論	1前	2		○			1				
		生涯スポーツマネジメント演習	2前	2			○		1				
		小計 (5科目)			10		—		2	1			兼1
スポーツ 科学分野	選択科目	地域スポーツ文化論	1後	2		○			2	1			
		スポーツ生理学	1前	2		○				1			
		スポーツメンタルマネジメント論	1前	2		○				1			
		地域スポーツ指導論	1前	2		○				1			
		スポーツ統計学特論	1後	2		○				1			
		健康スポーツ論	1前	2		○			1				
		スポーツ教育法	1前	2		○			1				
		スポーツ史演習	1後	2			○			1			
		トレーニング科学演習	1後	2			○			1			
		スポーツバイオメカニクス演習	1前	2			○			1			
		スポーツ情報処理特論	1後	2		○				1			
		小計 (12科目)			24		—		4	5			
	特別研究 I	1通		4		○			2	3			
	特別研究 II	2通		4		○			2	3			
	小計 (2科目)			8		—		2	3				
大学 共通	キャリア・マネジメント	1後		1		○							兼1
	研究者としての基礎スキル	1前		1		○							兼7、オムニバス
	社会文化システム特論	1前		1		○							兼8、オムニバス
	知財と倫理	1後		1		○							兼1
	Academic Skills: scientific Presentations + Writing	1後		1		○							兼1
	先端医科学特論	1後		2		○							兼15、オムニバス
	食の未来を考える	1後		1		○							兼8、オムニバス
	小計 (9科目)			12		—							兼41
合計 (75科目)		—	2	154		—			11	6			兼55
学位又は称号	学士 (学術)		学位又は学科の分野				美術関係、音楽関係、体育関係						
卒業要件及び履修方法							授業期間等						
専攻必修科目4単位、分野必修科目10単位、特別研究8単位、選択科目8単位 [分野選択科目6単位、総合連携科目2単位] 以上を修得し、30単位以上修得すること。							1 学年の学期区分			2期			
							1 学期の授業期間			15週			
							1 時限の授業時間			90分			

教 育 課 程 等 の 概 要														
(人文社会科学部 人文社会科学科 (人間文化コース))														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門導入科目	日本社会論 (日本学入門)	1前	2			○			1					
	日本言語文化論 (日本学入門)	1後	2			○				3				
	日本歴史文化論 (日本学入門)	1前	2			○			1	1				
	人間文化入門総合講義	1後	2			○			5	7	1			
	小計 (4科目)		8				-		7	11	1			
専門基礎科目	文化人類学概論	3前		2		○			1	2				
	アンデス考古学概論	2前		2		○			1	2				
	環境動態概論	2前		2		○				1				
	日本古代史概論	2後		2		○				1				
	日本中近世史概論	2前		2		○			1					
	日本近代史概論	2前		2		○								兼1
	東アジア史概論	2後		2		○			1					
	内陸アジア史概論	2前		2		○				1				
	ヨーロッパ史概論	2後		2		○			1		1			
	日本考古学概論	2前		2		○				1				
	情報科学概論	2前		2		○			1					
	人間情報科学概論	2前		2		○			1					
	心理学概論	2後		2		○					1			
	認知心理学概論	2前		2		○					1			
	感情心理学概論	2前		2		○					1			
	行動科学概論	2前		2		○					1			
	社会心理学概論	2後		2		○								兼1
	日本古典文学概論	2前		2		○			1					
	日本近代文学概論	2後		2		○					1			
	日本語学概論	2前		2		○					1			
	日本語文法概論	2後		2		○			1					
	日本語教育学概論	2前		2		○								兼1
	中国文学概論	2前		2		○			1					
	中国古典文化概論	2後		2		○			1					
	芸術文化概論	2前		2		○			1					
	現代社会論概論	2前		2		○								
	表象文化概論	2前		2		○			1					
	映像学概論	2前		2		○					1			
	哲学概論	2前		2		○			1					
	倫理学概論	2後		2		○					1			
	文化人類学基礎演習	2前		2				○		1	1		1	
	アンデス考古学基礎演習	2前		2				○		1	1		1	
	環境動態論基礎演習	2前		2				○			1			
歴史学基礎演習 a	2前		2				○		1	2				
歴史学基礎演習 b	2前		2				○		2					
人間情報科学基礎演習	2前		2				○		1					
認知心理学基礎演習	2前		2				○			1				
感情心理学基礎演習	2前		2				○			1				
行動科学基礎演習	2前		2				○			1				
認知情報科学基礎演習	2前		2				○			1				
日本文学基礎演習	2前		2				○			2				

	日本語学基礎演習 a	2前	2	○	1							
	日本語学基礎演習 b	2前	2	○		1						
	日本語教育学基礎演習 a	2前	2	○	1							
	日本語教育学基礎演習 b	2前	2	○		1						
	芸術文化基礎演習	2前	2	○	1							
	表象文化基礎演習	2前	2	○				1				
	哲学基礎演習	2前	2	○	1							
	倫理学基礎演習	2前	2	○				1				
	小計 (49科目)		98	—	9	14	1	1				兼3
専門 展開 科目	文化人類学特殊講義 a	3後	2	○	1	2						
	文化人類学特殊講義 b	3後	2	○	1	2						
	アンデス考古学特殊講義 a	3前	2	○	1	2						
	アンデス考古学特殊講義 b	3前	2	○	1	2						
	環境動態論特殊講義 a	3後	2	○				1				
	環境動態論特殊講義 b	3後	2	○				1				
	日本古代史特殊講義 a	3前	2	○				1				
	日本古代史特殊講義 b	3前	2	○				1				
	日本中近世史特殊講義 a	3後	2	○		1						
	日本中近世史特殊講義 b	3後	2	○		1						
	日本近代史特殊講義 a	3後	2	○								兼1
	日本近代史特殊講義 b	3後	2	○								兼1
	東アジア史特殊講義 a	3前	2	○		1						
	東アジア史特殊講義 b	3前	2	○		1						
	内陸アジア史特殊講義 a	3後	2	○				1				
	内陸アジア史特殊講義 b	3後	2	○				1				
	ヨーロッパ史特殊講義 a	3前	2	○		1						
	ヨーロッパ史特殊講義 b	3前	2	○		1						
	人間情報科学特殊講義	3後	2	○		1						
	認知心理学特殊講義	3後	2	○				1				
	感情心理学特殊講義	3後	2	○				1				
	行動科学特殊講義	3後	2	○				1				
	社会心理学特殊講義	3後	2	○								兼1
	日本古代中世文学特殊講義 a	3後	2	○				1				
	日本古代中世文学特殊講義 b	3後	2	○				1				
	日本近世文学特殊講義 a	3前	2	○		1						
	日本近世文学特殊講義 b	3前	2	○		1						
	日本近現代文学特殊講義 a	3前	2	○				1				
	日本近現代文学特殊講義 b	3前	2	○				1				
	和歌文学特殊講義 a	3後	2	○		1						
	和歌文学特殊講義 b	3後	2	○		1						
	日欧比較文学特殊講義 a	3後	2	○		1						
	日欧比較文学特殊講義 b	3後	2	○		1						
	日本語文法特殊講義 a	3前	2	○		1						
	日本語文法特殊講義 b	3前	2	○		1						
	日本語学特殊講義 a	3後	2	○		1						
日本語学特殊講義 b	3後	2	○		1							
日本語教育学特殊講義 a	3後	2	○				1					
日本語教育学特殊講義 b	3後	2	○		1							
中国文学特殊講義 a	3後	2	○		1							
中国文学特殊講義 b	3後	2	○		1							
美術史特殊講義 a	3前	2	○		1							
美術史特殊講義 b	3前	2	○				1					
芸術文化特殊講義 a	3後	2	○		1							
芸術文化特殊講義 b	3後	2	○		1							
文化社会学特殊講義	3後	2	○									
歴史社会学特殊講義	3後	2	○									
表象文化特殊講義 a	3後	2	○					1				

表象文化特殊講義 b	3後	2	○				1				
哲学特殊講義	3後	2	○				1				
倫理学特殊講義	3後	2	○						1		
記号論特殊講義	3後	2	○				1				
文化人類学演習 a	3前	2		○			1		2		
文化人類学演習 b	3後	2		○			1		2		
アンデス考古学演習	3前	2		○			1		2		
環境動態論演習	3前	2		○					1		
日本古代史演習	3前・後	2		○					1		
日本中近世史演習	3前・後	2		○			1				
日本近代史演習	3前・後	2		○							兼1
アジア史演習 a	3前・後	2		○			1				
アジア史演習 b	3前・後	2		○					1		
ヨーロッパ史演習	3前・後	2		○			1				
専門英語演習 (歴史学) a	3後	2		○			1				
専門英語演習 (歴史学) b	3前	2		○			1				
日本考古学演習	3前・後	2		○					1		
人間情報科学演習	3後	2		○			1				
認知心理学演習	3前・後	2		○					1		
情報処理実習	3後	2		○			1				
心理学特殊実験	3後	2			○				1		
感情心理学演習	3前・後	2		○					1		
行動科学演習	3後	2		○					1		
日本古代中世文学演習	3前・後	2		○					1		
日本近世文学演習	3前・後	2		○			1				
日本近現代文学演習	3前・後	2		○					1		
日欧比較文学演習	3前・後	2		○			1				
日本語学演習 a	3前	2		○			1				
日本語文法演習	3前・後	2		○			1				
日本語教育学演習	3後	2		○					1		
異文化理解演習	3前	2		○			1				
中国文学文化演習	3前・後	2		○			1				
漢文学教育演習	3後	2		○			1				
専門英語演習 (Japanese Studies)	3前	2		○			2		2		
芸術文化演習 a	3前	2		○			1				
芸術文化演習 b	3後	2		○			1				
美術史演習	3後	2		○					1		
現代社会論演習	3前・後	2		○					1		
表象文化演習	3後	2		○			1				
哲学演習	3前・後	2		○			1				
倫理学演習	3後	2		○					1		
専門英語演習 (哲学)	3後	2		○			1				
課題演習 (文化人類学)	3後	2		○			1		1		1
課題演習 (環境動態論)	3後	2		○					1		
課題演習 (日本語教育)	3後	2		○			1		2		
課題演習 (国語科教育)	4前	2		○			1				
課題演習 (日本語学)	3後	2		○			1				
課題演習 (日本近代文学)	3前	2		○					1		
課題演習 (日本近世文学)	3前	2		○			1				
課題演習 (書物文化環境)	3前	2		○					1		
課題演習 (地域歴史史料)	3前	2		○					1		
課題演習 (芸術文化)	3後	2		○			1		1		
課題演習 (映像学)	3後	2		○					1		
課題演習 (哲学)	3後	2		○			1				
小計 (102科目)		204		—			16	13	3	1	兼2
成専科目	卒論演習 1	4前	2		○		6	9	3		
	卒論演習 2	4後	2		○		6	9	3		

卒業論文	4	4			○	6	9	3			
小計 (3科目)		8			—	6	9	3			
合計 (158科目)	—	16	302		—	16	13	5			兼2
学位又は称号	学士 (文学)		学位又は学科の分野			文学関係					
卒業要件及び履修方法						授業期間等					
基盤共通教育科目39単位，専門教育科目90単位〔専門共通科目8単位， 専門導入科目8単位，専門基礎科目16単位，専門展開科目34単位，自由 科目16単位，卒論・卒論演習8単位〕以上を修得し，129単位以上修得す ること。 (履修科目の登録の上限：48単位 (年間))						1 学年の学期区分			2期		
						1 学期の授業期間			15週		
						1 時限の授業時間			90分		

教 育 課 程 等 の 概 要															
(人文社会科学部 人文社会科学科(グローバル・スタディーズコース))															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
コース 専門 語学	英語コミュニケーション(中級)	2前後		4				○		1	1				兼1
	英語コミュニケーション(上級)	2前後		4				○		2	1				
	英作文(中級)	2前		2				○		1					
	英作文(上級)	2後		2				○		1					
	実践英語 a	2前		2				○			1				
	実践英語 b	3前		2				○			1				
	実践英語 c	2前		2				○		2	1				
	実践英語 d	2後		2				○		3					
	実践英語 e	2前		2				○			1				
	実践英語 f	2後		2				○			1				
	留学生活英語	2前後		4				○			1				
	e-learning	2前後		4				○		2					
	ドイツ語講読 a	2前		2				○			1				
	ドイツ語講読 b	2後		2				○			1				
	ドイツ語講読 c	2前		2				○			1				
	ドイツ語講読 d	2後		2				○			1				
	時事ドイツ語	2後		2				○			1				
	ドイツ語学演習	2前		2				○			1				
	ドイツ語会話・作文 a	2前		2				○							兼1
	ドイツ語会話・作文 b	2後		2				○							兼1
	フランス語講読 a	2前		2				○			1				
	フランス語講読 b	2後		2				○			1				
	フランス語講読 c	2前		2				○			1				
	フランス語講読 d	2後		2				○			1				
	時事フランス語	2後		2				○			1				
	フランス語学演習	2前		2				○			1				
	フランス語会話・作文 a	2前		2				○							兼1
	フランス語会話・作文 b	2後		2				○							兼1
	ロシア語講読 a	2前		2				○			1				
	ロシア語講読 b	2後		2				○		1					
	ロシア語講読 c	2前		2				○			1				
	ロシア語講読 d	2後		2				○		1					
	時事ロシア語	2後		2				○			1				
	ロシア語学演習	2前		2				○		1					
	ロシア語会話・作文 a	2前		2				○							兼1
	ロシア語会話・作文 b	2後		2				○							兼1
	中国文学文化講読 a	2後		2				○		1					
	中国文学文化講読 b	2後		2				○		1					
	中国語会話 a	2前		2				○							兼1
	中国語会話 b	2前		2				○							兼1
	中国語作文 a	2後		2				○			1				
	中国語作文 b	2後		2				○			1				
	時事中国語 a	2前		2				○			1				
	時事中国語 b	2前		2				○			1				
小計(44科目)				96						10	11				兼5

専門導入科目	グローバルスタディーズ基礎講義	1後	2			○			12	10				
	小計 (1科目)		2			—			12	10				
専門基礎科目	国際協力論	2後	2			○				1				
	多文化共生論	2前	2			○			1					
	小計 (2科目)		4			—			1	1				
専門基礎科目 (A群)	近現代中国文化概論	2前	2			○				1				
	東南アジア地域論	2前	2			○				1				
	極東地域論	2後	2			○				1				
	ヨーロッパ史概論	2後	2			○			1					
	小計 (49科目)	2後	2			○			1					
	日本近代史概論	2前	2			○								兼1
	比較政治学 1	2前	2			○			1					
	比較政治学 2	2後	2			○			1					
	日本政治論	2後	2			○			1					
	地域の国際化	2前	2			○			1					
	比較文化・文化交流史概論	2後	2			○			1					
	グローバル文学概論	2後	2			○			2	1				
	英語学概論	2前	2			○			1					
	小計 (13科目)			26		—			9	4	1			兼1
専門基礎科目 (B群)	国際法 1	2前	2			○				1				
	国際法 2	2後	2			○				1				
	国際組織法	2後	2			○				1				
	国際人権法	2後	2			○				1				
	グローバル・ガバナンス論 1	2前	2			○			1					
	グローバル・ガバナンス論 2	2後	2			○			1					
	ミクロ経済学 1	2前	2			○			1					
	ミクロ経済学 2	2後	2			○			1					
	マクロ経済学 1	2前	2			○				1				
	マクロ経済学 2	2後	2			○				1				
	国際経済学 a	2前	2			○								兼1
	国際経済学 b	2後	2			○								兼1
	中国文学概論	2前	2			○			1					
	中国古典文化概論	2後	2			○			1					
	英米文学概論	2後	2			○			2	1				
	言語学概論	2前	2			○			1					
	ヨーロッパ史概論	2後	2			○			1					
	東アジア史概論	2後	2			○			1					
	日本近代史概論	2前	2			○								兼1
小計 (19科目)			38		—			9	3				兼2	
専門展開科目	現代中国論	3前	2			○				1				
	英米文化論	3後	2			○			2	1				
	ドイツ文化論	3前	2			○				1				
	フランス文化論	3後	2			○				1				
	ロシア文化論	3前	2			○			1					
	ヨーロッパ史特殊講義 a	3前	2			○			1					
	ヨーロッパ史特殊講義 b	3前	2			○			1					
	比較憲法	3後	2			○			1					
	日本外交論 1	3前	2			○			1					
	日本外交論 2	3後	2			○			1					
	国際取引法 1	3前	2			○			1					
	国際取引法 2	3後	2			○			1					
	国際公共政策論	3前	2			○			1					
	市民社会論	3前	2			○			1					
	現代社会学	3前	2			○			1					
	環境経済学 1	3前	2			○				1				
	環境経済学 2	3後	2			○				1				
	中国語学講義	3前	2			○			1					

中国文学特殊講義 a	3後	2	○	1						
中国文学特殊講義 b	3前	2	○	1						
英語学特殊講義 a	3前	2	○	1						
英語学特殊講義 b	3後	2	○	1						
言語学特殊講義 a	3前	2	○	1						
言語学特殊講義 b	3後	2	○	1						
日英対照言語学講義	3後	2	○	1						
東アジア史特殊講義 a	3前	2	○	1						
東アジア史特殊講義 b	3前	2	○	1						
内陸アジア史特殊講義 a	3後	2	○			1				
内陸アジア史特殊講義 b	3後	2	○			1				
日欧比較文学特殊講義 a	3後	2	○	1						
日欧比較文学特殊講義 b	3後	2	○	1						
Japanese Short Stories	3前	2	○					1		
Popular Japanese History	3前	2	○					1		
Japanese Popular Heroes	3後	2	○					1		
Literature on Screen: Great Writers as Great Films	3後	2	○					1		
アジア文化演習	3後	2	○					1		
現代中国論演習	3後	2	○					1		
ドイツ文化演習	3後	2	○					1		
フランス文化演習	3前	2	○					1		
ロシア文化演習	3後	2	○			1				
英米文化演習	3後	2	○							
東南アジア地域論演習	3後	2	○					1		
国際協力論演習	3前	2	○					1		
極東地域論演習	3前	2	○					1		
ヨーロッパ史演習	3前・後	2	○			1				
アジア史演習 a	3前・後	2	○			1				
アジア史演習 b	3前・後	2	○					1		
日本近代史演習	3前・後	2	○							
国際法演習	3前後, 4前後	2	○					1		兼1
グローバル・ガバナンス論演習	3前後, 4前後	2	○			1				
日本外交論演習	3前後, 4前後	2	○			1				
比較文化・文化交流史演習	3前	2	○			1				
中国文学文化演習	3後	2	○			1				
英米文学講読	3前	2	○			2		1		
言語学演習 a	3前	2	○			1				
言語学演習 b	3後	2	○					1		
英語学演習 a	3前	2	○					1		
英語学演習 b	3後	2	○			1				
日欧比較文学演習	3前・後	2	○			1				
異文化理解演習	3前	2	○			1				
Seminar in Modern Japanese Cultural History	3前	2	○					1		
小計 (61科目)		122	—	20	12	0				兼1
専門 完成 科目	卒論演習 1	4前	2	○		12	7	3		
	卒論演習 2	4後	2	○		12	7	3		
	卒業論文	4	4	○		12	7	3		
	小計 (3科目)		8	—	12	11	0			
合計 (143科目)		—	14	282	—	20	12			兼7
学位又は称号	学士 (学術)		学位又は学科の分野			学術関係				
卒業要件及び履修方法						授業期間等				
基盤共通教育科目43単位, 専門教育科目86単位 [専門共通科目28単位, 専門導入科目4単位, 専門基礎科目10単位, 専門展開科目20単位, 自由科目16単位, 卒論・卒論演習8単位] 以上を修得し, 129単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限: 48単位 (年間))						1 学年の学期区分		2期		
						1 学期の授業期間		15週		
						1 時限の授業時間		90分		

教 育 課 程 等 の 概 要														
(人文社会科学部 人文社会科学科 (総合法律コース))														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門導入科目	総合講座Ⅰ	1前		2		○			9	5	1			
	総合講座Ⅱ	1前		2		○			7	6				兼1
	総合講座Ⅲ	1前		2		○			4	7	2			
	政治学入門	1後		2		○				1				
	法と裁判	1後		2		○			1					
	経済思想	3前		2		○			1					
	小計 (6科目)			12			—		22	19	3			
専門基礎科目	憲法1	2前		2		○			2	0				
	憲法2	2後		2		○			2	0				
	行政法1	2後		2		○				1				
	刑事法基礎1	2前		2		○				1				
	刑事法基礎2	2前		2		○			1					
	刑法1	2前		2		○				1				
	刑法2	2後		2		○				1				
	刑事訴訟法1	2前		2		○			1					
	刑事訴訟法2	2後		2		○			1					
	私法入門	2前		2		○				1				
	金融法入門	2前		2		○			1					
	民法基礎 (総則)	2前		2		○			1	1				
	民法基礎 (物権)	2後		2		○			1	1				
	民法基礎 (契約法)	2前		2		○			1	1				
	民法基礎 (不法行為法)	2後		2		○			1	1				
	親族法	2後		2		○			1	1				
	相続法	2後		2		○			1	1				
	会社法1	2前		2		○			1					
	会社法2	2後		2		○			1					
	国際法1	2前		2		○				1				
	国際法2	2後		2		○				1				
	国際組織法	2後		2		○				1				
	国際人権法	2後		2		○				1				
	法哲学1	2後		2		○				1				
	法制史	2前		2		○								兼1
	労働法1	2前		2		○				1				
	労働法2	2後		2		○				1				
	社会保障法	2前		2		○				1				
	専門基礎演習	2前		2				○		8	5			
小計 (29科目)			2	56			—		12	10				兼1
専門展開科目	憲法3	3前		2		○			1	1				
	憲法4	3後		2		○			1	1				
	比較憲法	3後		2		○			1					
	教育法	3後		2		○			1					
	行政法2	3前		2		○				1				
	行政法3	3後		2		○				1				
	行政法4	3前		2		○				1				
	刑法3	3前		2		○				1				
刑法4	3後		2		○				1					

	刑事政策	3前		2		○					1						
	民法展開（債権総論）	3前		2		○			1		1						
	民法展開（担保物権）	3前		2		○			1		1						
	商法 1	3前		2		○			1								
	商法 2	3後		2		○			1								
	民事訴訟法 1	3前		2		○											兼1
	民事訴訟法 2	3後		2		○											兼1
	実務民事訴訟法	3後		2		○											兼1
	小計（49科目）	3前		2		○			1								
	国際取引法 2	3後		2		○			1								
	法哲学 2	3前		2		○					1						
	経済法 1	3前		2		○			1								
	経済法 2	3後		2		○			1								
	知的財産法	3前		2		○			1								
	ビジネスと信管理入門	3前		2		○											兼1
	法学特殊講義	3前		2		○											
	憲法演習 I	3前後, 4前後		8			○				1						
	憲法演習 II	3前後, 4前後		8			○		1								
	行政法演習	3前後, 4前後		8			○				1						
	刑法演習	3前後, 4前後		8			○				1						
	刑事訴訟法演習	3前後, 4前後		8			○		1								
	民法演習 I	3前後, 4前後		8			○		1								
	民法演習 II	3前後, 4前後		8			○				1						
	商法演習	3前後, 4前後		8			○		1								
	国際法演習	3前後, 4前後		8			○				1						
	国際取引法演習	3前後, 4前後		8			○		1								
	法哲学演習	3前後, 4前後		8			○				1						
	労働法演習	3前後, 4前後		8			○				1						
	経済法演習	3前後, 4前後		8			○		1								
	小計（38科目）			154			—		8	7	1						兼4
専門 完成 科目	卒業論文	4		4			○		5	6	1						
	グループ卒業論文	4		2			○		5	6	1						
	卒業研究	4		2			○		5	6	1						
	小計（3科目）			8			—		5	6	1						
横断的 教育 科目 （基礎 科目）	政治理論 1	2前		2		○			1								
	政治理論 2	2後		2		○			1								
	政治過程論 1	2前		2		○					1						
	政治過程論 2	2後		2		○					1						
	地域政策論 1	2前		2		○											兼1
	地域政策論 2	2後		2		○											兼1
	行政学 a	2前		2		○			1								
	行政学 b	2後		2		○			1								
	グローバル・ガバナンス論 1	2前		2		○					1						
	グローバル・ガバナンス論 2	2後		2		○					1						
	ミクロ経済学 1	2前		2		○			1								
	ミクロ経済学 2	2後		2		○			1								
	マクロ経済学 1	2前		2		○					1						
	マクロ経済学 2	2後		2		○					1						
	経済原論 1	2前		2		○			1								
	経済原論 2	2後		2		○			1								
	経済政策論 1	2前		2		○						1					
	経済政策論 2	2後		2		○						1					
	社会政策論 1	2前		2		○											兼1
	社会政策論 2	2後		2		○											兼1
	金融論 a	2前		2		○			1								
金融論 b	2後		2		○			1									
経営学 a	2前		2		○						1						

	経営学 b	2後		2		○				1			
	会計学 1	2前		2		○			1				
	会計学 2	2後		2		○			1				
	小計 (26科目)			52		—			6	3	2		兼2
横断的教育科目 (展開科目)	公共政策学 1	3前		2		○				1			
	公共政策学 2	3後		2		○				1			
	市民社会論	3前		2		○			1				
	公共政策の経済思想	3後		2		○			1				
	現代社会学	3前		2		○			1				
	財政学 a	3前		2		○				1			
	財政学 b	3後		2		○				1			
	日本経済論	3前		2		○					1		
	地方財政論 a	3前		2		○				1			
	地方財政論 b	3後		2		○				1			
	公会計	3前		2		○				1			
	法律の経済分析	3前		2		○			1	1			
	社会制度と政策設計	3後		2		○			1	1			
	政策法務	3前		2		○				2			
	社会科学英語演習	3前・後		2			○		1	1			
小計 (15科目)			30		—			5	7	1			
合計 (117科目)		—	2	312		—			19	16	4		兼8
学位又は称号	学士 (法学)		学位又は学科の分野				法学関係						
卒業要件及び履修方法							授業期間等						
基盤共通教育科目39単位，専門教育科目90単位〔専門共通科目8単位， 専門導入科目8単位，専門基礎科目及び専門展開科目（選択必修科目を 含む）62単位，自由科目8単位，専門完成科目4単位〕以上を修得し， 129単位以上修得すること。 （履修科目の登録の上限：48単位（年間））							1 学年の学期区分			2期			
							1 学期の授業期間			15週			
							1 時限の授業時間			90分			

教 育 課 程 等 の 概 要														
(人文社会科学部 人文社会科学科 (地域公共政策コース))														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門導入科目	総合講座Ⅰ	1前		2		○			8	5	1			
	総合講座Ⅱ	1前		2		○			6	7				兼1
	総合講座Ⅲ	1前		2		○			4	7	2			
	政治学入門	1後		2		○				1				
	法と裁判	1後		2		○			1					
	経済思想	3前		2		○			1					
	小計 (6科目)			12			—		17	13	3			
専門基礎科目	政治理論1	2前		2		○			1					
	政治理論2	2後		2		○			1					
	政治過程論1	2前		2		○				1				
	政治過程論2	2後		2		○				1				
	地域政策論1	2前		2		○					1			
	地域政策論2	2後		2		○					1			
	行政学a	2前		2		○			0		1			
	行政学b	2後		2		○			0		1			
	グローバル・ガバナンス論1	2前		2		○				1				
	グローバル・ガバナンス論2	2後		2		○				1				
	比較政治学1	2前		2		○			0					
	比較政治学2	2後		2		○			0					
	日本政治論	2後		2		○			1					
	地域の国際化	2前		2		○			1					
	自治体経営	2後		2		○				1				
	社会学概論	2後		2		○				1				
	人文地理学概論	2前		2		○			1					
	地誌学	2後		2		○			1					
	地域社会学	2前		2		○			1	1				
	調査方法論	2後		2		○				1				
	社会統計学	2後		2		○			1					
	専門基礎演習	2前	2					○	4	5				
小計 (22科目)			2	42			—	10	8	2				
専門展開科目	公共政策学1	3前		2		○				1				
	公共政策学2	3後		2		○				1				
	日本外交論1	3前		2		○			1					
	日本外交論2	3後		2		○			1					
	国際公共政策論	3前		2		○			0	1				
	市民社会論	3前		2		○			1					
	政治思想史	3前		2		○			0					兼1
	公共政策の経済思想	3後		2		○			1					
	現代社会学	3前		2		○			1					
	社会分析論	3前		2		○								
	家族社会学	3後		2		○			1					
	地域構造論	3前		2		○			1					
	観光学	3後		2		○			1					
	地理情報システム	3後		2		○			1					
	政治理論演習	3前後, 4前後	8					○						
グローバル・ガバナンス論演習	3前後, 4前後	8					○		1					

	比較政治学演習	3前後, 4前後	8		○								
	行政学演習	3前後, 4前後	8		○				1				
	日本外交論演習	3前後, 4前後	8		○		1						
	公共政策学演習	3前後, 4前後	8		○			1					
	地域政策論演習	3前後, 4前後	8		○								
	経済学史演習	3前後, 4前後	8		○		1						
	地域構造論演習	3前後, 4前後	8		○		1						
	社会学演習	3前後, 4前後	8		○				1				
	小計 (49科目)	3前後, 4前後	8		○		1						
	家族社会学演習	3前後, 4前後	8		○					1			
	労働法演習	3前後, 4前後	8		○				1				
	行政法演習	3前後, 4前後	8		○				1				
	財政学演習	3前後, 4前後	8		○				1				
	環境経済学演習	3前後, 4前後	8		○				1				
	社会政策論演習	3前後, 4前後	8		○				1				
	小計 (31科目)		164		—		8	11	2				兼1
専門 完成 科目	卒業論文	4	4		○		5	2					
	グループ卒業論文	4	2		○		5	2					
	卒業研究	4	2		○		5	2					
	小計 (3科目)		8		—		5	2					
横断的 的教育 科目 (基礎 科目)	ミクロ経済学 1	2前	2		○		1						
	ミクロ経済学 2	2後	2		○		1						
	マクロ経済学 1	2前	2		○			1					
	マクロ経済学 2	2後	2		○			1					
	経済原論 1	2前	2		○		1						
	経済原論 2	2後	2		○		1						
	経済学史 a	2前	2		○		1						
	経済学史 b	2後	2		○		1						
	統計学 1	2前	2		○		1						
	統計学 2	2後	2		○		1						
	経済政策論 1	2前	2		○					1			
	経済政策論 2	2後	2		○					1			
	社会政策論 1	2前	2		○								兼1
	社会政策論 2	2後	2		○								兼1
	金融論 a	2前	2		○		1						
	金融論 b	2後	2		○		1						
	国際経済学 a	2前	2		○								兼1
	国際経済学 b	2後	2		○								兼1
	労働と生活	2後	2		○		1						
	経営学 a	2前	2		○					1			
	経営学 b	2後	2		○					1			
	会計学 1	2前	2		○		1						
	会計学 2	2後	2		○		1						
	財務会計 a	2後	2		○		1						
	経営組織論	2後	2		○					1			
	憲法 1	2前	2		○		1	1					
	憲法 2	2後	2		○		1	1					
	行政法 1	2後	2		○			1					
	刑事法基礎 1	2前	2		○			1					
	刑事法基礎 2	2前	2		○		1						
	刑法 1	2前	2		○			1					
	刑法 2	2後	2		○			1					
	私法入門	2前	2		○			1					
	金融法入門	2前	2		○		1						
民法基礎 (総則)	2前	2		○		1	1						
民法基礎 (物権)	2後	2		○		1	1						
民法基礎 (契約法)	2前	2		○		1	1						

	民法基礎（不法行為法）	2後		2		○			1	1				
	国際法 1	2前		2		○				1				
	国際法 2	2後		2		○				1				
	法哲学 1	2後		2		○				1				
	労働法 1	2前		2		○				1				
	労働法 2	2後		2		○				1				
	国際組織法	2後		2		○				1				
	国際人権法	2後		2		○				1				
	社会保障法	2前		2		○				1				
	環境動態概論	2前		2		○				1				
	現代社会論概論	2前		2		○				1				
	小計（48科目）			96		—			11	9	3			兼2
横断的教育科目（展開科目）	ゲーム理論 1	3前		2		○				1				
	ゲーム理論 2	3後		2		○				1				
	計量経済学 1	3前		2		○			1					
	計量経済学 2	3後		2		○			1					
	ミクロ経済学 3	3前		2		○			1					
	地域経済史	3前		2		○			1					
	労働経済学	3前		2		○				1				
	財政学 a	3前		2		○				1				
	財政学 b	3後		2		○				1				
	日本経済論	3前		2		○					1			
	地方財政論 a	3前		2		○				1				
	地方財政論 b	3後		2		○				1				
	環境経済学 1	3前		2		○				1				
	環境経済学 2	3後		2		○				1				
	医療経済学	3後		2		○				1				
	公共経済学	3後		2		○			1					
	社会保障論	3後		2		○				1				
	産業組織論	3後		2		○				1				
	マーケティング a	3前		2		○				1				
	マーケティング b	3後		2		○				1				
	財務会計 b	3前		2		○			1					
	公会計	3前		2		○				1				
	管理会計 a	3前		2		○				1				
	管理会計 b	3後		2		○				1				
	中小企業論 a	3前		2		○				1				
	中小企業論 b	3後		2		○				1				
	憲法 3	3前		2		○			1	1				
	憲法 4	3後		2		○			1	1				
	行政法 2	3前		2		○				1				
	行政法 3	3後		2		○				1				
	刑法 3	3前		2		○				1				
	刑法 4	3後		2		○				1				
	刑事政策	3前		2		○				1				
	民法展開（債権総論）	3前		2		○			1	1				
	民法展開（担保物権）	3後		2		○			1	1				
	国際取引法 1	3前		2		○			1					
	国際取引法 2	3後		2		○			1					
	法哲学 2	3前		2		○				1				
	経済法 1	3前		2		○			1					
	経済法 2	3後		2		○			1					
知的財産法	3前		2		○			1						
ビジネス与信管理入門	3前		2		○								兼1	
環境動態論特殊講義 a	3後		2		○				1					
環境動態論特殊講義 b	3後		2		○				1					
文化社会学特殊講義	3前		2		○				1					

歴史社会学特殊講義	3前		2		○				1				
法律の経済分析	3前		2		○			1	1				
社会制度と政策設計	3後		2		○			1	1				
政策法務	3前		2		○				2				
社会科学英語演習	3前・後		2		○			1	1				
小計 (50科目)			100		—			8	15	1			兼1
合計 (160科目)	—	2	422		—			20	25	4			兼7
学位又は称号	学術 (政策科学)		学位又は学科の分野			政策科学関係							
卒業要件及び履修方法						授業期間等							
基盤共通教育科目39単位，専門教育科目90単位〔専門共通科目8単位， 専門導入科目8単位，専門基礎科目及び専門展開科目（選択必修科目を 含む）60単位，自由科目6単位，専門完成科目8単位〕以上を修得し， 129単位以上修得すること。 （履修科目の登録の上限：48単位（年間））						1 学年の学期区分			2期				
						1 学期の授業期間			15週				
						1 時限の授業時間			90分				

教 育 課 程 等 の 概 要														
(人文社会科学部 人文社会科学科(経済・マネジメントコース))														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門導入科目	総合講座Ⅰ	1前		2		○			8	5	1			
	総合講座Ⅱ	1前		2		○			6	7				兼1
	総合講座Ⅲ	1前		2		○			5	6	2			
	政治学入門	1後		2		○				1				
	法と裁判	1後		2		○			1					
	経済思想	3前		2		○			1					
	小計(6科目)			12			—		18	13	3			兼1
専門基礎科目	ミクロ経済学1	2前		2		○			1					
	ミクロ経済学2	2後		2		○			1					
	マクロ経済学1	2前		2		○				1				
	マクロ経済学2	2後		2		○				1				
	経済原論1	2前		2		○			1					
	経済原論2	2後		2		○			1					
	経済学史a	2前		2		○			1					
	経済学史b	2後		2		○			1					
	日本経済史1	2前		2		○			1					
	日本経済史2	2後		2		○			1					
	グローバル経済史1	2前		2		○					1			
	グローバル経済史2	2後		2		○					1			
	統計学1	2前		2		○			1					
	統計学2	2後		2		○			1					
	経済数学a	2後		2		○			2					
	経済情報科学1	2後		2		○				1				
	経済政策論1	2前		2		○					1			
	経済政策論2	2後		2		○					1			
	社会政策論1	2前		2		○								兼1
	社会政策論2	2後		2		○								兼1
	金融論a	2前		2		○			1					
	金融論b	2後		2		○			1					
	国際経済学a	2前		2		○								兼1
	国際経済学b	2後		2		○								兼1
	地域科学	2後		2		○				1				
	労働と生活	2後		2		○			1					
	経営学a	2前		2		○				1	1			
	経営学b	2後		2		○				1	1			
	会計学1	2前		2		○			1					
	会計学2	2後		2		○			1					
	経営組織論	2後		2		○					1			
	財務会計a	2後		2		○					1			
	オペレーションズ・リサーチ	2前		2		○				1				
	専門基礎演習	2前		2				○		8	5			
小計(34科目)			2	66			—		14	7	4		兼2	
科目専門展開	ゲーム理論1	3前		2		○			1					
	ゲーム理論2	3後		2		○			1					
	計量経済学1	3前		2		○			1					
	計量経済学2	3後		2		○			1					

ミクロ経済学 3	3前	2	○	1						
マクロ経済学 3	3前	2	○		1					
経済数学 b	3前	2	○			1				
市場と組織	3前	2	○	1						
地域経済史	3前	2	○	1						
経済情報科学 2	3前	2	○				1			
労働経済学	3前	2	○				1			
財政学 a	3前	2	○				1			
小計 (49科目)	3後	2	○				1			
日本経済論	3前	2	○					1		
地方財政論 a	3前	2	○				1			
地方財政論 b	3後	2	○				1			
国際金融論 a	3前	2	○	1						
国際金融論 b	3後	2	○	1						
環境経済学 1	3前	2	○				1			
環境経済学 2	3後	2	○				1			
医療経済学	3後	2	○				1			
公共経済学	3後	2	○	1						
社会保障論	3後	2	○							兼1
産業組織論	3後	2	○	1						
くらしとマネー	3前	2	○							兼1
経済・経営特殊講義	3前	2	○							兼1
経営情報 a	3前	2	○				1			
経営情報 b	3後	2	○				1			
マーケティング a	3前	2	○				1			
マーケティング b	3後	2	○				1			
中小企業論 a	3前	2	○				1			
中小企業論 b	3後	2	○				1			
財務会計 b	3前	2	○	1						
公会計	3前	2	○				1			
管理会計 a	3前	2	○				1			
管理会計 b	3後	2	○				1			
生産管理	3前	2	○				1			
ベンチャービジネス論	3後	2	○					1		
ミクロ経済学演習	3前後, 4前後	8	○	1						
マクロ経済学演習	3前後, 4前後	8	○				1			
経済原論演習	3前後, 4前後	8	○	1						
意思決定論演習	3前後, 4前後	8	○	1						
経済学史演習	3前後, 4前後	8	○	1						
日本経済史演習	3前後, 4前後	8	○	1						
グローバル経済史演習	3前後, 4前後	8	○					1		
統計学演習	3前後, 4前後	8	○	1						
経済情報科学演習	3前後, 4前後	8	○				1			
経済政策論演習	3前後, 4前後	8	○							
地域政策論演習	3前後, 4前後	8	○				1			
財政学演習	3前後, 4前後	8	○				1			
社会政策論演習	3前後, 4前後	8	○							
環境経済学演習	3前後, 4前後	8	○				1			
国際経済学演習	3前後, 4前後	8	○							
国際金融論演習	3前後, 4前後	8	○	1						
経営学演習	3前後, 4前後	8	○					1		
会計学演習	3前後, 4前後	8	○	1						
中小企業論演習	3前後, 4前後	8	○				1			
経営情報演習	3前後, 4前後	8	○				1			
マーケティング演習	3前後, 4前後	8	○				1			
管理会計演習	3前後, 4前後	8	○				1			
小計 (60科目)		252	—	8	10	4				兼3

専門完成科目	卒業論文	4		4		○		7	8	3				
	グループ卒業論文	4		2		○		7	8	3				
	卒業研究	4		2		○		7	8	3				
	小計 (3科目)			8		—		7	8	3				
横断的教育科目 (基礎科目)	憲法 1	2前		2		○		1	1					
	憲法 2	2後		2		○		1	1					
	行政法 1	2前		2		○			1					
	刑事法基礎 1	2前		2		○			1					
	刑事法基礎 2	2前		2		○		1						
	民法基礎 (契約法)	2前		2		○		1	1					
	民法基礎 (不法行為法)	2後		2		○		1	1					
	私法入門	2前		2		○			1					
	金融法入門	2前		2		○		1						
	会社法 1	2前		2		○		1						
	会社法 2	2後		2		○		1						
	労働法 1	2前		2		○			1					
	労働法 2	2後		2		○			1					
	地域政策論 1	2前		2		○							兼1	
	地域政策論 2	2後		2		○							兼1	
	政治理論 1	2前		2		○		1						
	政治理論 2	2後		2		○		1						
	政治過程論 1	2前		2		○			1					
	政治過程論 2	2後		2		○			1					
	行政学 a	2前		2		○		1						
	行政学 b	2後		2		○		1						
	グローバル・ガバナンス論 1	2前		2		○			1					
	グローバル・ガバナンス論 2	2後		2		○			1					
小計 (23科目)			46		—		6	6					兼1	
横断的教育科目 (展開科目)	法律の経済分析	3前		2		○		2						
	社会制度と政策設計	3後		2		○		2						
	政策法務	3前		2		○			1					
	行政法 2	3後		2		○			1					
	国際取引法 1	3前		2		○		1						
	国際取引法 2	3後		2		○		1						
	経済法 1	3前		2		○		1						
	経済法 2	3後		2		○		1						
	ビジネス与信管理入門	3前		2		○							兼1	
	公共政策学 1	3前		2		○			1					
	公共政策学 2	3後		2		○			1					
	社会科学英語演習	3前・後		2		○		1	1					
小計 (12科目)			24		—		5	4					兼1	
合計 (138科目)		—	2	408		—		26	23	4				兼兼1兼1
学位又は称号		学術 (経済学)			学位又は学科の分野			経済学関係						
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
基盤共通教育科目39単位、専門教育科目90単位〔専門共通科目8単位、専門導入科目8単位、専門基礎科目及び専門展開科目 (選択必修科目を含む) 60単位、自由科目6単位、専門完成科目8単位〕以上を修得し、129単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限：48単位 (年間))							1学年の学期区分			2期				
							1学期の授業期間			15週				
							1時限の授業時間			90分				

教 育 課 程 等 の 概 要															
(人文社会科学部 人文社会科学科(学科共通科目))															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
キャリア科目	キャリア・ガイダンス	2前		2		○			2						
	キャリア形成論	2前・後		2		○									兼1
	キャリア形成論演習	2後		2			○								兼1
	インターンシップ	2通		2				○	5	2					
	地域社会論	2前		2		○			1						
	小計(5科目)	3前		10			—		6	2					兼2
スキル科目	統計学基礎	2後		2			○		1	1					
	社会調査法基礎	2前・後		2		○			1						
	データ処理演習	2前		2			○		1	3					
	小計(3科目)			6			—		3	4					
実践科目	課題演習(地域情報)	3前		2			○		2	1					
	課題演習(ドキュメンタリー映画と現代史)	3前		2			○		1						
	課題演習(比較文化)	3後		2			○		1	1					
	課題演習(歴史文化実習)	3後		2			○			2	1				
	グローバル・プロブレマティク基礎演習a	2前		2			○			1					
	グローバル・プロブレマティク基礎演習b	2前		2			○		1						
	グローバル・プロブレマティク基礎演習c	2後		2			○			1					
	グローバル・プロブレマティク基礎演習d	2後		2			○			1	1				
	グローバル・プロブレマティク基礎演習d	2前		2			○			1					
	グローバル・プロブレマティク基礎演習d	2後		2			○			1					
	異文化間コミュニケーション1	1通		2				○		2					
	異文化間コミュニケーション2	1通		2				○		1					
	法務実践演習a	2後		2				○		1	1				
	法務実践演習b	2後		2				○		1	2				
	法務実践演習c	3前		2				○		2	1				
	法務実践演習d	3前		2				○		2					
	法務実践演習e	3前		2				○			2				
	法務実践演習f	2前		2				○		1					
	公共政策・地域課題実践演習A1	2前		2				○		1					
	公共政策・地域課題実践演習A2	2前		2				○		1					
	公共政策・地域課題実践演習A3	2前		2				○		1					
	公共政策・地域課題実践演習A4	2後		2				○		2		1			
	公共政策・地域課題実践演習B1	3前		2				○		1					
	公共政策・地域課題実践演習B2	3前		2				○		1					
	公共政策・地域課題実践演習B3	3前		2				○		1					
	公共政策・地域課題実践演習B4	3前		2				○		1					
	企業課題解決型実践演習a	3後		2				○			3				
	企業課題解決型実践演習b	3後		2				○			1				
	企業課題解決型実践演習c	3前		2				○				1			
	ビジネス創業実践演習	3後		2				○		2	1				
	特別プログラム演習	3後		2				○		1					
	小計(31科目)			62			—		20	28	8	1			
その他	日本語a	2前			2	○			1						
	日本語b	2後			2	○			1						
	外国語・外国事情				2	○									
	留学事前演習	1前・後		2		○			11	8	3				

公共政策セミナー	4前		2	○		13	14	4				
書道	2前・後		2	○								兼1
ラテン語1	2前		2		○		1					
ラテン語2	2後		2	○			1					
スペイン語1	1前		2		○		1					
スペイン語2	1後		2		○		1					
ツーリズム産業論	1後		2	○			1					
小計(7科目)			2		—	27	20	7				兼1
合計(44科目)	—		80	14	—	36	30	10				兼3
学位又は称号			学位又は学科の分野									
卒業要件及び履修方法						授業期間等						
						1学年の学期区分			2期			
						1学期の授業期間			15週			
						1時限の授業時間			90分			

教 育 課 程 等 の 概 要														
(地域教育文化学部 地域教育文化学科 (児童教育コース))														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
中心科目	男女共同参画社会と教育	2前		2		○			1					
	地域社会とファッション	2後		2		○			2					
	教育原論	1前	2			○							兼1	
	音楽史概説	1前		2		○							兼1	
	発達心理学	1後	2			○			1	1				
	造形史概説	1後		2		○			1					
	特別支援教育総論	1後	2			○							兼1	
	地域環境と経済	1後		2		○				1				兼1
	学校・地域における食育	2前		2		○								
	生涯学習論	2後		2		○			1					
	フィールドプロジェクトA(地域音楽交流)	3前・後		2				○	1					
	フィールドプロジェクトB(伝統文化とものづくり)	3前・後		2				○	1	2				
	フィールドプロジェクトC(地域食文化交流)	3前・後		2				○	1	1	1	1		
	フィールドプロジェクトD(地域スポーツ文化交流)	3前・後		2				○	2					
	フィールドプロジェクトE(まちづくりと社会参画)	3前・後		2				○	1	1				
	フィールドプロジェクトF(科学体験教室)	3前・後		2				○	3	1	1			
小計 (16科目)			6	26					12	7	2	1	兼4	
基礎科目	教職論	1前	2			○			1					
	教育方法・技術	2前	2			○				1				
	道徳教育の理論と実践	2後	2			○			1					
	学習心理学	2前		2		○			1				兼1	
	国語の基礎	1後		2		○							兼1	
	社会の基礎	1前		2		○			1					
	算数の基礎	2前		2		○					1			
	理科の基礎	2前		2		○			3		1			
	生活の基礎	1前		2		○				1				
	音楽の基礎	2前	2			○			1	1			兼1	
	図画工作の基礎	2前	2			○			2					
	体育の基礎	2前	2			○			1	1				
	家庭の基礎	2前		2		○			1	1				
	外国語の基礎	1後		2		○				1	1		兼1	
	初等教科教育法 I (国語)	2前	1					○					兼1	
	初等教科教育法 I (社会)	1後	1					○					兼1	
	初等教科教育法 I (算数)	1後	1					○			1			
	初等教科教育法 I (理科)	2後	1					○		1				
	初等教科教育法 (生活)	1後	2					○		1				
	初等教科教育法 (音楽)	2後	2					○	1					
	初等教科教育法 (図画工作)	2後	2					○	1					
	初等教科教育法 (体育)	2後	2					○	1	2				
	初等教科教育法 (家庭)	2後	2					○		1				
	初等教科教育法 (外国語)	2後	2					○	1					
	教育実践 (総合的な学習の時間)	2後		2				○	1					
	教育実践基礎実習 (幼・小)	2前・後	1					○		1				
	教育実践基礎実習 (中)	3前・後		1				○						
教育臨床体験 (介護等体験)	2前・後	2					○					兼2		
教育実践実習事前・事後指導 (幼・小)	2前・後	1					○		1					

	教育実践実習事前・事後指導（中・高）	3前・後		1			○						
	小計（30科目）		32	20				13	7	3		兼6	
専門科目	教育課程編成論	3前	2				○	1					
	教材開発演習	3後		2			○	2	2	1		兼2	
	特別活動論	3前	2				○	1					
	教育社会学	2後		2			○	1					
	生徒指導・進路指導	3前	2				○					兼1	
	教育相談	3後	2				○		1				
	教育経営学	3前		2			○					兼1	
	初等教科教育法Ⅱ（国語）	3前	1				○					兼1	
	初等教科教育法Ⅱ（社会）	3前	1				○					兼1	
	初等教科教育法Ⅱ（算数）	3前	1				○			1			
	初等教科教育法Ⅱ（理科）	3前	1				○					兼1	
	初等理科実験	3後		2			○	3	1				
	教員になるための学校防災	3前	2				○	1				兼1	
	環境教育論	2前		2			○		1			兼1	
	教育実践実習A	3前・後	3								○		
	教育実践実習B	4前・後		3							○		
	教育実践実習C	4前・後		2							○		
	地域社会の教育計画	3後		2			○					兼2	
	教職実践演習（幼・小・中・高）	4後	2				○	1		1			
	教職大学院への招待	2前		2			○					兼14	
学習開発フィールドワーク	2後		2							○	兼13		
小計（21科目）		19	21			—	8	4	1		兼16		
発展科目	教育臨床体験（教育ボランティア）	2前・後		2			○	1					
	教育臨床体験（適応教室）	4前・後		2			○						
	地域学校協働インターンシップ	4前・後		1			○						
	社会と学力	2後		2			○	1					
	保育内容（健康）	2後		2			○	1					
	保育内容（人間関係）	3前		2			○		1				
	保育内容（表現A）	3前		2			○	1					
	保育内容（表現B）	2後		2			○	1				兼1	
	保育内容（言葉）	3前		2			○	1					
	保育内容（環境）	2後		2			○		1	1		兼1	
	幼児教育指導法	2後		2			○		1				
	幼児の理解	3前		2			○		1				
	幼稚園実習	4後		2							○		
	学校経営と学校図書館	3前		2			○					兼1	
	学校図書館メディアの構成	3前		2			○					兼1	
	学習指導と学校図書館	3前		2			○					兼1	
	読書と豊かな人間性	3前		2			○					兼1	
	情報メディアの活用	3前		2			○		1				
	社会教育論	2前		2			○	1					
	社会教育計画A	3前		2			○	1					
	社会教育計画B	3後		2			○	1					
	社会教育演習	3前		2			○	1					
	社会教育実習	2前		2			○					兼2	
	社会教育課題研究	3後		2			○	1					
	現代社会と社会教育	2後		2			○	1					
	社会教育施設	2前		2			○					兼1	
	社会教育団体論	2前		2			○					兼1	
	教育工学	2前		2			○	1					
	障害児教育総論	2前		2			○					兼1	
	知的障害児の心理・生理	2前		2			○	1					
発達障害児の心理・生理	2後		2			○	1						
知的障害児の病理	3前		2			○	1						
知的障害児の発達	2後		2			○					兼1		

肢体不自由児の心理	2前	2	○							兼1
病虚弱児の心理	2後	2	○							兼1
知的障害児の教育	2後	2	○							兼1
知的障害児の教育経営	3通	2	○				1			
肢体不自由児の教育	2前	2	○							兼1
病虚弱児の教育	2後	2	○							兼2
視覚障害児の心理と教育	2前	2	○							兼1
聴覚障害児の心理と教育	2前	2	○							兼2
発達障害児の教育	3前	2	○							兼1
特別支援学校教育実習（事前・事後指導を含む）	4前	4				○				
国語学概論Ⅰ	2前	2	○				1			
国語学概論Ⅱ	2後	2	○				1			
国語学講義	3前	2	○				1			
国語学演習Ⅰ	2後	2		○			1			
国語学演習Ⅱ	3前	2		○			1			
国語学特別講義	3後	2	○				1			
日本文学概説	2前	2	○				1			
日本文学史概説	3前	2	○				1			
日本文学講読	2後	2	○				1			
日本文学演習Ⅰ	3前	2		○			1			
日本文学演習Ⅱ	3後	2		○			1			
日本文学特別講義	4前	2	○				1			
和歌文学特殊講義 a	3後	2	○				1			
和歌文学特殊講義 b	3後	2	○				1			
漢文学講読	2前	2	○				1			
漢文学概論	2後	2	○				1			
漢文学演習Ⅰ	3前	2		○			1			
漢文学演習Ⅱ	3後	2		○			1			
書道実技Ⅰ	2前	1		○			1			兼1
書道実技Ⅱ	2後	1		○						兼1
国語科教育法	2前	2	○							兼1
国語の教材分析A	3前	2	○							兼1
国語の教材分析B	3後	2	○				3			
国語科実践演習	3後	2		○			4			兼1
日本史概論	2前	2	○				1			
日本文化史概論	2後	2	○				1			
日本古代史概論	2後	2	○							兼1
日本近代史概論	3前	2	○							兼1
日本史演習	3前	2		○			1			
日本史講読	3後	2		○			1			
古文書学	3前	2	○				1			
日本史史料論	3後	2	○				1			
ヨーロッパ史概論	2後	2	○							兼1
内陸アジア史概論	3前	2	○							兼1
人文地理学概論	1後	2	○							兼1
地理学野外実習A	2前	2				○	1			兼1
地理学野外実習B	2前	2				○	1			兼1
自然地理学概論	2前	2	○				1			
自然地理学演習	3後	2		○			1			
地形災害論	3前	2	○				1			
地誌学特論	2後	2	○				1			
政治過程論 1	2前	2	○							兼1
経済学概論	2後	2	○							兼1
経済学演習	3前	2		○						兼1
社会学概論	1後	2	○							兼1
倫理学概論	2後	2	○					1		
倫理学演習	3前	2		○				1		

社会科教育法	2前	2	○			1						
社会の教材分析A	2後	2	○									兼1
社会の教材分析B	2前後、3前後	2	○			1						
社会科実践演習	3後	2		○		3	1					兼1
地歴科教育法	2後	2	○			1						
代数学概論	1前	2	○			1						
代数学基礎	1後	2	○			1						
代数学発展	3後	2	○			1						
幾何学概論	1前	2	○			1						
幾何学基礎	1後	2	○			1						
幾何学発展	2後	2	○			1						
解析学概論	1前	2	○					1				
解析学基礎	1後	2	○					1				
解析学発展	3前	2	○			1						
確率・統計概論	2前	2	○					1				
統計学	2後	2	○					1				
多変量解析	3前	2	○					1				
プログラミング	2前	2	○									兼2
コンピュータアーキテクチャ	2前	2	○			1						
データ構造とアルゴリズム	2後	2	○			1						
計算数学A	3前	2	○									兼1
計算数学B	3後	2	○									兼1
数学科教育法	2前	2	○									兼1
数学の教材分析A	2後	2	○						1			
数学の教材分析B	3前	2	○						1			
数学科実践演習	3後	2		○		2	1	1				
物理学概論	2前	2	○			1						
物理学演習	3前	2		○		1						
物理学実験	2後	2			○	1						
計算物理学	2後	2	○			1						
物理学の基礎	3前	2	○			1						
応用物理学	3後	2	○			1						
化学概論	2前	2	○						1			
化学演習	3後	2		○					1			
化学実験	2後	2			○				1			
生物学概論	2前	2	○			1						
生物学演習	2後	2		○		1						
生物学実験	3前	2			○	1						
生物学臨海実習	2前・後	1.5			○							兼2
生物学野外実習	2前・後	1.5			○	1						兼1
地学概論	1後	2	○			1						
地学演習	3前	2		○		1						
地学実験	2前	2			○	1						
地学調査法野外実習	2前・後	2			○	1						
地学野外実習	2前・後	2			○	1						
理科教育法	2前	2	○									兼1
理科の教材分析	3後	2	○					1				
理科実践演習（物理学・化学）	2後	2		○		1						
理科実践演習（生物学・地学）	3前	2		○		2	1					
英語学概説	2前	2	○									兼1
英語学演習A	2後	2		○								兼1
英語学演習B	3前	2		○								兼1
第二言語習得論概論	2後	2	○			1						
第二言語習得論演習	3前	2		○								兼1
英語文学講読	2前	2	○						1			
英語文学と映像文化	2前	2	○					1				
英語文学演習	2後	2		○					1			

児童英語文学論	3前		2			○			1				
現代イギリス文学論	2後		2			○				1			
英語表現（英会話）基礎	2前		2			○			1				
英語表現（英会話）演習	3前		2				○		1				
英語表現（英作文）	2後		2			○		1					
異文化コミュニケーション概論	2後		2			○			1				
異文化コミュニケーション特論	3前		2			○			1				
現代アメリカ事情演習	3前		2				○		1				
異文化交流とインターネット活用	2後		2			○							兼1
日英音声比較文化論	3後		2			○							兼1
英語科教育法	2前		2			○		1					
英語の教材分析A	2後		2			○		1					
英語の教材分析B	3前		2			○							兼1
英語科実践演習	3後		2				○	1	2	1			兼1
特別課題演習Ⅰ	3前		1				○	1					
特別課題演習Ⅱ	3後		1				○	1					
学習開発デザインセミナーⅠ	3前		1				○						兼11
学習開発デザインセミナーⅡ	3後		1				○						兼11
教職実践基礎プレゼンテーション	4通		4				○						兼11
卒業研究	4通		4				○	19	9	3			
小計（167科目）			332			—		23	10	3			兼43
合計（234科目）	—	57	399			—		29	17	4	1		兼49
学位又は称号	学士（教育学）		学位又は学科の分野		教育学関係								
卒業要件及び履修方法					授業期間等								
基盤共通教育科目35単位，専門教育科目79単位〔中心科目10単位，基礎科目32単位，専門科目25単位，発展科目12単位〕，自由選択科目16単位以上を修得し，130単位以上修得すること。 （履修科目の登録の上限：56単位（年間））					1学年の学期区分				2期				
					1学期の授業期間				15週				
					1時限の授業時間				90分				

教育課程等の概要															
(地域教育文化学部 地域教育文化学科(文化創生コース))															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
中心科目	男女共同参画社会と教育	2前		2		○			1						
	地域社会とファシテーション	2後		2		○			2						
	教育原論	1前	2			○								兼1	
	音楽史概説	1前		2		○								兼1	
	発達心理学	1後	2			○			1	1					
	造形史概説	1後		2		○			1						
	特別支援教育総論	1後	2			○								兼1	
	地域環境と経済	1後		2		○				1				兼1	
	学校・地域における食育	2前		2		○									
	生涯学習論	2後		2		○			1						
	フィールドプロジェクトA(地域音楽交流)	3前・後		2				○	1						
	フィールドプロジェクトB(伝統文化とものづくり)	3前・後		2				○	1	2					
	フィールドプロジェクトC(地域食文化交流)	3前・後		2				○	1	1	1	1			
	フィールドプロジェクトD(地域スポーツ文化交流)	3前・後		2				○	2						
	フィールドプロジェクトE(まちづくりと社会参画)	3前・後		2				○	1	1					
	フィールドプロジェクトF(科学体験教室)	3前・後		2				○	3	1	1				
小計(16科目)			6	26					12	7	2	1	兼4		
基礎科目	地域芸術文化実践論	1前	2			○			2	2					
	心身健康支援実践論	1前	2			○			4	7	2	1		兼1	
	地域防災論	2後	2			○									
	生活文化論	1前		2		○				1					
	食文化論	1後		2		○			1						
	ライフステージとスポーツ	1後		2		○			1	2					
	ライフステージと食	2前		2		○				1					
	デザインと文化	2前		2		○								兼1	
	乳幼児心理学	2前		2		○					1				
	芸術アウトリーチ基礎	2前・後		2		○			1	1					
	心理学概論	1前		2		○			1	1					
	生涯スポーツ学	1前		2		○			1						
	ソルフェージュ基礎	1後		2		○				1					
	平面造形基礎	1前		2		○			1						
	造形文化論	1後		2		○			1						
	音楽文化論	1後		2		○			2	1				兼1	
	スポーツ科学基礎論	1後		2		○			2	4					
	食と健康	1後		2		○				1					
	音楽理論基礎	1前		2		○				1					
	管弦打楽器奏法基礎	1後		2				○						兼12	
	鍵盤楽器奏法基礎	1後		2				○	2					兼3	
	声楽基礎	1後		2				○						兼2	
	立体造形基礎	1後		2				○		1				兼1	
	心理学統計法	1後		2			○							兼1	
	教育心理学(教育・学校心理学)	1後		2			○			1					
	学習心理学	2前		2			○		1					兼1	
作曲法基礎	2前		2			○			1						
絵画基礎	2前		2				○						兼1		
彫刻基礎	2前		2				○		1						

デザイン基礎	2前		2			○													兼1
工芸基礎	2前		2			○													兼1
スポーツ社会学	2前		2			○			1										
スポーツ生理学	2前		2			○					1								
スポーツ原理	2前		2			○													
基礎栄養学	2前		2			○													兼1
基礎食品学	2前		2			○			1										兼1
調理学	1前		2			○								1					
社会教育論	2前		2			○			1										
認知心理学 (知覚・認知心理学)	2前		2			○													兼1
社会心理学	2後		2			○													兼1
学習心理学 (学習・言語心理学)	2前		2			○			1										
感情・人格心理学	2前		2			○						1							
神経・生理心理学	2後		2			○													兼1
臨床心理学概論	2後		2			○			1		1								
日本美術史概説	2後		2			○													兼1
合唱基礎演習	2後		2					○	1										兼1
合奏基礎演習	2後		2					○	1										
絵画表現演習	2後		2					○	1										
彫刻表現演習	2後		2					○			1								
デザイン表現演習	2後		2					○											兼1
スポーツ心理学	2後		2			○					1								
スポーツバイオメカニクス	2後		2			○					1								
アンサンブル基礎	2後		2					○		2									
日本音楽演習	3前		2					○											兼1
指揮法基礎	3前		2					○	1										
生涯学習と造形	3前		2					○	1										
心理学実験	2前		4					○	1										
心理学研究法	2後		2					○	1										
心理的アセスメント	3前		2					○	1		1								
健康科学演習	3後		2					○			2								
地域スポーツ実技 (夏季スポーツ)	2前		1						○	1									
地域スポーツ実技 (冬季スポーツ)	2後		1						○		2								兼2
調理学実習 I	2前		1						○		1								
地域文化創生演習	2後		2					○	1										兼2
文化創造への招待	2前		2			○			1										
文化創造フィールドワーク	2後		2					○	1										
小計 (66科目)			6	125							13	13	2	1					兼31
専門科目																			
産業・組織心理学	2前		2			○													兼1
鍵盤楽器奏法応用演習	2前		2					○	1										兼2
声楽応用演習	2前		2					○											兼2
管弦打楽器奏法応用演習	2前		2					○											兼12
造形史特論	2前		2			○			1										
コーチング論	2前		2			○					1								
トレーニング論	2前		2			○					1								
音楽科教育法	2前		2			○			1										
美術科教育法	2前		2			○			1										
保健体育科教育法	2前		2			○			1										
作曲法応用	2後		2			○					1								
舞台表現演習	2後		2					○	2										兼4
司法・犯罪心理学	2後		2			○			1										
障害者・障害児心理学	2後		2			○						1							
健康・医療心理学	2後		2			○						1							
福祉心理学	2後		2			○						1							
人体の構造と機能及び疾病	2後		2			○													兼1
精神疾患とその治療	2後		2			○													兼1
体力測定演習	2後		2					○			2								

スポーツ医科学	2後	2	○					1				
衛生・公衆衛生学	2後	2	○				1					
学校保健	3前	2	○				1					
食と疾病	2後	2	○						1			
食品と衛生	2後	2	○				1					
アンサンブル応用演習	3前	2		○			1					
合唱応用演習	3前	2		○			1				兼1	
合奏応用演習	3前	2		○			1					
地域とデザイン	3前	2	○								兼1	
地域ファシリテート実践論	3前	2	○				3	1				
絵画応用演習	3前	2		○							兼1	
彫刻応用演習	3前	2		○				1				
彫刻論	3前	2	○					1				
デザイン応用演習	3前	2		○							兼1	
心理学的支援法	3前	2	○					1				
スポーツ行政学	3前	2	○				1					
スポーツ史	3前	2	○					1				
武道文化論	3前	2	○				1					
スポーツ栄養学	3前	2	○							1		
体育スポーツ実技(ダンス)	3前	1			○						兼1	
地域ファシリテート実践演習	3後	2		○			3	1				
絵画論	3後	2	○				1					
造形表現総合演習	3後	2		○			1	1			兼2	
家族心理学(社会・集団・家族心理学)	3後	2	○					1				
関係行政論	3後	2	○				1					
スポーツマネジメント	3後	2	○								兼1	
体育スポーツ実技(水泳・アクアスポーツ)	1前	1			○						兼1	
体育スポーツ実技(武道・陸上競技・体操)	2前	2			○		1	2				
体育スポーツ実技(サッカー・バスケットボール・バレーボール)	2後	2			○		1	2				
音楽の教材分析A	2後	2	○				1					
音楽の教材分析B	3前	2	○				1					
美術の教材分析A	2後	2	○				1					
美術の教材分析B	2後	2	○								兼1	
保健体育の教材分析A	2後	2	○				1	1				
保健体育の教材分析B	3前	2	○				2	2				
音楽科実践演習	3後	2		○			2	1				
美術科実践演習	3前	2		○			2	1				
保健体育科実践演習	3前	2		○			1	1				
調理学実習II	2後	1				○				1		
調理加工科学実験	3後	1				○						
小計(59科目)		114					11	8	2	1	兼24	
発展科目	博物館学(概論)	1前	2	○							兼1	
	博物館学(経営論)	2後	2	○							兼1	
	博物館学(資料論)	2後	2	○							兼1	
	総合表現基礎演習	3前	2		○		2					
	公認心理師の職責	3前	2	○			1					
	心理演習	3前	2		○		2	3	1			
	総合舞台芸術実践演習	3後	2		○		1				兼1	
	絵画技法演習	3後	2		○		1					
	彫刻技法演習	3後	2		○			1				
	総合表現応用演習	3後	2		○		2				兼4	
	心理実習	3前・後	2			○	2	3	1			
	キャリア教育	2後	2		○		2				兼8	
	生涯スポーツ実技(ラケット・バット・レクリエーションスポーツ)	3前	2			○	1				兼2	
	地域食育実習	3前	2			○	1					
	環境教育論	2前	2	○				1			兼1	
教育実践実習B	3前	3			○		1					

教育実践実習C	2前		2			○		1						
教育実践基礎実習(中)	2前		1			○		1						
教育実践実習事前・事後指導(中・高)	2前後、3前後		1			○		1						
教育臨床体験(介護等体験)	2前・後		2			○							兼2	
教職論	2前		2		○			1						
教育社会学	3前		2		○			1						
教育経営学	3後		2		○								兼1	
教育課程編成論	3後		2		○			1						
特別活動論	3後		2		○			1						
教育方法・技術	2後		2		○				1					
総合的な学習の時間論	3前		2			○		1						
道徳教育の理論と実践	3前		2		○			1						
生徒指導・進路指導	3前		2		○				1					
教育相談	3後		2		○				1					
教職実践演習(中学校・高等学校)	4後		2			○								
社会体験(インターンシップ)	3前・後		2				○							
特別課題演習I	3前		1			○		12	11	1	1		兼2	
特別課題演習II	3後		1			○		12	11	1	1		兼2	
地域文化デザインセミナーI	3前		1			○		1						
地域文化デザインセミナーII	3後		1			○		1						
特別研究基礎プレゼンテーション	4通		4			○		12	11	1	1		兼2	
卒業研究	4通		4			○		14	12	2	1			
小計(38科目)			75			—		17	14	3	1		兼21	
合計(179科目)	—	12	340			—		21	14	3	1		兼51	
学位又は称号	学士(学術)		学位又は学科の分野				教育学・保育学関係、美術関係、音楽関係、体育関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
基盤共通教育科目35単位、専門教育科目75単位〔中心科目10単位、基礎科目33単位、専門科目20単位、発展科目12単位〕、自由選択科目20単位以上を修得し、130単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限:56単位(年間))							1学年の学期区分				2期			
							1学期の授業期間				15週			
							1時限の授業時間				90分			

授 業 科 目 の 概 要			
(社会文化創造研究科 社会文化創造専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎教育科目	地域創生・次世代形成・多文化共生論	本講義は、「地域創生」、「次世代形成」、「多文化共生」の3つを主たるテーマとし、講義を通じ、現代に取り巻く地域の活性化やグローバル化を背景とした諸課題に対し、研究者・実践家が自然科学・現代技術・社会科学の知を駆使してどのような方法論に基づいて向き合っているのかを体感させる。これにより、学生自身に自らの将来像を描かせ、その将来像からバックキャストすることで、大学において学生個々がどのように学修してゆくかを考えさせる。「次世代形成」では「研究倫理」についても取り上げる。	共同
基礎専門科目	異分野連携論	本講義は、科学・技術・社会における学際融合（マッチング・課題探索）に関する最先端の内容を紹介することで、分野の枠を超えた理解・協同のための取り組み・仕組み作りにおいて必要な要素を把握し理解させることを目的とする。これに加え、イノベーションや人災事故など陽と陰の両面の作用をもつ科学・技術による社会への様々な影響、および、反対に社会条件による科学・技術の制約の作用の両面を研究する「科学技術社会論」を取り上げ、広義の科学を俯瞰する能力を育むものである。	共同
	異分野実践研修	本実習は、自らの専門とは異なる分野で課題に取り組む際の専門の枠を超えた理解・協働を促進する実践力あり方を習得するため、専門が異なる学内の異分野研究室での研修（例：研究室ローテーション）、異分野の産業現場における実習（学外企業へのインターンシップ）、異分野の研究施設における実習又は国外におけるフィールドワークへの参加等を通じて、異分野連携の実践を体感することを目的とする。	共同
	キャリア・マネジメント	学界に寄与する優れた研究の推進あるいは先端的な技術開発の貢献等によって、研究者・高度専門職従事者として十分自立して活動するために必要な、大学院修了後のキャリアパスについて学ぶ。大学院生が自身のキャリアについて考察し、それを実現するためにどのような能力を獲得すべきかについて主体的に考えるキャリア・マネジメント力を身につけることを目的とする。	
	研究者としての基礎スキル	分野の枠を超えた多様なプレゼンテーション・研究マネジメントスキルに関する講義を通じて、両スキルに対する理解を深めるとともに、自身のスキルアップへ向けた課題発見および解決へ向けた取り組みを考えることを目的とする。また、研究倫理に関する基本的な知識と考え方を正しく理解することを目指す。 （オムニバス形式／全8回） （122 富松 裕、110 小倉泰憲 /1回） ガイダンスおよび研究倫理 （128 奥野 貴士 /1回） 理学分野の地域型研究マネジメント （103 浦川 修司 /1回） 農学分野の地域型研究マネジメント （121 村上 正泰 /1回） 医学分野の地域型研究マネジメント （86 本島 優子、92 関口 雄一、4 富田かおる /2回） 一般的なプレゼンスキル （141 カロリン・イブトナー /2回） 国際的なプレゼンスキル	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	データサイエンス	<p>データサイエンスの最新事情とそれを構成する技術群を理解するとともに、データ分析の基本的な手法を学び、研究や業務の中でデータサイエンスを適用した課題解決が行える知識・基礎的素養を身につける。</p> <p>(オムニバス形式／全7回) (135 安田宗樹／2回) データ表現とデータ解析手法 (111 脇 克志／2回) データサイエンス分野に使われる代表的な数理・技術 (119 中西正樹／1回) データサイエンスを支える計算技術 (116 古澤宏幸／1回) 生命・医療・ヘルスケア分野におけるデータサイエンスおよび機械学習・深層学習、 (135 安田宗樹／1回) 総括</p>	オムニバス方式
	Academic Skills : Scientific Presentations + Writing	<p>(英文) In “Academic Skills: Scientific Presentations + Writing,” we will learn how to use English effectively for scientific purposes. This course will teach the usage of English in academic presentations and academic writing. The course will focus on English phrases as well as smart presentation techniques. Examples of such are meaningful comparisons, figures, and labels. (和文) 学術的な文章で英語をどのように効果的に使用すればよいかを学ぶ。このコースでは、アカデミックライティング、プレゼンテーションにおける英語の使用方法について講義する。また、スマートなプレゼンテーションのために役に立つ英語フレーズ、効果的な図表の入れ方についても学ぶ。</p>	共同
	知財と倫理	<p>研究活動を進めていく上で必須となる知財及び倫理についての基本知識や考え方を習得することを目的とする。授業の方法は、知財及び倫理に関する講義とグループディスカッション、演習を組み合わせ構成する。</p>	集中
	技術経営学概論	<p>技術経営とは何かに関して、基礎的な知識を習得する。技術経営と価値創成の意義、イノベーションエコシステムとバリューチェーン、コア技術戦略、アーキテクチャーとプラットフォーム、組織能力とプロセスマネジメント等について学ぶ。技術経営学全体を概観するとともに、マネジメント領域の専門科目の基盤となる基本的知識の理解を深める。</p>	集中

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	食の未来を考える	<p>生産、加工、醸造、流通、安全といった食の川上から川下まで、食の未来について考え、専門分野の枠にとらわれず「食」に関する基礎知識を身につけることを目的とする。8人の教員がそれぞれ1回担当するオムニバス方式で行う。主にパワーポイントを用いて講義を行う。</p> <p>(オムニバス形式／全8回) (129 藤科 智海／1回) 農業から食品製造業、食品流通業、外食産業等を通して私たちの食生活が成り立っている現状を説明する。 (142 茄子川 恒／1回) 野菜の生産を中心に、食料生産とカロリー、飢餓との関連について理解し、その未来について考える。 (130 松山裕城／1回) 畜産業の現在（畜産物の生産技術、生産・消費動向、課題など）を理解し、未来について考える。 (131 星野 友紀／1回) DNA情報を用いた作物ゲノム育種について、我々の最新の研究を例にあげて紹介する。 (109 村山 秀樹／1回) 食品とりわけ農産物の収穫後の保存方法や流通方法について、最近の知見をまじえて概説する。 (105 小関 卓也／1回) 発酵食品の代表例として、醸造に関わる微生物である麹菌（カビ）の特性および利用について理解する。 (120 渡部 徹／1回) 科学的な根拠をもとに食品の安全がどのように評価・管理されているのか説明するとともに、関連する最新研究を紹介する。 (143 陳 奥飛／1回) 食に関する種々な研究テーマの最下流として、食に関わる消費者行動に着目し、その研究事例を紹介する。</p>	オムニバス方式
	Global Materials System Innovation	<p>材料の基礎から応用に至る知識の修得のみならず、それらを核として他分野との連携により拡張される、より広範な材料システム分野を発展させ、社会実装につなげるべく、高度な材料に関わる専門知識と周辺分野に関わる幅広い知識を兼ね備え、新たな付加価値を創成できるグローバル人材に求められる能力・知識力・技術力・専門力の素養を身につけることを目的とします。</p>	
	先端医科学特論	<p>21世紀型医療を取り巻く実際と将来的展望について理解し、医療における倫理とその問題について理解を深めることを目的とする。医科学における最先端の話題を取りあげることで、現代医療と医療の将来像について多角的に外観するとともに、生命倫理の重要性を認識する。</p> <p>(オムニバス形式／全15回) (106 山崎 健太郎／1回) 医療と法律 (124 鹿戸 将史／1回) 神経放射線診断学の基本 (113 園田 順彦／1回) 脳神経外科学 (125 山口 浩明／1回) 医薬品と倫理 (121 村上 正泰／1回) 社会経済環境の変化と医療政策の過去・現在・未来 (136 小山 信吾／1回) 高次脳機能障害 (134 田中 敦／1回) ミトコンドリアと疾患生物学 (138 邵 力／1回) ゲノミクスと社会医学 (114 岩井 岳夫／1回) 重粒子線治療 (132 高窪 祐弥／1回) 超高齢社会とリハビリテーション</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		(139 佐藤 秀則/1回) 病気と遺伝子 (107 藤井 順逸/1回) 酸化ストレスとレドックス生物学 (133 越智 陽城/1回) 遺伝子発現制御の破綻と疾患 (115 中島 修/1回) マウスを利用した遺伝子機能の解析 (104 石澤 賢一/1回) 血液病学の進歩と課題	
高度専門科目	研究科共通	「文化」を「社会」との関連の中で俯瞰的に捉える視点を学び、地域の伝統芸能・民俗文化が地域社会を形成・維持する上で果たした役割を理解し、現代社会が直面する課題についての分析スキルを身につけ、課題が生じる原因を的確に理解して社会の変革に対応する力を修得する。 本講義は、学生が「文化」と「社会」に関わる貢献や学術研究をみずから構想するにあたり、社会文化創造研究科における教育・研究に即した特徴的なアプローチがどのようなものであるかについて、学術的な共通基盤を地域の伝統芸能や民俗文化の形成・発展に着目することによって身につけることを目的とするものである。 全8回 (18 大喜直彦/3回) オリエンテーションおよび地域間ネットワークについての講義を行う。 (23 三上英司/4回) オリエンテーション、多文化の構造についての講義および共生とグローバリズムをテーマとした総括的な講義を行う。 (24 坂井正人/2回) オリエンテーションおよび共生とグローバリズムをテーマとした総括的な講義を行う。 (26 加藤健司/3回) オリエンテーションおよび文化の動態についての講義を行う。	オムニバス方式
	社会文化創造論 I	研究科所属の一年次学生全員を対象とし、コース横断型の班を編成する。地域の行政・企業・NPO等で活躍するゲストスピーカーを招き、学生主体の参加型演習を行う。授業の目的は以下の2つ。既存の学問領域の垣根を低くし、人間世界を「社会」と「文化」の関係から捉え直し、現代の地域社会が抱える課題の多様性を理解した上で、課題解決に向けて行動することができる実践力を身につける。多様な人々との関わりを通じて豊かなコミュニケーション能力を身につける。2年次の施設実習への準備も兼ねる。	共同
社会文化システムコース	文化システムプログラム	英語学特論	目標：英語の諸構文の統語的分析の具体的内容を見ながら、英文法研究の諸概念と分析の方法を理解するとともに、問題設定のありか、研究の流れを把握し、自ら問題を設定できる能力を身につける。 授業概要：まず、英語の文法の構造依存性を束縛代名詞や名詞句の指示関係（束縛原理）から概観し、統語構造の概念（c統御や最小領域、述部内主語など）を確認したうえで、疑問詞・関係詞ならびに空演算子のA ₁ 移動現象が如何にして一元的に説明できるかを見ると同時に、問題点を確認する。次に、上昇構文や受身文のA ₁ 移動を同一の視点から分析し、研究課題を明確化すると同時に、A ₁ 移動とA ₂ 移動の性質からtough構文の分析をレビューし、事例研究のサンプルとして新たな解決案を見る。
	英語学特論	英語語法論特論	英語の語彙および構文表現における文法のしくみについて考察する。とくに動詞の語彙的意味とそれが使用される具体的な事例における構文的意味との関係に注目し、文法形式と意味解釈をめぐる理論的な争点について理解を深める。語彙および構文表現に関わる代表的な文法理論（語彙意味論、概念意味論、構文文法、生成語彙論等）の基本的な思考法と分析方法を身につけることを目標とする。関連文献を参考に、語彙と構文に関わる文法研究の理論的基礎を学ぶ。講義を中心に、報告や議論を交えて授業を進める。
	英語学特論	英語音声学特論	英語音声学に関する諸問題について学び、論文執筆の題目を見つけてやるべきことを目的とする。言語調査について書かれた著書を読み、自らの研究題目との関連について学ぶ事が出来る。英語母音、母音空間、英語子音、有声開始時間、音声の成り立ち、母音子音を越えた音声特徴、音の繋がり、言語リズム、音調、発話速度、対話の音声特徴を扱う。

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	生成文法論特論	様々な言語現象の分析を通して生成文法の方法論を学ぶ授業である。この授業の目標は（１）生成文法の方法論を理解し、現象の分析ができるようになる、（２）生成文法理論の現状が理解できるようになる、以上２点である。授業では、割り当てられた文献を担当となる受講生が纏めて発表する。その後、教員が準備した補足資料を用いながら、生成文法の方法論や現象の分析方法について理解を深める。特に、現象の分析が及ぼす理論的帰結の探究のあり方について考察し、受講生が行う研究の理論的意義を自ら追求できるようにする。	
	歴史言語学特論	言語変化および言語接触におけるしくみについて考察する。とくに意味・音・形態・統語変化とその具体的な事例に注目し、その形式と解釈をめぐる理論的な争点について理解を深める。言語変化および言語接触に関わる代表的な理論（言語変化、言語接触論等）の基本的な思考法と分析方法を身につけることを目標とする。関連文献を参考に、言語変化および言語接触に関わる研究の理論的基礎を学ぶ。講義を中心に、報告や議論を交えて授業を進める。	
	異文化間コミュニケーション論特論	この講座は「異文化間コミュニケーション」分野の基本理論を紹介するものである。「異文化間コミュニケーション(IC)」は文化がコミュニケーションのプロセスに与える影響に焦点を当てる。講座の目的は以下のとおりである：異文化間の問題への感受性を高めるために、読解と議論を通じて、最新のIC理論への基本的理解を獲得すること。学生は、配布資料を読み、授業中にその内容につき議論するよう求められる。2回の小論文試験があり、さらに異文化について調査し英語でプレゼンすることになる。講座での使用言語は英語である	
	心理言語学特論	心理言語学（人間の言語理解・習得のメカニズムの解明）に関するさまざまなトピックを取り上げ、昨今の研究動向について理解を深め・考察する授業である。扱う言語は主に英語と日本語である。この授業を履修することで、心理言語学の目標と、言語学諸分野とのかわりについてより理解を深めることができ、また英語で書かれた文献を読むことによって、内容の正しい理解力と考察力を身につけることができることを授業の目標とする。授業は、心理言語学に関する入門的講義ののち、日本語または英語で書かれた基礎的な文献の内容の検討やディスカッションを組み合わせる。参加者は交代で、担当する文献についての解説とディスカッションを主導することが求められる。	
	比較文化論特論	アメリカニズムと比較文化：基本編 アメリカニズムと比較文化に関する基本的な知識を、講義と文献の読解を通じて学ぶことで、受講者それぞれの課題を発見し、それに関する的確な発表や討議の方法を身につける。受講者は本授業を通じて（１）アメリカニズムについての基本的な知識を学ぶことができ、また（２）上記のテーマに関する個人発表をおこない、さらにクラス討議に参加することによって、比較文化研究という見地からのアメリカニズム理解を深めることができるようになる。	
	英米現代文化論特論	講義形式・演習形式を併用し、アメリカの東部、北部、南部、西部といった地域ごとに付随するイメージを歴史と文学作品を通じて理解すること目的とする。到達目標としては、これらアメリカの地域に込められた文化的な意味合いを十分に理解した上で、文学作品の中でそれを把握し、文化的コンテキストの中に置くことで作品や作家の理解を深めることにある。計画としては、植民地建設から独立革命に至る時代までの東部、南部の文化的特質、そして南北戦争に至って確実になる南部と北部の分断、西部と呼ばれる場所の変遷と特質を講義と資料読解を通じて理解し、その後、それぞれの地域に属する作家による文学作品を読み進めていく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	イギリス近現代文化論特論	<p>(目標) 1980年代から1990年にかけて、英米圏を含む汎ヨーロッパ文学の「読み方」について、百花繚乱の様相を呈した「批評理論」とは何かについて理解することができます。また、具体的な知見や方法論を集積し、それらを援用することによって、文学作品の読解を実践的に検証できるようになります。</p> <p>(授業計画) 英米を代表する批評理論家であるテリー・イーグルトンの著作である『文学とは何か』(岩波書店、2014)を基礎テキストとして、そこで開陳されている様々な批評理論の内容について、一つ一つ検証していきます。より具体的には、以下のような批評理論を取り上げます。(1) 解釈学・受容理論 (2) 構造主義 (3) ポスト構造主義 (4) 精神分析批評 (5) 政治的批評</p> <p>(留意事項) 授業では予習すべき内容が指示されます。授業ではその予習を前提として、各理論の長所と短所について、議論を深めていきます。</p>	
	英語学特別演習	<p>授業形態： 輪読とディスカッションからなる演習</p> <p>目標： 英語統語論の研究で意義深い良質な論文(7編)を順次読み、論文を読む力、内容をまとめる力、意義を研究史上に位置付ける力を高めることによって、自ら問題を設定できる能力を身に付ける。</p> <p>授業概要： 英語統語論の研究の流れで意義深い論文として、構造依存性、述部内主語仮説・受動化とA移動/外項化、空演算子構文のAバー移動、移動と再構築化現象との相互作用、例外的格付与構文とフェーズ概念等のトピックを扱った論文(7編)を順次輪読し、論文を読む・要約する・評価する活動を行うとともに、研究史上の位置づけと研究の流れを学ぶ。</p>	
	英語語法論特別演習	<p>英語の語彙および構文表現における文法のしくみについて考察する。関連分野の専門文献を読み、語彙意味論等の分析手法を理解するとともに、英文テキストの精査を通じて、具体的な事例における文法形式と意味解釈の関係を分析的に読み解く訓練をする。語彙意味論、構文文法、概念意味論などの専門文献を読むことを通じて、語法文法研究の基本的な思考法を身につける。英文テキストの読解を通じて、意味解釈における文法の働きについて理解を深め、具体的な事例を分析的に読み解くことができるようにする。</p>	
	英語音声学特別演習	<p>英語音声学に関する諸問題について議論し、論文執筆の題目を見つけるようになる事を目的とする。言語調査について書かれた論文を読み、自らの研究題目との関連について学ぶ事が出来るようになる。英語母音、母音空間、英語子音、有声開始時間、音声の成り立ち、母音子音を越えた音声特徴、音の繋がり、言語リズム、音調、発話速度、対話の音声特徴に関する事例を扱う。</p>	
	生成文法論特別演習	<p>生成文法理論の現状を踏まえ、今後の研究課題を理解するための授業である。この授業の目標は(1)近年の主要文献を把握し、生成文法理論の現状が理解できるようになる、(2)自らの研究課題を見つけることができるようになる、以上の2点である。授業では、割り当てられた文献を担当となる受講生が纏め、残された課題について議論する。その後、教員が準備した補足資料を用いながら、今後の研究の方向性について検討する。現象の分析と理論展開の関係について議論を行い、今後の研究の方向性について自ら検討できるようにする。</p>	
	歴史言語学特別演習	<p>言語変化および言語接触におけるしくみについて考察する。関連分野の専門文献を読み、言語変化論および言語接触論の分析手法を理解するとともに、英文テキストを通じて、具体的な事例における言語変化論および言語接触を分析的に読み解く訓練をする。意味・音・形態・統語変化などの専門文献を読むことを通じて、言語変化および言語接触の研究の基本的な思考法を身につける。英文テキストの読解を通じて、言語変化および言語接触の働きについて理解を深め、具体的な事例を分析的に読み解くことができるようにする。</p>	
	異文化間コミュニケーション論特別演習	<p>この講座は入門講座に続くものである。目的は以下の通りである：文化の違いへの感受性を高めるために、文化によってコミュニケーションのプロセスがどう違うかを理解し、自分たちの文化的規範の長所・短所への理解を深めること。学生は、自分たちの文化的規範が異文化的文脈の中でどういった問題を生ずるかについて、理解を深めることが望まれる。異文化間の会話に関する配布資料を読み、既に学んだ理論を駆使して、文化の衝突を分析することでこれを行う。学生はまた、IC理論と実践を結び付けるものとして、研究プロジェクトを実行し結果を発表しなければならない。さらに2回の小論文試験で、読解で得た理論の理解度を評価する。講座での使用言語は英語である</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	心理言語学特別演習	心理言語学、なかでも文処理研究に関する文献を読みながら、研究の手法について理解を深め、批判的考察や検討を加えていく授業である。この授業を履修することで、より専門的な文献を深く理解し批判的検討ができるようになると同時に、自分が研究したいテーマを見出し、実証研究に必要な問題意識、仮説の構築、実際のデータ収集などのスキルを身につけることができるようになることを授業の目標とする。授業は、心理言語学、特に文処理研究に関する講義ののち、日本語または英語で書かれた専門的な文献の講読や批判的検討、プレゼンテーションを組み合わせて進める。参加者は担当する文献について解説し、ディスカッションを主導することが求められる。	
	比較文化論特別演習	アメリカニズムと比較文化：応用編 アメリカニズムと比較文化に関する応用・専門的な知識を、文献の精読を通じて学ぶことで、受講者それぞれの課題を発見し、それに関する確かな発表や討議の方法を身につける。受講者は本授業を通じて、(1) アメリカニズムと比較文化についての応用・専門的な文献を輪読によって正確に読み解くことができるようになり、また(2) 上記のテーマに関する個人発表をおこない、さらにクラス討議に参加することによって、比較文化研究という見地からのアメリカニズム理解を深めることができるようになる。	
	英米現代文化論特別演習	アメリカ文学の短編作品をテキストとし、読む練習をするとともに、アメリカの歴史・文化についての理解を深めることを目的とする。文学作品を英語で読む力を身につけ、作品を通してアメリカ文化を人間の行動や思考という視点から見るができるようになることが到達目標である。Kate Chopin, O. Henry, Edith Wharton, Ernest Hemingwayなどの短編作品を複数ずつ読み、作家の伝記にも触れることで、地域や時代ごとのアメリカ社会の特質の断片に触れていく。	
	イギリス近現代文化論特別演習	(目標) 世界の文豪の一人であるチャールズ・ディケンズの初期の傑作である『オリヴァー・トゥイスト』(1839年)を英語で読むことで、19世紀の繁栄をきわめたヴィクトリア朝のイギリスが、他方で内包していた貧困や犯罪やスラム街等々の歴史の実態を探索することができます。小説は時として、歴史を映し出す鏡となりますが、本作品はまさにその具現となっていることを、イギリスの歴史書と合わせて読むことで、確かめることができます。 (授業計画) 本作品を原語で読むことはかなり難易度が高いので、本授業では、少し易しい英語で書き直された版を用いて読み進めていきます。長編小説なので、すべてを読むことはせず、「読みどころ」のパスセージを精読します。 (留意事項) この授業では、英語の音読を特に重視します。また、予習を前提として正確な精読をめざします。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	言語・文化学特別演習	<p>本授業では、受講者が設定した研究課題を、広い視野から言語学や文化学全体のなかで位置付けることを目指す。狭い専門テーマに囚われることなく、言語・文化を時代や地域を超えた現象として捉え、自らの研究に関連するテーマ、隣接する分野の先行研究を調べる。また、実際に分野横断的な研究、共同研究がどのように行われ、どのような成果が出ているかを調べ、関連テーマや隣接分野の研究と比較する手法を学ぶ。最終的に、分野横断的な広い視点から、自らの研究が言語・文化学あるいは隣接する学問分野のなかでどのような意義を持つのかを考察する。</p> <p>(4 富田かおる) 英語音声学に関する研究について指導する。 (19 中村 隆) イギリス近現代文化論に関する研究について指導する。 (25 鈴木 亨) 英語語法論に関する研究について指導する。 (27 富澤直人) 英語学に関する研究について指導する。 (31 ライアンステューバン) 異文化間コミュニケーション論に関する研究について指導する。 (35 伊藤 豊) 比較文化論に関する研究について指導する。 (37 アーウィンマーク) 歴史言語学に関する研究について指導する。 (59 宇津まり子) 英米現代文化論に関する研究について指導する。 (65 小泉有紀子) 心理言語学に関する研究について指導する。 (85 高橋真彦) 生成文法論に関する研究について指導する。</p>	
	日本語文法論特論	<p>本授業では、文章や談話とは何か、コミュニケーションで用いられることばが持つ形式的な特徴からどのようなことが探れるのか解説していく。授業のトピックとしては、結束性、整合性、指示表現、省略、主題などを取り上げる。本授業を受講することで、ことばによるコミュニケーションについて深い理解を身につけ、授業で学んだ文章や談話に関する知識をもとに、具体的なデータに対して応用し分析することができるようになることを目標とする。</p>	
	日本語学特論	<p>日本漢字音の研究には長い伝統がある。漢字の起源は中国であるが、日本に伝えられた後も、漢字、そして漢字音はさまざまな形で研究されてきた。この講義では、日本漢字音研究の経緯について、仏教経典、漢詩を中心にみていく。これによって、中国語音韻史、特に中古中国語音に関する知識を習得できる。また日本に輸入された中国の韻書・韻図について知ることができる。そして仏教経典や、漢詩の押韻・平仄についても説明できるようになる。</p>	
	言語学特論	<p>「言語類型論」の考え方を理解し、現代日本語（標準語）が、音声・音韻、形態、文法範疇等、言語構造の様々なレベルにおいて、どの「類型（タイプ）」に分類されるのかを考察することを通して、「日本語という言語の特質」を浮かび上がらせることにつとめる。並行して、空間軸上の変種（現代日本語の諸方言）や時間軸上の変種（各時代の日本語）の類型にも言及し、これらの変種が、現代日本語（標準語）には見られない言語構造の類型を有していることを明らかにする。授業は講義形式で行なわれるが、日本語母語話者の受講者にとっては既習の外国語、非日本語母語話者の受講者にとっては自分の母語における類型について常に考えておくことが求められる。この作業を通じて、言語を典型的に分類することから言語の普遍性が見えてくることを理解する。</p>	
	比較文学論特論	<p>本講義では、履修学生が、外国文学について明治以降の日本との関係のなかでその位置づけを理解し、文学研究に必要な手順を知って自ら調査し、その内容について発表や討議ができるよう、幅広く深い知識を涵養することを目的とする。授業では、まず日欧比較文学の分析対象となり得る内容について講義をし、続いてそれらに関わる先行研究を紹介する。最後には講義に関連する事項それぞれについて、履修者が調査・報告をし、議論をしてさらに理解を深める。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	日本古典文学特論	連歌について講義する。連歌は和歌を起源とし俳諧へと発展した、中世日本を代表する文芸のひとつである。共同制作という形態上の特徴も、日本古典文化の性質を論じる上で重要である。講義では、連歌の代表的な作者・作品を紹介し講読するとともに、連歌会を営むために作られたルールブック（式目書・会席作法）などにもふれる。連歌会ワークショップ（第13回・第14回）を実施し、実作を体験することによって講義の理解を促す。連歌文芸の学びを通じて、日本古代中世文化の諸相を理解することを目標とする。	
	日本近代文学特論	受講者が、日本近代文学における文芸思潮の推移を、社会的文化的な状況との関わりにおいて理解し、任意の事例に即した応用的な論述ができるようになることを目指す、講義科目である。リアリズム概念を軸としながら、日本近代文学における文芸思潮の推移を、社会的文化的な状況との関わりにおいて理解し、その過程で得た知見を、いくつかの具体的なテキストに援用し、理解を深める。	
	日本語文法論特別演習	本授業では、現代日本語の文法や意味に関する研究で取り上げられるトピックを概観し、文法研究としてどのような探求すべき課題があるか考察・議論していく。トピックとして語構成、他動性、ヴォイス、アスペクト、テンス、モダリティなどを取り上げる。本授業を受講することで、現代日本語の文法や意味に関する各分野においてどのような現象が研究対象として取り上げられているか理解し、さらに探求すべきテーマを見つけられるようになることを目標とする。	
	日本語学特別演習	台湾総督府の小川尚義によって編纂された『日台大辞典』（1907年刊）は、初めての本格的な日本語と台湾語との対訳辞書である。この辞書の緒言は、日本漢字音と中国語諸方言音に関する詳細な記述となっている。またこれに付載される「日台字音便覧」は、日本漢字音と台湾語音との初めての本格的な対照研究と言えるものである。加えて小川には、『国民読本参照 仮名遣法』（1902年刊）という著作もある。この演習では小川の著作を読むことで、当時の日本語と台湾語の研究について見ていく。これによって、日本統治期台湾における日本語と台湾語の研究について説明できるようになる。また日本語および中国語諸方言に関する知識を習得できる。そして修士論文を執筆するための研究手法を見出すことができる。	
	言語学特別演習	日本語（現代日本語標準語のみならず、諸方言や他言語との対照も含む）および諸言語について、さまざまな言語現象を扱った研究論文を取り上げ、受講者がその内容を理解して口頭発表形式で紹介および論評することによって、取り上げられた言語現象に関する理解を深めながら言語の研究方法を習得することをめざす。授業では、発表担当者が、本人もしくは教員が用意した研究論文の内容を紹介し、問題点の指摘などを行なう。それをもとに、授業参加者全員で検討・議論を行なう。参加者は、母語をはじめさまざまな言語の例を探し、論考で主張されている内容の妥当性や他の説明可能性を考えることが求められる。これらの作業を通して、現代言語学の課題に対する研究遂行能力の涵養を図る。	
	比較文学論特別演習	本演習では、履修学生が、日本近代文学の成立を外国文学と対照しながら正しい文脈で理解し、文学研究に必要な手順を学び自ら調査した内容について文章にまとめ、発表・討議ができるよう知識と能力を涵養する。授業では、明治における冒険小説、叙事詩、宗教文献、科学小説をとりあげ、それらがヨーロッパ文学の大きな影響下にあることを、実際に文献を読み進めながら理解する。その後、履修者はそれぞれの項目について、自ら調査してまとめ、授業内で報告をして議論をするなかで、さらに理解を深めてゆく。	
	日本古典文学特別演習	日本古典文学に関する学術論文を講読したのち、受講生は研究計画を発表し、レポートとして最終版をまとめる。具体的には、古事記・万葉集・源氏物語・更級日記・徒然草・連歌についての学術論文を取り上げる。日本古典文学史を作り上げた、書き換えた、あるいはこれから書き換えるであろう論文から、先行研究を批判的に読む姿勢、研究テーマの切り口、研究手法、論述の流れなどを学び取る。日本古典文学研究の展開と意義を深く理解し、当該分野の研究手法と論文形式に精通することを目標とする。	
	日本近代文学特別演習	受講者が、日本近代文化史研究の動向を踏まえたうえで、自らの研究テーマについて、学術的な位置づけを検討し、隣接領域ないし研究分野との関連を説明することができるようになることを目指した演習科目である。日本近代文学史とそれを圍繞する文化史の研究動向を掴むことを目的として、1945年以降の日本文化に関するテキストを講読形式で読みすすめる。その過程で得られた知見を踏まえて、受講者が自らの研究テーマに関する発表を行い、議論する。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	日本文学特別演習	<p>本授業では、受講者が設定した研究課題を、広い視野から言語学・日本語学・日本文学・比較文学のなかで位置付けることを目指す。狭い専門テーマに囚われることなく、語学と文学との横断、また日本と海外との比較といった、自らの研究に関連するテーマ、隣接する分野の先行研究を調べる。また、実際に分野横断的な研究、共同研究がどのように行われ、どのような成果が出ているかを調べ、関連テーマや隣接分野の研究と比較する手法を学ぶ。最終的に、分野横断的な広い視点から、自らの研究がそれぞれの学問分野のなかでどのような意義を持つのかを考察する。</p> <p>(12 池田光則) 言語学に関する研究について指導する。 (20 渡辺文生) 日本語文法論に関する研究について指導する。 (26 加藤健司) 比較文学に関する研究について指導する。 (44 中澤信幸) 日本語学に関する研究について指導する。 (47 森岡卓司) 日本近代文学に関する研究について指導する。 (90 生田慶徳) 日本古典文学に関する研究について指導する。</p>	
	心理学特論A	<p>目標：心理学は、人間の活動すべてに関わるものであり、内容は多岐にわたっている。この授業では、心理学に関する基礎的文獻および専門的文獻を紹介・議論することにより、専門分野に関する高度な知識やその活用、さらに論理的思考能力を身につける。授業の具体的な到達目標としては以下の3つを設定する。</p> <p>(1)心理学の様々な領域の用語の意味について記述できる。 (2)心理学の知識をもとに、専門的な視点で人間行動を解釈することができる。 (3)人間を科学的に考える立場から現実社会の問題についての議論に参加できる。</p> <p>授業計画：前半8回の授業では、アメリカをはじめ多くの国で用いられている教科書である「マイヤーズ心理学」を参考にし、教科書に含まれているトピックについて紹介、議論をする。後半7回の授業では、認知科学の専門書からトピックを選定し、議論をする。具体的には、前半は「科学的心理学」、「意識と二重路線の心」、「生得要因、獲得要因、人間の多様性」、「感覚・知覚」、「学習、記憶」、「思考と言語」、「社会心理学」などのトピックを扱う。後半は「注意とオブジェクト認知」、「美感」などのトピックを扱う。</p>	
	心理学特論B	<p>講義形式にて、記憶、感情に関する最新の心理学知見を紹介する。到達目標として、「(1) 記憶・感情に関する基礎的知識を土台として、最新の理論や知見を説明できる」と「(2) 記憶・感情を中心とした心理学の研究テーマについて提案し、議論できる」を設定する。第2回から第8回は、記憶と思考を中心に授業を行う。また、第9回から第14回は感情を中心に授業を行う。第15回に授業のまとめとテストを行う。</p>	
	人間情報科学特論	<p>本授業では、情報技術の進歩に伴い情報機器の操作が複雑化していることを解説し、これを利用する人間の情報処理能力を十分に理解することが、人間と情報機械とのインタフェースを設計する上で重要となることを学ぶ。そして、人間の情報処理能力や研究手法を理解し、人間-機械系のヒューマン・インタフェース（人間工学）について論じることができることが目標である。授業形態は、人間と機械とのヒューマン・インタフェースの技術や研究手法について講義する。</p>	
	哲学特論	<p>本講義では、現代英米の分析哲学を中心に、言語哲学・記号論、形而上学、認識論、心の哲学、倫理学、美学などの哲学の伝統的諸分野の中から、受講者の研究関心も踏まえて一定のテーマを設定した上で、当該テーマと関連する基本概念・命題について講義形式での解説を行うと共に、随時、質問・討論の時間を設定することで、受講者自身の問題関心に沿って論点の形成・論証・批判的吟味の訓練を行う。受講者の必要・関心に応じて、英語テキストを指定し、学術文献の読解能力の育成の機会を織り込むことも考える。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	表象文化理論特論	本授業では、受講者が表象文化論についての基礎的な理論および、表象文化論の研究領域において重要と思われるテーマについて、先行する代表的な著作などを読みこみ、さらに授業で議論を重ねながら、受講生各自の修士論文作成のための基礎知識を身につける。前半においては重要な諸問題について、1回につき1つのテーマに絞りながら講義をし、受講者の問題設定、問題形成能力を促進させる。後半では、表象文化論においてしばしば取り上げられるトピックをもとに、前期における理論を応用していき、教員・院生同士でのディスカッションを通し、理論の定着をはかり、受講生の修士論文のテーマおよびアプローチを確定していく。	
	美学・芸術史特論	19世紀以降、西洋の美術史学では様式論や図像学、イコノロジーなど美術作品に対するさまざまな分析手法が試みられてきた。この授業では、そうした方法論の提唱者と論説のうち代表的なものをいくつか取り上げ、美術研究の射程の広さと将来への展望を考察する。授業形態としては講義形式により、毎回、異なる理論家のテキストを読解し、適宜、受講生に意見を聴取する。評価は毎回の授業で提出する小レポートと期末レポートでおこなう。最終的には、美術作品を分析するさいのさまざまな視点と手法を修得し、それぞれの目的と有効性（あるいは限界）について理解することを目的とする。	
	心理科学特別演習 A	目標：心理学，認知科学，人間情報科学，行動科学における実証的研究方法の専門知識を備えるための科目である。心理学研究法と心理統計学についての専門的な知識と，先行研究を調査し，課題を見つけたといった問題解決能力，実験プログラミングや統計的手法についての習得を目指す。授業の具体的な到達目標としては以下の3つを設定する。 (1) 認知科学，人間情報科学，行動科学の実験計画法やデータ処理法について理解し、研究ツールとして使用できる。 (2) 既存の知見を批判的に検討し、新たな課題へのアプローチ方法を専門的な視点で提案することができる。 (3) 認知科学，人間情報科学，行動科学の研究について専門的な視点で議論することができる。 授業計画：講義および演習形式で心理学研究法，心理統計学，先行研究の調査の仕方，論文の読み方を学習する。具体的には、「研究計画」，「研究論文」，「心理学実験プログラミング」について学習する。	
	心理科学特別演習 B	演習形式にて、記憶、感情の各テーマを中心に最新の研究発表や自身の修士研究に関する発表を行い、議論する。これらの議論を通して、研究発表スキルの向上だけでなく、研究計画の立て方や分析方法についての習熟することを目指す。到達目標として、「(1) 研究内容を的確に説明したプレゼンテーションを行うことができる」と「(2) 発表内容に対する質疑に適切に対応し、新たな研究計画や分析方法を計画・立案できる」を設定する。前半に記憶に関する発表、後半に感情に関する発表を行う。	
	人間情報科学特別演習	本演習では、人間工学と情報科学に関連した「AI（人工知能）、ヒューマン・インタフェース、生体情報処理、コンピュータ・シミュレーション、可視領域解析、教育支援システム等」を中心に取上げ、最新の技術や研究動向について考察する。授業形態は、最新の学術論文、書籍を輪講しながらディスカッションを行い、その結果についてのプレゼンテーション資料を作成して発表する。この演習の目標は、人間工学と情報科学に関連する研究課題の設定と研究手法を提案できるようになることである。	
	哲学特別演習	本演習では、現代英米の分析哲学を中心に、言語哲学・記号論、形而上学、認識論、心の哲学、倫理学、美学などの哲学の伝統的諸分野の中から、受講者の研究関心も踏まえて一定のテーマを設定した上で、当該テーマと関連する本格的な哲学書の読解を通じて、学術的な論点を正確に読解・評価する訓練を行うと共に、随時討論の時間を設定し、受講者自身の問題関心に沿って論点の形成・論証・批判的吟味の訓練を行う。受講者の必要・関心に応じて、英語テキストを指定し、学術文献の読解能力の育成に力を入れる。	
	表象文化理論特別演習	本授業では、受講生が設定した研究課題を、表象文化論における研究分野のさまざまな取り組みと比較しつつ、そのなかでいかに位置付けていくかを目指す。とりわけ、受講生が既存のディシプリンにとらわれることなく、横断的に研究を進めていくために、まず先行研究のリサーチから始め、そのアプローチの多様性を確認し、受講生自身の研究において有益と思える手法、思考法を学ぶ。後半では、受講生自身が自らの修士論文に関わるテーマについて課題論文を作成し、受講生・教員間で議論し、その学問的意義について考察する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	美学・芸術史特別演習	本授業では、西洋のさまざまなイメージ（絵画や彫刻のほか、象徴的記号、写真などを含む）が、美的鑑賞の対象としてだけでなく、宗教や呪術、政治的プロパガンダの手段としていかに機能し、受け継がれてきたかを参考文献の精読を通じて検討する。授業形態としては演習形式をとるが、受講生の数により、適宜、講義形式も取り入れる。受講生は少なくとも2回の発表をおこない、自らの興味関心からイメージの有効性に関する議論を展開することが求められる。最終的にはキリスト教や現代文化におけるイメージの実相を検討し、自分なりの視点によりそれらを歴史的に再構築することを目的とする。	
	人間科学・思想文化学特別演習	本授業では、受講者が設定した研究課題を、広い視野から人間科学・思想文化全体のなかで位置付けることを目指す。狭い専門テーマに囚われることなく、同時代・他地域や同地域・他時代といった自らの研究に関連するテーマ、隣接する分野の先行研究を調べる。また、実際に分野横断的な研究、共同研究がどのように行われ、どのような成果が出ているかを調べ、関連テーマや隣接分野の研究と比較する手法を学ぶ。最終的に、分野横断的な広い視点から、自らの研究が歴史学あるいは隣接する学問分野のなかでどのような意義を持つのかを考察する。 (14 清塚邦彦) 西洋哲学に関する研究について指導する。 (30 本多 薫) 情報科学・人間工学に関する研究について指導する。 (40 石澤靖典) 美術史・芸術論に関する研究について指導する。 (79 大久保清朗) 表象文化・映像学に関する研究について指導する。 (83 大杉尚之) 心理学に関する研究について指導する。 (89 小林正法) 心理学に関する研究について指導する。	
	日本近世史特論	大学院修士課程の大学院生に日本近世史という専門的学問分野の視点や方法を講義と課題論文の輪読で修得させるとともに学生主体型授業の方法を採用し大学院生に自己の関心テーマに関する報告の作成・発表を課す。日本近世史の専門的知識を学生自ら修得し関心あるテーマを探求し設定できることを授業の目標とする。日本近世史の学界動向から課題論文を選定し輪読し、教員による講義・解説を参考としながら自己の関心あるテーマを主体的に調査・探求し、設定したテーマの概要を発表することを授業計画の基本とする。	
	日本近代史特論	本授業は、日本近代史を対象とする最新の先行研究の紹介と学生との質疑応答を通じ、日本近代史研究に関する専門的な知識・方法論、最新の研究状況を把握するとともに、自らの問題意識に基づいて着実に研究を遂行できる能力を身につけることを目的とする。具体的には、テキストに沿いながら日本近代史の最新の研究状況を説明しつつ、特に政治史・行政史に関する最新の研究書を紹介し、研究史的な位置づけ、方法論の特徴について講義を行う。さらに、講義した内容を踏まえ、学生との質疑応答を行う。	
	北アジア史特論	本授業では、17-20世紀を中心に北アジア史に関する専門的な知識を身に付けると同時に、原典史料から歴史像・社会像を構築する能力を身に付ける。具体的には、17-20世紀、清朝の統治下に入った北アジアを取り上げ、清朝による征服から長期の統治によって北アジアの遊牧社会はいかに変容したのかを、根拠となる一次史料を読み解きながら解説する。さらに、主に漠北モンゴルを例に、前・後の時代と比較して、社会構造にどのような変化が起きたかを通時代的に考察する。受講者は、北アジア史の専門知識を体系的に身につけるだけでなく、史料の読解を通じて当時の社会像をイメージする方法や先行研究の課題を抽出する方法を学ぶ。	
	グローバル経済史特論	この特論は、院生が、将来専門的な知識を有する研究者として活動するための、基礎的な力を養うことを目的としています。授業の到達目標は、第一に、グローバル経済史全体に関連する文献を1冊選定して読み込み（輪読）、それと院生自身の関心で自発的に読んだ他文献との関連を論理的に叙述できるようにすることです。具体的には、院生による先行研究のまとめの報告会を予定しています。第二に、前述した文献の内容の整理を踏まえて、院生自身の専門とするテーマを決定し、修士論文を作成することです。修士論文作成にあたっては、史料の使い方や読み方、論文の作り方などを丁寧に指導します。この特論では、第一の到達目標に重点を置き、指定文献の輪読と関連文献のまとめを中心に授業は進行します。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ドイツ史特論	講義形式の授業である。ドイツの学界において定評のある近世ヨーロッパ社会史研究の専門書をテキストにして、社会史の包括的領域について講義する。これによってドイツ社会の歴史的特性について理解する能力を身につける。特に、中世から近代への移行期（16～18世紀）の社会の様々な領域（統治機構、宮廷文化、軍制、教会、信仰、政治過程、社会文化、経済、都市と農村）を扱うことで、ドイツ史の中世から近代への転換のプロセスを追う。	
	日本近世史特別演習	大学院修士課程の大学院生に日本近世史という専門的学問分野の調査研究法を古文書解読と分析という実践的演習により修得させるとともに学生主体型授業の方法を採用し大学院生に自己の関心テーマに関する古文書を選び調査研究するレポートを課す。日本近世史の古文書資料を解読でき、調査・研究法を学び実践できることを授業の目標とする。日本近世の古文書演習を実施し、そこで学んだ史料解読・分析法と教員による指導を参考にしながら、自ら調査研究した成果につきレポートを作成し発表することを授業計画の基本とする。	
	日本近代史特別演習	本授業は、日本近代史にまつわる史料の読解と、学生による研究報告を通じ、日本近代史史料に関する専門的な知識・方法論、史料から歴史像を構築する実践的な手法を把握するとともに、それらを自身の研究に活用・応用できる能力を身につけることを目的とする。具体的には、近代史研究に不可欠な史料である日記を素材として、その読解法や史料学的な扱い方を教授したのちに、学生が特定の人物の日記を読解し、史料の性格に関する研究報告を行うとともに、報告内容に関する質疑応答を行う。	
	北アジア史特別演習	本授業では、17-20世紀に書かれた北アジア史に関する多言語史料にふれることで、様々なタイプの文書読解能力をつける。当時の政治・経済・社会の状況、国際情勢などをふまえて多角的な視野から史料を読解する力を身につける。具体的には、17-20世紀の北アジア史に関わる漢語・モンゴル語・英語などの多言語史料を扱い、それぞれの史料が作成された歴史的背景、当時の政治・経済・社会の状況、国際情勢、さらにはその後の伝播・保管状況などを解説しながら、受講生が実際に史料を読解する。辞書的な意味だけでなく、史料の背景・性格まで深く考察することで、より多角的・実証的な読解能力を身につける。	
	グローバル経済史特別演習	この特論は、院生が、将来専門的な知識を有する研究者として活動するための、基礎的な力を養うことを目的としています。授業の到達目標は、第一に、グローバル経済史全体に関連する文献を1冊選定して読み込み（輪読）、それと院生自身の関心で自発的に読んだ他文献との関連を論理的に叙述できるようにすることです。具体的には、院生による先行研究のまとめの報告会を予定しています。第二に、前述した文献の内容の整理を踏まえて、院生自身の専門とするテーマを決定し、修士論文を作成することです。修士論文作成にあたっては、史料の使い方や読み方、論文の作り方などを丁寧に指導します。この特別演習では、第二の到達目標に重点を置き、修士論文の作成指導を中心に授業は進行します。	
	ドイツ史特別演習	演習形式の授業である。授業の到達目標は、ドイツ史の基本テーマについて、ヨーロッパ史専門の英語（及びドイツ語・日本語）テキスト講義を通じて、理解することができるを目指す。授業の概要は、オーストリアの歴史家Michel Mitterauer, Why Europe? The Medieval Origins of its Special Path (英訳書)を、彼のドイツ語原典や日本語訳書とあわせて講義することで、ドイツをはじめとするヨーロッパ社会の中世的起源を検討する。具体的には、中世農業と領地制度、家族制度、封建制、教会と信仰が主要なテーマとして扱われることになる。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	歴史文化学特別演習	<p>本授業では、受講者が設定した研究課題を、広い視野から歴史学全体のなかで位置付けることを目指す。狭い専門テーマに囚われることなく、同時代・他地域や同地域・他時代といった自らの研究に関連するテーマ、隣接する分野の先行研究を調べる。また、実際に分野横断的な研究、共同研究がどのように行われ、どのような成果が出ているかを調べ、関連テーマや隣接分野の研究と比較する手法を学ぶ。最終的に、分野横断的な広い視点から、自らの研究が歴史学あるいはそれに隣接する学問分野のなかでどのような意義を持つのかを学ぶ。</p> <p>(5 山崎 彰) ドイツ史に関する研究について指導する。 (6 岩田浩太郎) 日本近世史に関する研究について指導する。 (69 中村篤志) 北アジア史に関する研究について指導する。 (88 小幡圭祐) 日本近代史に関する研究について指導する。 (96 諸田博昭) グローバル経済史に関する研究について指導する。</p>	
	中国古代中世文化論特論	<p>中国古代中世の過渡期にあたる漢末魏晋時代の曹植や諸葛亮、阮籍等の詩文を読む。中国古典詩の確立期となる建安文学前後を検討・考察することによって、中国古典文学研究のための専門基礎能力の養成を目指す。中国古典詩文の原初的性質と生成過程、および社会的文化史的な位置づけを考察する。中国古典テキストを精密に読解する方法、能力を身につける。併せて、漢魏の文学がその後、『三国演義』や京劇・布袋戯等の演劇文学に、どう受容、再創造されていくかという課題について研究・考察する。</p>	
	東アジア近現代文化論特論	<p>本授業は、植民地研究（台湾、朝鮮、「満洲国」、中国、南洋）の一次史料と二次史料を輪読し、統治理念と実態との齟齬を理解しつつ、日本の植民地統治の原理とその構造について再考することを目的とする。受講者は毎回指定資料についての要約と問題提起を逐次発表し議論を重ねることで、日本帝国主義の統治実態と植民地支配に対する支配者・被支配者の様々な思考に関わる体系的な知識を獲得し、日本帝国主義と植民地支配を学問的に批評することができる能力を身につける。</p>	
	東南アジア文化論特論	<p>本授業では、東南アジアという地域を世界史の大きな流れの中で把握することを狙いとします。特に近現代に焦点を当て、ナショナリズムの勃興を分析します。ベネディクト・アンダーソン著『想像の共同体：ナショナリズムの期限と流行』をテキストとして用います。</p>	
	北東アジア文化論特論	<p>『想像の共同体』の精読を通して、ナショナリズムという世界的現象を東南アジアから考察します。なぜナショナリズムは19世紀以降世界的な現象となったのでしょうか。特に宗教と文字出版という視点から、新たな類の共同体の誕生と形成を考察します。</p>	
	ドイツ文化論特論	<p>本授業は近代のドイツ文化を支える重要コンテンツである「演劇文化」について学ぶ講義科目である。授業の目標は主に「言語と身体に関わる問題を理解する」「演劇が持つマスメディアとしての機能を理解する」「ドラマとシアターの区別、演者と観客との関係を通して演劇が持つ社会的意義を理解する」ことである。本授業は講義であるが、適宜文献購読も採り入れながら進めていく。内容は目下以下の流れを計画している。</p> <p>1. ガイダンス 2-3. 18世紀までのドイツ演劇 4. ホーフマンスタールの言語危機問題 5-6. ヴェーデキントの諸作品 7-9. プレヒトと異化効果 10-11. デュレンマットの作品とグロテスク美学 12. 記録演劇と社会運動 13. ハイナール・ミュラーとヨーロッパの死 14-15. リミニ・プロトコル</p>	
	ドイツ現代文化論特論	<p>講義形式で行う。20世紀以降のドイツ人たちがどのような問題に取り組み、その結果どのような思想・文化が形成されるに至ったかを、文学者・思想家・政治家等の文言を適宜参照しながら論じる。現代ドイツの思想的・文化的歩みを理解し、なおかつ自分なりのドイツ像を構築できることを目標とする。授業は、第1次大戦から第2次大戦終結直後までの第一部、およびそれ以降現在までの第二部、以上二部構成によって進める。第一部では、第1次大戦の敗戦からナチズムを招来するに至った背景、第二部では、ナチズムの責任を戦後のドイツ人たちがどのように受け止めようとしたのかを中心に考察する。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ロシア文化論特論	<p>授業形態：講義 目標：ロシア文化研究法についての講義を通して、ロシア文化という名で括られる様々な現象にアプローチする方法論について考察する。 授業計画等：扱う素材やテキスト、また授業の進め方などの詳細は受講生の知識と関心のありかに合わせて変わるが、およそ以下のよう展開を想定している。 1：ガイダンス 2～8：ロシア文化研究法（理論篇） 9～14：ロシア文化研究法（実践篇） 15 まとめ</p>	
	フランス文化論特論	<p>本講義のテーマはフランスの文壇ジャーナリズム。 19世紀末の作家と文芸誌の関係をとりあげ、テーマにそって検討していく。本講義は、文学をジャーナリズムとの関係から考察することを目的とする。 この講義の履修者は、1. 近代フランスの文壇ジャーナリズムの特徴を理解することができる。そして、2. 定期刊行物との関係から文学や文化を研究する方法を身につけられる。 毎回、ひとつのテーマにそって、各種文芸誌（未訳）を分析していきます。言及されている作品も参照して確かめることがあります。近現代フランス文学に関してある程度の知識があることが望ましいので、文献を濫読して欲しい。 またフランス語の未訳文献を扱うため、必須ではないが上級レベルのフランス語ができることが望ましく、そうでなくても日々磨きをかけて欲しい。</p>	
	中国古代中世文化論特別演習	<p>正史『三国志』から『三国演義』、さらに近世近代の京劇を初めとする演劇文学について、作品テキストや様々な歴史的伝承とその経緯をたどる。原典および先行研究を必要に応じ選読・考察する。それにより、中国古典テキストの幅広い理解と精密な読解・研究方法を習得することができる。中国古代中世から近代まで扱う資料は多岐に及ぶが、受講者の主体的能動的な学習を通し、三国時代前後から後代の演劇文学にいたる、中国古典の創造と継承の実相を理解することができる。本授業は、受講者主体の実践的な授業によって、学位論文作成の方法論を学ぶことができる。</p>	
	東アジア近現代文化論特別演習	<p>本授業は、想像の共同体と呼ばれるナショナル・アイデンティティの形成とその問題点を再考することを目的とする。前半は、日本と台湾のナショナル・アイデンティティの代表的な研究を輪読し、戦前から戦後にかけて「日本人」及び「台湾人」という自己認識の誕生と変容に関わる体系的な知識と研究方法を身につける。後半は、アイデンティティ問題をキーワードにして各自テーマを決めて研究発表を行い、分野横断的な研究視野を獲得することを目指す。</p>	
	東南アジア文化論特別演習	<p>本授業では、東南アジアの「弱い国家」を世界史の大きな流れの中で分析することを狙いとします。ジェームズ・スコット著『ゾミア：脱国家の世界史』をテキストとして用います。歴史的に見て、東南アジアという地域の特徴の一つは国家の歴史が浅く、また国家の支配力が弱いことにあると考えられています。東南アジアは帝国が生まれなかった地域であり、アナキズムの空間と考える研究者もいます。東南アジアではなぜ、「国家に抗する社会」が歴史的に強いのかを分析します。また、この分析を通して、近年のアナキズム論を批判的に分析していきます。</p>	
	北東アジア文化論特別演習	<p>本特別演習は演習形式でおこなう。英語文献の読解を通して、北東アジアを中心に、広くアジア地域の人文社会科学研究をおこなうために必要な知的基礎体力を養成することを目標とする。具体的には、受講生の関心もふまえ、北東アジア研究に有益な英語文献を担当教員が指示し、講読する。論文なら1本、単行本なら1章程度を毎回の課題とする。前半の7回は英語力のブラッシュアップも兼ねて、予習の段階で全員が全訳を作成し、読み合わせをおこなう。後半の8回は、課題文献についてのレジュメを毎回全員が作成し、それに基づいた議論をおこなう。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ドイツ文化論特別演習	<p>ドイツ文化を支える各芸術形式（文学、演劇、映画、ポップアート）についての研究書を読みながら、修士論文執筆に資する知識と技能を身につけることが本演習の目的である。授業の目標は主に「自力でドイツ語テキストを読み、そこに書かれているテーマについての重要性を発見する」「テキストをもとにして考えたことを新たな資料を用いながら自分なりに分析・解釈し、独自の理論を展開できる」ことである。</p> <p>使用するテキストは参加学生の研究テーマに沿って選定するが、目下予定しているのは以下のような流れである。</p> <p>1：レッシング 2：ヴィンケルマン 3：ゲーテ（1） 4：ゲーテ（2） 5：シュレーゲル兄弟 6：ホフマン 7：ホーフマンスタール 8：ヴェーデキント 9：プレヒト（1） 10：プレヒト（2） 11：デュレンマット（1） 12：デュレンマット（2） 13：ハイナー・ミュラー 14：リミニ・プロトコル（1） 15：リミニ・プロトコル（2）</p>	
	ドイツ現代文化論特別演習	<p>文献講読、受講者による発表、およびそれに対する授業者のコメントによって授業を進める。本演習の主眼も「特論」同様、20世紀以降のドイツ人たちがどのような問題に取り組み、その結果どのような思想・文化が形成されるに至ったかを考察することであるが、本演習ではさらに、関連する文献を読みこなし、なおかつ内容についてたえず批判的な目を持って観察し、その結果得られた自らの知見を論理的に表明することができる能力を養成する。授業計画についても「特論」同様、二部構成によって進めていく。</p>	
	ロシア文化論特別演習	<p>目標：ロシア文化の諸相にアプローチする際の理論と実際について考察する。</p> <p>授業計画等：扱う素材やテキスト、また授業の進め方などの詳細は、受講希望者との相談によって決まるが、およそ以下のような展開を想定している。</p> <p>第1回：ガイダンス 第2回～第4回：準備篇（各自テーマ選定。発表のためのスキル、調査ツールの説明） 第5回～第8回：構想発表 第9回～第10回：フィードバックと検証 第11回～第14回：発表と質疑応答 第15回：まとめ</p>	
	フランス文化論特別演習	<p>テーマはフランスの現代文芸批評史。</p> <p>本演習は、(1) フランスの現代文芸批評の流れを理解し、また(2) それらの批評の方法論を学ぶことを目的とします。</p> <p>この講義の履修者は、1. フランスの現代文芸批評史に関する知識を習得できる。そして、2. 作品を批評するために必要な基礎的アプローチを身につけられる。</p> <p>基本的に訳読を行います。受講者には毎回の授業でテキストの要約をしてもらいます。</p> <p>受講者の関心に即したテキストも取りあげる予定ですが、ある程度批評家を絞り込んだうえで精読していきます。現在のところ、ポール・ヴァレリーの詩学、ガストン・バシュラールのテーマ批評、ロラン・バルトのテキスト論、ジェラルド・ジュネットの物語論を扱う予定です。</p> <p>テキストには事前に目を通して訳文を作ってきてください。また文法など、どの箇所が理解できていないかを整理しておいてください。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	グローバル文化学特別演習	<p>本授業では、受講者が設定した研究課題を、広い視野から多文化研究・国際地域研究のなかで位置付けることを目指す。狭い専門テーマに囚われることなく、同時代・他地域や同地域・他時代といった自らの研究に関連するテーマ、隣接する分野の先行研究を調べる。また、実際に分野横断的な研究、共同研究がどのように行われ、どのような成果が出ているかを調べ、関連テーマや隣接分野の研究と比較する手法を学ぶ。最終的に、分野横断的な広い視点から、自らの研究が多文化研究・国際地域研究のなかでどのような意義を持つのかを考察する。</p> <p>(7 福山泰男) 中国古代中世文化に関する研究について指導する。 (13 相沢直樹) ロシア文化に関する研究について指導する。 (62 今村真央) 東南アジア文化に関する研究について指導する。 (63 渡辺将尚) ドイツ現代文化に関する研究について指導する。 (67 天野尚樹) 北東アジアに関する研究について指導する。 (76 合田陽祐) フランス文化に関する研究について指導する。 (77 摂津隆信) ドイツ文化・演劇に関する研究について指導する。 (81 許 時嘉) 東アジア近現代文化に関する研究について指導する。</p>	
	言語・文化学特別研究 I 言語・文化学特別研究 II	<p>特別研究 I では、受講者が各自の研究計画に即し、資料の読解や先行研究の読解・整理を行い、その成果を逐次発表し議論を重ねることで、修士論文作成に必要な調査、報告、議論などに関わる基礎的能力を身につける。具体的には、最初に研究計画を発表し、次に関連するテキストの読解を行う。さらに関連する研究論文を要約し、自分の研究計画の課題を見つけていく。単元毎にまとめの発表をさせるほか、中間構想発表会の場で発表をさせるなど学生のアウトプットの場を多く設け、教員・院生との頻繁な対話のなかで、最終的に修士論文のテーマ・全体の構成を確定する。</p> <p>特別研究 II では、受講者が設定した研究課題に沿って、修士論文作成に必要な調査、報告、議論などに関わる能力を一層向上させるとともに、最終的に修士論文として完成させるために必要なスキルを向上させることを目的とする。具体的には、受講者が書き進めている修士論文を題材に、章の構成から注や引用の方法・具体的な注意点など論文として完成させる上で必要なルールを学ぶ。その上で、各章の校正、序論から結論に至る全体の構成を学生に発表させて対面で添削指導することで、より完成度の高い修士論文の完成を目指す。</p> <p>(4 富田かおる) 英語音声学に関する研究について指導する。 (19 中村 隆) イギリス近現代文化論に関する研究について指導する。 (25 鈴木 亨) 英語語法論に関する研究について指導する。 (27 富澤直人) 英語学に関する研究について指導する。 (31 ライアンステイーバン) 異文化間コミュニケーション論に関する研究について指導する。 (35 伊藤 豊) 比較文化論に関する研究について指導する。 (37 アーウィンマーク) 歴史言語学に関する研究について指導する。 (59 宇津まり子) 英米現代文化論に関する研究について指導する。 (65 小泉有紀子) 心理言語学に関する研究について指導する。 (85 高橋真彦) 生成文法論に関する研究について指導する。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	日本学特別研究 I 日本学特別研究 II	<p>特別研究 I では、受講者が各自の研究計画に即し、資料の読解や先行研究の読解・整理を行い、その成果を逐次発表し議論を重ねることで、修士論文作成に必要な調査、報告、議論などに関わる基礎的能力を身につける。具体的には、最初に研究計画を発表し、次に関連するテキストの読解を行う。さらに関連する研究論文を要約し、自分の研究計画の課題を見つけていく。単元毎にまとめの発表をさせるほか、中間構想発表会の場で発表をさせるなど学生のアウトプットの間を多く設け、教員・院生との頻繁な対話のなかで、最終的に修士論文のテーマ・全体の構成を確定する。</p> <p>特別研究 II では、受講者が設定した研究課題に沿って、修士論文作成に必要な調査、報告、議論などに関わる能力を一層向上させるとともに、最終的に修士論文として完成させるために必要なスキルを向上させることを目的とする。具体的には、受講者が書き進めている修士論文を題材に、章の構成から注や引用の方法・具体的な注意点など論文として完成させる上で必要なルールを学ぶ。その上で、各章の校正、序論から結論に至る全体の構成を学生に発表させて対面で添削指導することで、より完成度の高い修士論文の完成を目指す。</p> <p>(12 池田光則) 言語学に関する研究について指導する。 (20 渡辺文生) 日本語文法論に関する研究について指導する。 (26 加藤健司) 比較文学に関する研究について指導する。 (44 中澤信幸) 日本語学に関する研究について指導する。 (47 森岡卓司) 日本近代文学に関する研究について指導する。 (90 生田慶徳) 日本古典文学に関する研究について指導する。</p>	
	人間科学・思想文化学特別 研究 I 人間科学・思想文化学特別 研究 II	<p>特別研究 I では、受講者が各自の研究計画に即し、資料の読解や先行研究の読解・整理を行い、その成果を逐次発表し議論を重ねることで、修士論文作成に必要な調査、報告、議論などに関わる基礎的能力を身につける。具体的には、最初に研究計画を発表し、次に関連するテキストの読解を行う。さらに関連する研究論文を要約し、自分の研究計画の課題を見つけていく。単元毎にまとめの発表をさせるほか、中間構想発表会の場で発表をさせるなど学生のアウトプットの間を多く設け、教員・院生との頻繁な対話のなかで、最終的に修士論文のテーマ・全体の構成を確定する。</p> <p>特別研究 II では、受講者が設定した研究課題に沿って、修士論文作成に必要な調査、報告、議論などに関わる能力を一層向上させるとともに、最終的に修士論文として完成させるために必要なスキルを向上させることを目的とする。具体的には、受講者が書き進めている修士論文を題材に、章の構成から注や引用の方法・具体的な注意点など論文として完成させる上で必要なルールを学ぶ。その上で、各章の校正、序論から結論に至る全体の構成を学生に発表させて対面で添削指導することで、より完成度の高い修士論文の完成を目指す。</p> <p>(14 清塚邦彦) 西洋哲学に関する研究について指導する。 (30 本多 薫) 情報科学・人間工学に関する研究について指導する。 (40 石澤靖典) 美術史・芸術論に関する研究について指導する。 (79 大久保清朗) 表象文化・映像学に関する研究について指導する。 (83 大杉尚之) 心理学に関する研究について指導する。 (89 小林正法) 心理学に関する研究について指導する。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	歴史文化学特別研究 I 歴史文化学特別研究 II	<p>特別研究 I では、受講者が各自の研究計画に即し、資料の読解や先行研究の読解・整理を行い、その成果を逐次発表し議論を重ねることで、修士論文作成に必要な調査、報告、議論などに関わる基礎的能力を身につける。具体的には、最初に研究計画を発表し、次に関連するテキストの読解を行う。さらに関連する研究論文を要約し、自分の研究計画の課題を見つけていく。単元毎にまとめの発表をさせるほか、中間構想発表会の場で発表をさせるなど学生のアウトプットの場を多く設け、教員・院生との頻繁な対話のなかで、最終的に修士論文のテーマ・全体の構成を確定する。</p> <p>特別研究 II では、受講者が設定した研究課題に沿って、修士論文作成に必要な調査、報告、議論などに関わる能力を一層向上させるとともに、最終的に修士論文として完成させるために必要なスキルを向上させることを目的とする。具体的には、受講者が書き進めている修士論文を題材に、章の構成から注や引用の方法・具体的な注意点など論文として完成させる上で必要なルールを学ぶ。その上で、各章の校正、序論から結論に至る全体の構成を学生に発表させて対面で添削指導することで、より完成度の高い修士論文の完成を目指す。</p> <p>(5 山崎 彰) ドイツ史に関する研究について指導する。 (6 岩田浩太郎) 日本近世史に関する研究について指導する。 (69 中村篤志) 北アジア史に関する研究について指導する。 (88 小幡圭祐) 日本近代史に関する研究について指導する。</p>	
	グローバル文化学特別研究 I グローバル文化学特別研究 II	<p>特別研究 I では、受講者が各自の研究計画に即し、資料の読解や先行研究の読解・整理を行い、その成果を逐次発表し議論を重ねることで、修士論文作成に必要な調査、報告、議論などに関わる基礎的能力を身につける。具体的には、最初に研究計画を発表し、次に関連するテキストの読解を行う。さらに関連する研究論文を要約し、自分の研究計画の課題を見つけていく。単元毎にまとめの発表をさせるほか、中間構想発表会の場で発表をさせるなど学生のアウトプットの場を多く設け、教員・院生との頻繁な対話のなかで、最終的に修士論文のテーマ・全体の構成を確定する。</p> <p>特別研究 II では、受講者が設定した研究課題に沿って、修士論文作成に必要な調査、報告、議論などに関わる能力を一層向上させるとともに、最終的に修士論文として完成させるために必要なスキルを向上させることを目的とする。具体的には、受講者が書き進めている修士論文を題材に、章の構成から注や引用の方法・具体的な注意点など論文として完成させる上で必要なルールを学ぶ。その上で、各章の校正、序論から結論に至る全体の構成を学生に発表させて対面で添削指導することで、より完成度の高い修士論文の完成を目指す。</p> <p>(7 福山泰男) 中国古代中世文化に関する研究について指導する。 (13 相沢直樹) ロシア文化に関する研究について指導する。 (62 今村真央) 東南アジア文化に関する研究について指導する。 (63 渡辺将尚) ドイツ現代文化に関する研究について指導する。 (67 天野尚樹) 北東アジアに関する研究について指導する。 (76 合田陽祐) フランス文化に関する研究について指導する。 (81 許 時嘉) 東アジア近現代文化に関する研究について指導する。</p>	
考古人類学プログラム	人類学・考古学特論 A	<p>この授業では、近年の考古人類学の理論的な展開の中で、現象学的考古学と呼ばれる分野に注目して、現在の研究動向を理解することを目的とする。また受講者がこうした研究動向を踏まえた上で、自身の研究テーマを設定できるようになることを目指す。</p> <p>(24 坂井正人/15回) 初回：授業の進め方に関するガイダンス、第2～4回：考古人類学における認識論と存在論、第5～7回：モノのエージェンシーと実践理論、第8～10：マテリアリティ論、第11回は物質化論、第12～14回：景観考古学、第15回：討論を担当する。 (60 松本 剛・71 松本雄一・78 山本 睦/1回) (共同) 第15回：討論を担当する。</p>	オムニバス方式 共同 (一部)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	人類学・考古学特論B	<p>授業テーマはモニュメントの考古学である。この授業では人類学的考古学における主要課題の一つである、モニュメントと社会変化の関係にアプローチする。受講者が人類学的考古学の理論を理解し、アンデス考古学におけるその活用ができるようになることが目標である。</p> <p>(71 松本雄一/15回)</p> <p>初回：授業の進め方に関するガイダンス、第2～4回：社会進化論とモニュメント、第5～7回：モニュメントをめぐる近年の理論的研究（1）実践理論、第8～10回：モニュメントをめぐる近年の理論的研究（2）記憶の考古学、第11～14回：アンデス考古学におけるモニュメント研究、第15回：討論を担当する。</p> <p>(24 坂井正人・60 松本 剛・78 山本 睦/1回) (共同)</p> <p>第15回：討論を担当する。</p>	オムニバス方式 共同（一部）
	人類学・考古学特論C	<p>授業のテーマは地域間交流と社会の複雑化である。到達目標は研究動向を把握し、基礎理論や概念、方法論の枠組みをみにつけること、先行研究を批判的に検討することで、自らの研究テーマを設定し、先行研究のなかに位置づけることができることである。</p> <p>(78 山本 睦/15回)</p> <p>初回：ガイダンス、第2回：交換と交流に関する理論的動向、第3回：長距離交易と社会変化、第4回：地域間交流の社会的役割、第5回：交流と社会政治的变化、第6回：外来物資の概念、第7回：交流と生業の変化、第8回：交換財がもつ象徴性についての研究事例、第9回：交換と社会的アイデンティティ、第10回：外来物資の社会的役割、第11回：奢侈品とその交換、第12回：交換される物資の社会的役割、第13回：日常的な生活とかかわる地域間交流、第14回：先史社会における交換システム、15回：討論を担当する。</p> <p>(24 坂井正人・60 松本 剛・71 松本雄一/1回) (共同)</p> <p>第15回：討論を担当する。</p>	オムニバス方式 共同（一部）
	人類学・考古学特論D	<p>授業のテーマは埋葬である。この授業では人間の生や死、祖先といった概念にまつわる人類学的な議論について広く理解し、それを理論的な土台として、アンデス地域における埋葬について考察する。この講義を履修した学生が、先行研究の議論を批判的に概観できるようにするとともに、手付かずの問題を見つけ、研究テーマとして設定できるようになることを到達目標とする。</p> <p>(60 松本 剛/15回)</p> <p>初回：授業の進め方に関するガイダンス、第2～3回：人類学からみた生・死・祖先、第4～8回：アンデスにおける生・死・祖先、第9～10回：埋葬へのプロセス・ポストプロセス考古学的アプローチ、第11～12回：「なぜ死者・祖先を祀るのか」、第13～14回：ペルー北海岸の事例紹介、第15回：討論を担当する。</p> <p>(24 坂井正人・71 松本雄一・78 山本 睦/1回) (共同)</p> <p>第15回：討論を担当する。</p>	オムニバス方式 共同（一部）
	人類学・考古学特別演習A	<p>この授業では、考古学における記憶に関する近年の理論的展開を把握した上で、文字を必要としなかった諸社会において発展した岩絵、地上絵、土器や壁画などの図像表現や書記技術に注目して、記憶・記録システムに関する最近の研究成果を理解する。新旧両大陸の事例を用いて議論する。</p> <p>(24 坂井正人/15回)</p> <p>初回：授業の進め方に関するガイダンス、第2～4回：記憶の考古学、第5～7回：アンデスの図像表現（土器と壁画）、第8～10回：アンデスの地上絵、第11～14回：アンデスの書記技術（キープとセケ）、第15回：討論を担当する。</p> <p>(60 松本 剛・71 松本雄一・78 山本 睦/1回) (共同)</p> <p>第15回：討論を担当する。</p>	オムニバス方式 共同（一部）

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	人類学・考古学特別演習B	<p>授業のテーマは複合的社会である。この授業では古代アンデスの複合的社会に焦点を当て、その形成から崩壊に至る過程を、通文化的視点から理論および事例研究の双方について論じる。受講者が考古人類学の理論を理解し、アンデス考古学におけるその活用ができるようになることが目標である。</p> <p>(71 松本雄一/15回)</p> <p>初回：授業の進め方に関するガイダンス、第2回：複合的社会、第3～5回は複合的社会の理論(1)：文化史学派、第6～8回：複合的社会の理論(2)：プロセス考古学、第9～10回：複合的社会の理論(3)：ポストプロセス考古学、第11～12回：アンデス考古学における複合社会の研究(1)形成期～モチェ文化、第13～14回：アンデス考古学における複合社会の研究(2)ワリ帝国～インカ帝国、第15回：討論を担当する。</p> <p>(24 坂井正人・60 松本 剛・78 山本 睦/1回)(共同)</p> <p>第15回：討論を担当する。</p>	オムニバス方式 共同(一部)
	人類学・考古学特別演習C	<p>授業のテーマは境界・フロンティアである。この授業では人間による空間分化や、分化した空間自体が人々の生活に与える影響について議論する。到達目標は研究動向を把握し、基礎理論や概念、方法的枠組みをみにつけること、先行研究を批判的に検討することで、自らの研究テーマを設定し、先行研究のなかに位置づけることができることである。アンデス地域を主な対象として取り上げるが、通文化的視点を重視し、他地域の事例についても視野に入れて検討する。</p> <p>(78 山本 睦/15回)</p> <p>初回：ガイダンス、第2回：境界・ボーダー・フロンティアの概念、第3回：境界をめぐる理論的枠組み、第4回：空間の概念、第5回：ボーダーとフロンティアが成立するプロセス、第6回：境界・ボーダー・フロンティアに関する事例研究、第7回：フロンティアをめぐる理論的動向、第8～9回：フロンティアの拡大についての研究事例、第10～12回：フロンティアにおける衝突や統合についての研究事例、第13～14回：フロンティアにおける文化的伝統の創造、15回：討論を担当する。</p> <p>(24 坂井正人・60 松本 剛・71 松本雄一/1回)(共同)</p> <p>第15回：討論を担当する。</p>	オムニバス方式 共同(一部)
	人類学・考古学特別演習D	<p>授業のテーマは儀礼である。この授業では、儀礼について世界各地を対象とした人類学的な研究や議論について広く理解し、それを理論的な土台として、アンデス地域における儀礼について考察する。この講義を履修した学生が、特定の研究分野において、先行研究による理論的・方法的議論を批判的に概観できるようにすることを、その文脈の中でいまだ研究が足りていない、もしくは手付かずの問題を見つけ、研究テーマとして設定できるようになることを到達目標とする。</p> <p>(60 松本 剛/15回)</p> <p>初回：授業の進め方に関するガイダンス、第2～4回：儀礼の人類学的研究の歴史、第5回：儀礼の考古学的研究、第7～14回：アンデス考古学の研究事例の紹介、第15回：討論を担当する。</p> <p>(24 坂井正人・71 松本雄一・78 山本 睦/1回)(共同)</p> <p>第15回：討論を担当する。</p>	オムニバス方式 共同(一部)
	考古人類学特別演習	<p>この授業ではペルー南海岸のナスカ台地周辺で成立した諸社会を取り上げ、それを世界各地の他の事例との比較において、考古人類学的に議論できる視点を養うことを目的とする。この授業ではまずナスカ地域および近郊の考古学に関する先行研究を理解した上で、神殿・居住地・図像表現・資源・セトルメント・パターンに注目して、通文化的視点から理論および事例研究の双方について論じる。これによって現在の研究の論点を把握し、今後の研究のあり方について検討する。</p> <p>(24 坂井正人/15回)</p> <p>初回：授業の進め方に関するガイダンス、第2～4回：ナスカ地域の考古学、第5～6回：神殿、第7～8回：居住地、第9～10回：図像表現、第11～12回：資源、第13～14回：セトルメント・パターン、第15回：討論を担当する。</p> <p>(60 松本 剛・71 松本雄一・78 山本 睦/1回)(共同)</p> <p>第15回：討論を担当する。</p>	オムニバス方式 共同(一部)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	考古人類学特別研究Ⅰ 考古人類学特別研究Ⅱ	<p>特別研究Ⅰでは、各自の研究計画に即し、修士論文の作成に向けて、必要な基礎的な研究指導を行う。各自の研究計画に即した研究指導を行うほか、各自の研究に必要な基本的な手法等についても指導し、修士論文のための準備を整えさせる。</p> <p>調査、報告、議論などの仕方を身につける。それにより、修士論文作成の基本を身につけ、修士論文のテーマを確定できるようになる。</p> <p>特別研究Ⅱでは、特別研究Ⅰにおいて確定した研究課題を修士論文として完成させるための具体的な指導を行う。研究課題の意義、研究方法、資料の分析方法、論文作成の手法など、修士論文の作成に必要な多面的な指導を行う。</p> <p>調査、報告、議論などの仕方を身につける。それにより、特別研究Ⅰによって確定した修士論文を完成させる。</p> <p>(24 坂井 正人) 建築景観・記憶・書記技術を人類学的な視点から分析すること。</p> <p>(60 松本 剛) 儀礼や埋葬を主な研究対象として、記号的・実践理論的なアプローチを試みている。</p> <p>(71 松本 雄一) 複合的社会の形成を専門とし、文明の初期形成、帝国の地方支配に関する研究を行っている。</p> <p>(78 山本 睦) 地域間交流と社会変化との相関を主な研究対象として、実証的かつ実践論的なアプローチを試みている。</p>	
社会システムプログラム	人権論特論	<p>本講義は、人権保障に関する判例理論を検討し、現代人権論への理解を深めることをテーマとする。「憲法が保障する権利」に関する基本判例を分析することにより、判例上の人権保障論に関する高度な知識と法的思考力を身につけ、自らの力で人権に関する具体的事件を主体的に処理・判断できるようにする。授業計画としては、最初に最も基本的な知識として、「憲法が保障する権利」の概念と三段階審査論の思考枠組を確認した上で、各人権領域毎の基本判例を順次分析していく。三段階審査論に当てはまりやすく、分かりやすい自由権の領域、すなわち経済的自由権から始める。次に三段階審査論の発展編として、制度的権利に関する判例を扱い、最後に人権総論に関わる判例を扱う。</p>	
	行政法特論	<p>六法の3分の2を占めるといわれる行政関係法規に共通する指導原理について、おおまかに行政作用法と行政救済法という二分野を対象として、基礎を把握し、近年の理論動向を研究する。</p> <p>行政法総論あるいは各項目に関するテキストを対象として、受講者による報告および討議の形式で、対象項目に関する基礎的事項を把握しつつ、質疑応答や議論により理解を深める。これらにより、具体的な行政の活動について理解を深めるとともに、分析的そして批判的に検討できるようになることを目標とする。</p>	
	刑法特論	<p>本授業科目は、受講者による報告および議論に基づく演習形式で行う。本授業科目は、刑法総論・刑法各論における重要論点に関する日本およびドイツ語圏刑法の学説・判例を考究することによって、議論状況を正確に把握し、自説を深化させることを目標とする。本授業科目では、刑法総論・刑法各論における15の重要論点について、毎回受講者が個別報告し、議論を行うことを計画している。最終的には、本授業科目を受講することによって、修士論文執筆のための基礎的能力を涵養することを目指す。</p>	
	刑事訴訟法特論	<p>当該授業科目の授業形態は、担当教員と履修者との双方向による。担当教員が特定の主要論点について概説するのに応じて、履修者が当該主要論点に関する文献を紹介し、それをもとに議論するという形態である。目標は、現在の刑事訴訟法学の主要論点であるGPS捜査、司法取引、取調べの録音録画、刑事免責、証拠開示、証人の保護等に関する文献を読み、新たな問題点を発見することができるようになることである。授業計画については、これらの主要論点それぞれについて担当教員が概要を説明し、これに応じて履修者が当該主要論点に関する文献を紹介するというやり方で進める。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	公共経済学特論	<p>大学院レベルの公共経済学の理論を身に付け、社会で生じている諸課題を公共経済学の視点から考察し、それらの解決策を提示できるようになることが講義の目標である。</p> <p>講義では、公共経済学の主要な理論、および理論を現実の社会現象の分析に用いる方法について解説する。</p> <p>主たる講義内容は、余剰分析、公共財の理論、外部性の理論、不完全競争と規制、最適な課税政策、情報の非対称性、社会保障制度である。大学院レベルの講義であることを考慮し、部分均衡分析から一般均衡分析への拡張や、完全競争市場モデルから不完全競争モデルへの展開も解説していき、上級文献の理解に対応できる力を身に付けさせる。</p>	
	財政学特論	<p>財政学関連の学術論文を読むために必要な専門知識を修得する。ミクロ経済学やマクロ経済学に基づく国家財政や地方財政の経済分析に関するテキストを輪読することにより、わが国の今日的財政問題を学術的に考察するために基盤となる知識やその活用、さらに論理的思考能力や論理的表現力を身につける。同時に、必要な情報を収集する能力やコミュニケーション能力を身につけ、主体的かつ創造的に学修が進められるようになる。</p>	
	統治組織論特論	<p>憲法の総論および統治機構の総論にあたる分野を取り扱う。憲法の内容を歴史的に跡づけながら、憲法の意味を定位したうえで、日本国憲法の基本原理とされる国民主権・平和主義の意義を検討するとともに、代表民主制における「代表」の意義、代表制を支える選挙とその仕組み、並びに選挙に関する諸原則について考察する。単なる事項解説的な授業にとどまるのではなく、比較憲法の視点をも踏まえつつ、現代日本の統治機構が抱える具体的な問題状況について、より深く掘り下げた考察を行う。そうすることで、受講生が、統治機構の総論に関する基本的な知識を身につけるとともに、憲法的な思考の習慣を体得することを目的とする。</p>	
	社会経済システム論特論	<p>本講義では、空間経済学のうち新貿易理論と新経済地理学であり、当該分野の基本的な理論について身につけ、様々な展開が見られる新しい理論や実証分析を収めた最新の論文を理解し解釈でき、独創的な理論や実証分析を行う能力を発揮できることが到達目標である。新貿易理論の誕生の背景を説明した上で、授業では、ディスクリットステグリッツの独占的競争モデルを踏まえた上で、基本的な2国間モデルでは労働のみ1要素モデル、労働と資本の2要素モデルを説明する。新経済地理モデルでは均衡の安定性について述べた上で、核・周辺モデル、準線型モデルを取り扱い、最新の論文も含めた空間経済モデル全般の総括を行う。</p>	
	経済学史特論	<p>近年市場システムと国家を基盤とする混合経済体制の限界を克服しようとして、個人が担う公益活動の重要性が増してきている。この授業では、市場システムと国家の役割、個人が担う公益活動の社会システムにおけるあり方と位置づけについて、地域という個人が生きる環境を切り口として考察することを目的とする。</p>	
	行政学特論	<p>近年、行政学・政治学の研究分野において科学的実証性が重視されている。学術論文を執筆する大学院生においても、調査およびその結果をまとめるだけにとどめず、リサーチクエストの適切な設定およびその解明にむけた厳密な分析を可能とするリサーチデザインの設計が求められる。したがって本演習では、行政学や政治学の修士論文執筆に必要なリサーチデザインに関する方法論を学んだうえで、専門知識の習得を目指す。さらに履修者の研究報告の機会も設け、研究進捗も適宜把握する。</p>	
	マクロ経済学特論	<p>本特論のテーマは、中級から上級レベルにかけてのマクロ経済学を学ぶことである。到達目標は以下の二つである。一つ目は、中上級レベルのマクロ経済学の理論を説明できるようになること。二つ目は、マクロ経済学に依拠した観点から、マクロ経済に関する政策分析や将来予測ができるようになること。</p> <p>授業の方法の概要については下記の通りである。中上級のマクロ経済学に関する文献を輪読し、また参加者とのディスカッションを通じて、理論の理解をより深める。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	公共政策学特論	この科目では、学部レベルで学んだ社会科学全般に関する知識をもとに、難解な公共哲学や公共経営をめぐる論点にも踏み込んだ討論を行うことを通じて、より高度な知識を獲得することを目的としている。授業形態は実質的に対話型とし、教員が用意した文献を事前に読み込んでくることを前提に、そこで浮かび上がった論点について討論を行い、受講者に一定の結論を提示させる。最終的に、受講者は、現実の政策立案における困難さを理解するとともに、そうした困難な政策課題を少しでも改善・解決の方向へ向かわせるための方法論を修得することになる。	
	法哲学特論	本科目では、法哲学における現代的論点を検討し、自由や平等といった概念を巡る哲学的思考が、現実社会においてどのような意味を持ちうるのかを考察する。哲学的思考を現実の公共的問題群に応用できるようになることが本科目の到達目標である。授業形態は、テキストの精読を、受講生からの発表と教員からのレクチャーを織り交ぜつつ行っていく。授業計画としては、イントロダクションに続いて、前半部はリベラリズムの基本的内容に関わる論点を、後半はリベラリズムへの挑戦に関わる論点を中心に上げる予定である。	
	計量社会学特論	現代日本における社会意識について理解し、社会変動の可能性について検討する。具体的には、計量社会学の手法による社会意識研究のテキストや論文をもとに講義、輪読を行い、教員と受講者で議論して理解を深めるとともに、(1)研究の基本的枠組みを理解すること、(2)社会意識の観点で戦後日本社会の変動について説明できること、(3)日本における格差の現状と要因について議論できることを目指す。	
	家族社会学特論	この授業は、講義形式で行う。指定した文献を用いた講義と、講義で扱ったトピックに関するディスカッションを通じて、家族を研究するうえで必要な「専門基礎能力」を身につけることが目的である。家族に関する社会問題が生じる実態とメカニズムの理解、日本の家族に関する事象について現状を知るためのデータに関する知識の習得が目標である。	
	環境地理学特論	本授業の前半は講義、後半は文献講読及び巡検を行う。講義内容や文献講読及び巡検を通して、自然地理学（主に地形学）分野の研究課題や最新の研究動向について理解を深め、当該分野に関する専門基礎能力を育成することを目標とする。初回に本授業で扱う研究課題の紹介や巡検日程の調整及び文献報告分担割り当てを行い、前半（第7回まで）は研究課題に関する基本知識や国内外の研究動向などを紹介する。研究課題に関する既往調査地域の巡検に関する授業は第8回から第11回に実施する。文献報告及び討論を第12回から第14回に実施し、最終回に授業全体の総括を行う。	
	都市計画特論	本科目は、今日の地域社会や国際社会の抱える諸問題について、理論的、実践的に対応できる力を身につけるために編成される講義の一つであり、都市計画の発達を都市史に対応させて整理し、都市で発生する問題の多様性とその解決のために策定される都市計画のあり方を実態に即して理解することを目的とする。本科目を受講することによって、都市計画に対する知見を深め、都市成長や都市問題に対応できる都市計画を自分なりの意見を持って評価できるようになることが目標である。 授業の第1～4回は、都市史に即して都市計画の発達過程を学ぶ。その後、第5～7回で国内外の事例を紹介し、第8～14回で都市成長の過程で生じる具体的な問題点と都市計画との関連を授業内での討論を通して理解する。第15回は学生に課したレポートにコメントを加えながら、授業全体を総括する。	
	地域政策学特論	本講義では、都市問題とその対応策の紹介や、近年新たに行われている様々な地域政策を紹介する。また、受講者が関心を持つ政策を事例に、課題や将来への対応、各主体の役割について考える。そして、(1)地域の課題に関心を持つと共に、その課題に対するような地域的背景を元に成立したかを説明できること、(2)地域の課題に対し、行政、企業、地域の組織、住民といった各主体がどのような役割を果たしてきたのかについて、事例を元に説明できること、(3)地域の課題に対し、自身なりの解決策を各主体の立場から考えることができることを目標とする。授業はパワーポイントを用いた講義を中心とする。また、各回の目次や確認してほしい図表をまとめた配布資料を毎回用意する。配布資料の「キーワード」をはじめとした空欄部分は授業中に履修者自身で埋める。 毎回、授業終了間際に小レポートを書く時間を設ける。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	環境経済学特論	本授業は、環境規制および企業の自主的行動を講義形式で行う。これにより、以下の目標を達成する。①様々な政策オプション（環境規制）の長所および短所を理解し、環境規制・自主的行動の有効性について説明できるようになる。②環境規制・自主的行動の有効性を分析する手法について身に付け、応用する力を身に付ける。授業計画として、まず環境規制の経済学的な理論を取り扱う。その後、企業の自主的取り組みについて国内外の事例および実証分析を題材に講義する。その際、分析の問題点や今後の課題などを明確にししながら、講義を進める。なお、授業内で、従来の環境規制や企業の自主的行動に関する議論を受講生と共にを行い、今後の自主的行動の可能性について検討する。	
	人権論特別演習	本演習は、参加者と共に最新重要判例を読解・分析し、人権保障論の課題について理解を深めることをテーマとする。「憲法が保障する権利」に関する最新の重要判例を、報告担当者に読解・分析してもらい、議論を交わすことで、人権保障論に関する高度な知識と法的思考力を身に付け、自らの力で人権に関する具体的な事件を処理・判断できるようになる。授業計画としては、最初に基本的判断枠組となる三段階審査論の概要について担当教員が説明し、判例の読解に当たっての基礎知識を確認する。その上で、各人権領域毎の最新判例に関する報告を分担し、評釈等を参考にしながらその分析内容を発表してもらい、判例のポイントや争点を確認し、今後検討すべき課題を議論しながら洗い出していく。報告内容や積極的参加態度に加えて、期末レポートによって理解度等を確認し、総合的に評価する。	
	行政法特別演習	行政法特論の知識を基礎に、判例や論文を素材にして、行政法に関する事例問題を検討する。重要判例・最新判例や論文を対象として、受講者による報告および討議の形式で、対象項目に関する基礎を把握しつつ、質疑応答や議論により理解を深める。これらにより、具体的な行政の活動やそれらに関する判例・学説について理解を深めるとともに、分析的そして批判的に検討できるようになることを目標とする。	
	刑法特別演習	本授業科目は、受講者による報告および議論に基づく演習形式で行う。本授業科目は、受講者各自が関心を寄せる刑法上の研究テーマを設定し、当該研究テーマについて報告・議論することによって理解を深め、自説を発展させることを目標とする。本授業科目では、受講者自らが設定した研究テーマに関する内外の刑法学説および刑法判例について、受講者が個別報告し、議論を行うことを計画している。最終的には、本授業科目を受講することによって、修士論文完成のための研究能力を涵養することを目指す。	
	刑事訴訟法特別演習	当該授業科目の授業形態は、演習形式であり、履修者の報告・質疑応答による。目標は、わが国の刑事訴訟法学における新たなテーマを発見し、それに関する論文作成の道筋を立てることができるようになることである。授業計画については、履修者が新たに発見したテーマをもとに先行業績、法令、判例等を検索し、それらに基づいて文献や法令の立法過程の分析・検討や判例についての報告を行い、それをもとに議論するというやり方で進める。そして、最後に当該テーマに関する論文の構想を報告してもらう。	
	公共経済学特別演習	社会で生じる諸課題を公共経済学の視点から考察したうえで、それらの課題の解決策を提示できるようになることが演習の目標である。演習は、公共経済学の理論や現実の社会現象への分析について演習生が報告を行うことを中心に進めていく。また、公共経済学の上級理論や最新の理論についても取り扱っていく予定である。はじめに、公共経済学特論で扱った内容を確認する。続いて、演習生が興味を持った理論について報告を行う。その際、理論の深堀、先行研究の分析などにも触れさせる。その後、現実の社会現象について、課題の発生要因やその解決方法について公共経済学の視点から分析を行う。最後に、公共経済学の上級理論や最新の理論について議論を行う。	
	財政学特別演習	国家財政または地方財政の経済分析に関する文献を選定し財政学の専門的な理解を深める。わが国の国家財政や地方財政の現状解明や課題解決を意図した経済分析に関する文献を輪読することにより、財政学に関する高度な知識やその活用、さらに論理的思考能力や論理的表現力を身につける。また、必要に応じて財政データを用いた統計分析を行い、財政の数量的把握を図る。同時に、必要な情報を収集する能力やコミュニケーション能力を身につけ、主体的かつ創造的に研究が進められるようになる。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	統治組織論特別演習	統治機構の各論にあたる分野を主な対象として、演習形式で授業を行う。具体的には、立法・行政・司法の各国家作用、地方自治、憲法の最高法規性にかかる内容を取り扱うこととする。各々の事項について、憲法学の文献により基本的な知識の確認と定着を図るとともに、各領域の重要論点をピックアップし、受講生による報告をもとに、対話を通じて考察を深める。受講生が、統治機構の各論分野に関する基本的な知識を身につけるとともに、問題解決に向けて多様な観点から思考し、その結果を自らの言葉でまとめることのできる力を身につけることを狙いとする。	
	社会経済システム論特別演習	本演習の目的としては、ある対象となる問題について経済理論を組み立て、実証分析を行い、政策分析を行うための一連のプロセスを身につけることである。そのため、経済数学、さらに消費者行動及び企業行動と財・要素市場の均衡を記述した一般均衡モデルのモデルビルディング、さらに政策分析のための比較静学ができることが到達目標である。経済数学については、高校数学の復習も兼ねて学部・大学院中級レベルへ引き上げる。具体的な計算は、数式処理ソフトのMathematicaを用いる。続いて、マイクロ経済学の知識をもとに一般均衡分析モデルの組み立て方を学び、比較静学分析および政策シミュレーションを行うため、MathematicaやExcelの使い方も学ぶ。	
	経済学史特別演習	この授業は、資本主義の構造変容と社会的合意形成の困難性という問題を軸に、なぜNP0・ソーシャル・ビジネス等のサードセクター事業体が1980年台に世界的注目を集めるようになったのか、そして今日サードセクター事業体が社会政策の遂行において政府のパートナー的役割を果たすようになりつつあるが、それがどのような理由で正当化されるのか、という問題を理解することを目的とする。	
	行政学特別演習	行政をめぐる専門家の権力性を、社会側がいかにか可視化・統制できるかをテーマとする。政策決定において、政治家だけでなく官僚や学者など専門家の「知識」が影響を及ぼしていることが指摘されてきた。しかし、その専門家の「知識」がなぜ、いかにして政策決定過程に浸透し、社会側を規律させるのか、というのを体系的に論証した研究は多くない。民主主義国家において「当該政策に詳しい人の<正しい意見>」が盲目的に正当化される危険性、および市民が<正しい意見>とうまく付き合う方法を、文献購読を通じて検討する。	
	マクロ経済学特別演習	本演習のテーマは、マクロ経済モデルを用いて政策シミュレーション分析を行う手法を学ぶことである。到達目標は、中上級のマクロ経済学の観点から、日本経済に関する定量的な政策分析ができるようになることである。授業の方法についての概要は下記の通りである。コンピュータを用いた演習形式の授業である。コンピュータを用いて実際に様々なタイプのモデルを構築し、シミュレーション分析を行うことにより、実践的にマクロ経済学を使う手法が身に付く。	
	公共政策学特別演習	この科目では、公共政策学に関する知識全般を修得していることを前提に、そうした知識をどのように政策立案へ活かしていけばよいのかという点について、実際に政策リサーチを行うことにより学ぶことを目的としている。そのため、授業では、一次資料を通じたデータ収集や、それらデータの分析作業を行うことになり、文字通り公共政策学の実践方法に関する演習形態の授業となる。政策リサーチを行うテーマは受講者が自由に設定することが可能だが、一次資料の探索や加工方法、それら収集データの分析技法等については、文献の推薦など、教員が必要な指導を行う。	
	法哲学特別演習	本科目では、現代正義論における諸論点を考察し価値観が多面的に分立する状況における公共的議論の可能性を探求する。複雑な法的・倫理的問題を分析する能力を身につけることが本科目の到達目標である。授業は演習の形態で行われる。ジョン・ロールズ『正義論』以降の、現代正義論の議論状況につき、基本的文献を精読しながら、時事的論点への応用的考察を行っていく。授業計画としては、イントロダクションに続いて、功利主義、平等主義、リベタリアニズム、アナキズムなどの諸思想を順番に考察していく。授業全体のまとめの意味を込め、最終的には国境を超える正義と世代間正義の問題を扱う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	計量社会学特別演習	社会調査と計量分析により社会現象のメカニズムを明らかにする、計量社会学の方法とその課題を検討する。具体的には、計量社会学のテキストや論文をもとに輪読を行い、教員と受講者で議論して理解を深めるとともに、(1)調査を企画・実施するための手順を理解すること、(2)多変量解析を用いた計量社会学の研究論文を批判的に検討できること、(3)調査データにもとづき、報告書や論文を執筆できることを目指す。	
	家族社会学特別演習	この授業は、演習形式で行う。家族社会学と社会学の研究手法に関する文献を輪読し、それらの基礎知識を身につけたうえで研究計画書を作成することが目的である。家族社会学に関する研究テーマの設定、適切な研究方法の選択、研究計画書の作成ができるようになることが目標である。	
	環境地理学特別演習	本授業は、学生各自による自然地理学（主に地形学）分野の文献講読及び報告を主体とし、教員を含めた参加者全員で討論を通して、当該分野の研究課題及び最新の研究動向を把握し、当該分野の研究を進める上で必要な基礎的知見を得ることを目標とする。初回に、文献報告に関する日程調整及び文献探索方法の紹介を行う。第2回に文献を選択し分担を割り当てる。第3回には文献内容に関する予備知識を解説する。第4回から第7回までは文献講読、報告と質疑応答、討論を実施し、第8回に前半のまとめと問題点の整理を行う。第9回には新たな文献の検索と選定を行い、第10回から第12回までは文献講読、報告と質疑応答、討論を実施する。第13回に講読及び報告内容に関するレポートを作成し、第14回に作成したレポートの相互評価と改善を行う。最終回に授業全体の統括をする。	
	都市計画特別演習	本科目は、今日の地域社会や国際社会の抱える諸問題について、理論的、実践的に対応できる力を身につけるために編成される演習の一つであり、現地の実状を把握し、適切な地域活性化策を提案するために必要な調査手法や考察方法を習得することを目的とする。本科目を受講することによって、現地調査の結果から地域の課題を抽出し、現状に即した適切な提案を行うことができるようになることが目標である。 本科目の中核は、学生が主体的に行う地域調査にある。そのため、授業の第1～4回で地域調査の事前作業となる統計分析の手法を学び、第5～12回でテーマと調査対象地域を定めて、土地利用調査、インタビュー調査、アンケート調査を行う。その後、第13～15回は調査結果に基づく施策提案に関する考察と授業内プレゼンテーション、現地プレゼンテーションを行う。	
	地域政策学特別演習	本演習では、各地域の問題とその対策について、特に地域の主体（行政、企業、住民）の取組みに着目して理解を深めることを目的とする。そして、(1)地域政策に関する具体的な事例を取り上げ、要点を整理して説明できること、(2)自身が関心を持つテーマに関して調査を行い、入手したデータを元に図表を作成し、説明することができること、(3)他の受講生との議論を通し、課題の完成度を高めることができることを目標とする。演習前半では、地域政策に関わる文献の精読や、その内容に関わる議論を通して、地域政策の研究における着眼点や成果のまとめ方を学ぶ。さらに演習後半では、受講者の調査報告を中心とした活動を行う。まず報告の準備としてデータのまとめ方について、演習を通して習得する。その後自身が関心を持ったテーマについて、事例を挙げて報告、議論を行う。	
	環境経済学特別演習	本授業は、環境経済学の最新の論文を題材に、環境経済学における主要論点について演習形式で行う。これにより、以下の目標を達成する。①分析手法による長所および短所を理解し、環境規制の有効性について説明できるようになる。②環境規制の有効性を分析する手法について身に付け、応用する力を身に付ける。 授業計画として、指定したテキストを基に、関連する最新の論文を輪読する。具体的に取り扱うテーマは、①環境保全技術の評価、②企業の自主的取り組み、③電力・エネルギー、④情報の非対称性の問題、⑤廃棄物・リサイクルの問題、⑥家計部門における環境配慮行動、⑦交通関連政策、⑧環境と貿易問題、⑨気候変動政策などとなっている。なお、毎回、ディスカッションを行い、分析手法の妥当性・データの妥当性など研究を遂行するのに必要なスキルを身に付ける。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	公共システム特別演習	<p>本授業では、公共政策関連法、政治学、行政学、経済学、社会学、自然地理学等の複合的な視点から、受講者が設定した研究テーマを公共システム全体のなかで位置付けることを目指す。自らの研究に隣接する分野の先行研究を調べ、実際に他分野と連携して行われる共同研究の事例を学ぶことで、広く公共政策や地域政策に関連する人文・社会科学全体のなかで自分の研究を位置づける視座を獲得し、分野横断的な共同研究の在り方を学ぶ。</p> <p>(11 是川晴彦) 公共経済学の理論を用いて国や地域が抱える課題の本質や解決策を分析していく指導を行う。</p> <p>(28 山田浩久) 地域構造論的な観点から指摘される地域課題の解決をテーマとし、学生が主体的に行う地域調査に基づき、都市計画に関する研究指導を行う。</p> <p>(32 下平裕之) 19世紀後半～20世紀前半の経済学説について、現代の産業政策や福祉政策について有益な知見を導出するという視点から研究指導を行う。</p> <p>(36 今野健一) 特に統治機構論を中心とする憲法学の課題について、憲法判例の思考形式の分析、立法政策に関する機能的評価と代替策の提示などを眼目とする研究指導を行う。</p> <p>(39 高倉新喜) わが国の刑事手続の諸問題を、国家刑罰権の実現と被疑者・被告人の人権擁護とのバランスを図りながら解決していく研究指導を行う。</p> <p>(41 阿部晃士) 社会調査データを用いた計量社会学の手法により、人びとの意識や行動と社会現象のメカニズムに関する研究指導を行う。</p> <p>(48 伊藤晶文) 自然地理学（主に地形学）の主な研究手法を用いて、地域の地形環境変遷や防災、環境影響評価についての研究指導を行う。</p> <p>(52 西岡正樹) ドイツ語圏刑法との比較法的視点から、刑罰制度に関する理論的考察を中心とした研究指導を行う。</p> <p>(54 中島 宏) 判例研究や比較憲法の手法を用いて、日本の憲法判例法理やフランスの憲法学についての研究指導を行う。</p> <p>(55 田北俊昭) 空間経済学の手法を用いて、都市・地域経済や交通・情報経済に関する研究指導を行う。</p> <p>(57 和泉田保一) 行政法の基本原理を踏まえた上で、行政の活動形式や重要判例の理解及び批判的検討について、研究指導を行う。</p> <p>(70 坂本直樹) 経済分析の手法を用いて、国や地方公共団体の財政運営についての研究指導を行う。</p> <p>(73 池田弘乃) 現代社会が抱える公共性をめぐる原理的諸論点について、法哲学・法思想の観点から考察する方法を学ぶ。</p> <p>(75 杉野 誠) 経済分析の手法を用いて、環境問題・都市問題についての研究指導を行う。</p> <p>(80 溜川健一) マクロ経済モデルを用いて、財政・金融政策の数値シミュレーション分析を行う手法を学ぶ。</p> <p>(84 川村一義) 公共政策に関して受講者が設定した研究テーマに基づき、政策立案に活用できる学術的で説得的な知見の導出を目指し、データの収集・分析を行う。</p> <p>(94 竹内麻貴) 社会学の理論と研究手法を用い、隣接する経済学・政治学・社会福祉学などの知見も取り込みながら、家族・ジェンダー研究の指導を行う。</p> <p>(98 源島 穰) 行政学における現代の諸論点について、分析に必要な方法論の習得も視野に入れた研究指導を行う。</p> <p>(99 本多広樹) 行政や企業、個人といった様々な主体への着目を通して、地域政策を調査、分析、考察する方法についての研究指導を行う。ヒアリング調査を中心としたフィールドワークや、作図に関する研究指導も適宜行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	企業経営論特論	経営学における中級レベルの理論を理解できる能力の育成を目指し、経営学に関する学術論文の輪読を通じて論文読解能力を獲得ならびに、経営学にまつわる研究レベルの基礎的な知識並びに研究遂行能力の基礎を身につける。講義は論文の輪読並びに解説を中心にゼミ形式で行う。毎週自身の関心に応じてトップジャーナルの論文を輪読していく。また論文にでてくる分析手法について各自まなぶ事を通じて、同時に、経営活動に対する学術的な分析能力の育成も目指す。	
	比較会計学特論	授業形態は、講義もしくは学生による報告を中心とする。授業の目標は、会計ルールの理論的背景を探究し、会計的思考を身につけることと、各国の会計制度を比較・分析することである。15回の授業計画は、次のとおりである。第1回：オリエンテーション（履修上の注意点、日程、授業の目的）、第2回：国際会計と日本の会計に関する基礎知識、第3回：IFRSおよび日本の概念フレームワーク、第4回：IFRSに基づく財務諸表、第5回：公正価値概念、第6回：収益にかかる会計基準の体系、第7回：会計方針に関する諸規定、第8回：資産（棚卸資産、有形固定資産、無形資産など）に関する会計、第9回：リース会計、第10回：引当金、偶発負債および偶発資産に関する会計、第11回：従業員およびストック・オプションに関する会計、第12回：法人所得税に関する会計、第13回：企業結合および連結に関する会計、第14回：外貨換算会計、第15回：まとめ（諸事象の会計問題を考える）	
	株式会社論特論	今日における日本の労務管理の特質を理解するために、勤続昇給の仕組みを取り上げ、その特質や意義、理論的根拠に関する基本的な知識を得ることを目的とする。具体的には、まず、現代株式会社における勤続や勤続昇給の発生について国際的な比較を行ない、日本の特徴を大づかみする。ついで、勤続昇給を齎す、欧米と日本の賃金制度を解説したうえで、勤続昇給の根拠を「知的塾論」として理論化した小池和男の立論を紹介すると同時に、それに対する批判的諸研究を紹介しつ、問題点を点検する。最後に、まとめの作成を指導する。	
	計量経済学特論	現在、時系列分析の手法は経済データを分析する際の標準的な手法である。そこで、本特論では、時系列分析の理論について学ぶ。その後で、経済データを独力で時系列分析できるように指導する。講義のテーマは時系列分析の理論と経済データへの応用である。到達目標は、時系列分析の理論について正確に理解すること、その知識に基づいて、統計ソフトなどを利用して独力で経済データの時系列分析をできるようになることである。講義計画としては、時系列モデルの性質（ARモデル、MAモデル、ARMAモデル）、パラメータの推定方法と予測について説明する。その上で非定常性と季節性、単位根について説明する。次に、多変量モデルに拡張して、多変量時系列モデル、Grangerの因果関係、共和分検定について学ぶ。基本的なモデルに関する説明を踏まえて、経済データへの応用を説明する。最後に分散が時変するARCHモデルとGARCHモデルを説明し、証券データへの応用についても説明する。	
	ゲーム理論特論	研究レベルで必要となるゲーム理論の基本と若干の応用について理解できることを目標とする。主な内容としてはまず、は戦略形ゲームや展開形ゲームといった非協力ゲームの基本的な表現形式、並びにナッシュ均衡や部分ゲーム完全均衡・完全ベイジアン均衡などの均衡概念を学ぶ。次に、それらを元に繰り返しゲームや不完備情報ゲームといったトピックについて論じる。学部では通常踏み込まない均衡の存在などいくつかの定理について証明まで行うため、事前に数学的考え方に慣れておくことが強く望まれる。	
	経営情報特論	本授業は、単独教員による講義形式で行う。経営問題において、ある種の問題は、数理モデルで表現することができる。本講義では、数理モデルの構築方法を修得し、数理モデルを用いて経営問題を解析できるようになることを目標とする。本講義では、数理モデルの中でも主に最適化問題を取り上げる。授業の計画は、まずオリエンテーションの後、受講生が研究計画を発表する。その後、その研究領域に関係した数理モデルを取り上げ、線形計画法、動的計画法、非線形計画法の構築法を講義する。また、それ以外の数理モデルの最近の話題についても取り上げる。その後、線形計画法、動的計画法、非線形計画法の解法を講義し、それらをコンピューターを使って解く方法を解説する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	マーケティング論特論	マーケティングの本質は、セリング（販売活動）を不用にし、「売れる仕組み」（≠売る仕組み）を作ることにある。近年は、民間企業に留まらず、公共機関もマーケティングに興味を持ち始めている。本講義では、マーケティングに関する基礎的な文献である『コトラーのマーケティング入門』をテキストとし、その基本的な概念・枠組み・方法論について理解を深める。授業の具体的な進め方としては、テキストの章ごとに毎回報告者を決めておき、担当箇所をパワーポイントにまとめ、報告してもらおう。その後、参加者間での討議に入る。	
	中小企業論特論	授業形態は単独である。授業のテーマは産業集積に立地する中小企業の課題と今後の展望についての講義である。到達目標は、産業集積と中小企業についての主要な概念を理解するとともに、中小企業がもつ課題を発見できるようになることと、社会環境の変化の中での中小企業の課題について分析し、その対策と展望について自らの意見をまとめて報告、論述できるようになることである。授業の概要として、中小企業経営と産業集積に関わる文献を読み、その内容について口頭発表を行う。また、発表に対する議論を通じて理解を深め、専門知識を適切に表現することを学ぶ。	
	民法特論 A	講義形式で行い、わが国の不動産取引について、主に不動産登記制度と各種帳簿・書面などの分析を通じて理解することがこの講義の目的となります。さらに、その問題点を指摘し、今後どのようにしていくのが良いか考えていきます。この授業によって、取引の実態を認識することが出来ます。また、これを批判的に考察し、今後どのような取引形態をとりうるかを考える能力を身につけることができます。とりわけ司法書士の活動を中心に考察し、大学院における基礎的な知識の習得にあたります。講義では、実際に使われている書面などを使ってその内容を参加者とともに考察し、検討していきます。まず不動産取引の時間的な流れを確認しながら、仲介契約の形態、売買契約書、登記関係書類の作成、登記の流れと各種書類の役割、登記完了時の各種帳簿の位置づけ、各種契約と相続などの場合の書類上の違い、などを考察します。	
	民法特論 B	本講義は、民法（債権関係）の改正に関して検討することにより、民法研究に必要な基本知識を身につけ、民法に関する研究遂行能力を身につけることを目的とする。 到達目標としては、（１）債権法に関する条文と制度の基本的知識を身につけ、民法（債権関係）の基本的論点を理解することができること、（２）債権法に関する研究遂行能力を身につけることを設定する。 本講義では、報告者は、民法（債権法）に関する判例や学術論文を読み、その内容をまとめて報告を行ない、その他の受講者は、その報告をもとに質疑応答、討論を行なう。	
	雇用関係法特論	本科目は、雇用関係法の基本的枠組みを理解し、雇用関係法に関わる具体的な問題について思考する能力を養うことを目的とする。労働関係の成立（採用、採用内定取消）、労働関係の展開（配転、出向、転籍、昇進・降格）、労働関係の終了（解雇、定年、雇止め）、労働時間、賃金、休暇・休業、労働者の人権保障、雇用差別の禁止、非正規労働者、外国人雇用、障害者雇用などについて取扱う。雇用関係法に関する具体的な事案について、問題の所在を把握した上で、判例や学説をふまえながら、当該事案について自分の考えをまとめることができることを目標とする。	
	商法特論	企業(会社)の運営および企業活動における法的問題を素材に、関連法律について概説する。近時は、これらの法分野において多くの改正がなされており、その背景や展望も含めて検討することとする。また、とりわけ金融法分野においては、AIやブロックチェーンといった新しい技術の導入に関心が高まっている。こうしたさまざまな変化に対する法規整のあり方について、理論的に思考できる力を培うことを目標とする。	
	企業経営論特別演習	経営学における上級レベルの理論を理解できる能力の育成を目指し、経営学に関する学術論文の輪読を通じて論文読解能力を獲得ならびに、経営学にまつわる研究レベルの基礎的な知識並びに研究遂行能力の基礎を身につける。講義は論文の輪読並びに解説を中心にゼミ形式で行う。毎週自身の関心に応じてトップジャーナルの論文を輪読していく。また論文にでてくる分析手法について各自まなぶ事を通じて、同時に、経営活動に対する学術的な分析能力の育成も目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	比較会計学特別演習	<p>授業形態は主にゼミナール形式である。主に学生が与えられたテーマについて報告をし、それにもとづいて参加者の質疑応答および意見を出し合う。授業目標は、会計理論を体系的に考察することで、会計の概念フレームワーク構築の必要性を認識し、会計に関する具体的問題意識を形成することである。</p> <p>授業計画は次のとおりである。第1回：オリエンテーション（履修上の注意点、日程、授業の目的）、第2回：各国の会計制度について考える、第3回：概念フレームワークとは何かについて議論する、第4回：財務諸表の体系について考える、第5回：会計の測定基準について議論する、第6回：会計の収益・費用の認識基準について議論する、第7回：会計方針とは何かについて考える、第8回：資産に関する経済事象の測定問題について議論する、第9回：負債に関する経済事象の測定問題について議論する、第10回：リースに関する会計の基本問題を考える、第11回：従業員への報酬に関する会計問題を考える、第12回：税効果会計に関する問題を考える、第13回：企業結合および連結会計に関する問題を考える、第14回：外貨換算に関する会計問題を考える、第15回：まとめ（会計の基本問題を考える）</p>	
	株式会社論特別演習	<p>本授業では、受講者が各自の研究計画に即し、資料の読解や先行研究の読解・整理を行い、その成果を逐次発表し議論を重ねることによって、修士論文作成に必要な調査、報告、議論などに関わる基礎的能力を身につける。具体的には、最初に動統昇給の理論的根拠や今後の展望について受講生自ら仮説を設定する。ついで、その仮説の補強に必要な文献、データを挙げ、研究計画を練る。あわせて関連する分野についての論文を調べる。最終的に、自分の研究が、企業システムあるいは隣接する学問分野のなかでどのような意義を持つのかを念頭に修士論文のテーマ・全体の構成を確定する。</p>	
	計量経済学特別演習	<p>労働経済学や実験経済学を中心に、経済データ分析する上でパネルデータや個票を分析する方法は重要となっている。そこで、本特別演習ではパネルデータや個票を分析する理論を学ぶ。その後で、コンピュータ実習などを通じて独力でパネルデータや個票を分析できるように指導する。本講義のテーマはマイクロデータ分析の理論と応用である。到達目標は、パネルデータや個票の分析方法に関する理論を正確に理解した上で、この分析手法に基づいて現実の経済データを独力で分析できることである。講義計画としては、パネルデータや個票を分析する際に用いられるモデルについて説明し、固定効果と時間効果とランダム効果、推定方法とその性質、ハウスマン検定について扱う。次に、被説明変数が離散変数の場合に利用するプロビットモデル、ロジットモデル、さらに連続変数であるものの限定された値しかとらない場合に利用するトービットモデルについて説明する。さらに推定方法として、操作変数法、2段階最小二乗法、GMM推定法について説明する。最後に、経済データへの応用について説明する。</p>	
	ゲーム理論特別演習	<p>ゲーム理論を用いた文献を読み、その内容を理解できるようになることを目標とする。受講者による輪読を基本とするが、これまでに学んでいないが必要となる内容については別途講義する。均衡の精緻化や進化ゲーム・微分ゲームなど高度な内容や応用的な内容を含むため、事前にゲーム理論に関する内容や必要な数学的知識については自分である程度学習しておくことが望まれる。特に、動学的最適化については学部で学ぶ機会はそれほど多くないと考えられるため、いくつかの入門的文献を開始時に指示する予定である。</p>	
	経営情報特別演習	<p>本授業は、単独教員による演習形式で行う。</p> <p>経営問題において、ある種の問題は、数理モデルで表現することができる。本講義では、最近の文献を用いて数理モデルの構築方法の最近の研究動向を調査し、経営問題を数理モデルを用いて表現し、その解釈ができるようになることを目標とする。</p> <p>授業の計画は、まずオリエンテーションの後、受講生が研究計画を発表する。その後、その研究領域に関係した最近の論文を2本選択し、論文を読解していくことで授業を進める。また、それらの研究成果に基づいて、受講生が資料やデータを収集し、実際に数理モデルを構築し、その解釈を行いレポートにまとめる。</p>	
	マーケティング論特別演習	<p>マーケティングに関わる学術論文の輪読を通じて、マーケティング分野の研究課題・研究動向について学ぶ。本講義では、各自に関心のある研究テーマに沿ってマーケティングに関わる学術論文を読み、それを基に資料の作成と報告を行う。その後、参加者間での討議に入る。学術論文は、日本マーケティング学会誌「マーケティングジャーナル」に収録されている論文から選んでもらう予定である。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	中小企業論特別演習	授業形態は単独である。授業のテーマは地域経済における中小企業の役割についての演習である。到達目標は、中小企業観の変遷を理解するとともに、地域経済の担い手としての中小企業がもつ特徴を発見できるようになることと、社会環境の変化の中での中小企業の課題について分析し、その対策と展望について自らの意見をまとめて報告、論述できるようになることである。授業の概要として、地域経済における役割という視点から中小企業に関わる文献を読み、その内容について口頭発表を行う。また、発表に対する議論を通じて理解を深め、専門知識を適切に表現することを学ぶ。	
	民法特別演習 A	企業システム・経営法務の特別演習として大学院における高度な知識の習得とその応用に資する科目となります。フランスにおける不動産取引の実態とその法的根拠について、各種資料並びに文献の講読を通じて理解することを目的とします。また、特にフランス公証人制度を中心とした不動産取引を法的に支える諸制度に関する文献を講読します。フランスの不動産取引の実態について理解するとともに、フランス公証人制度との関係を探ることで、わが国の不動産取引・公示制度のより深い理解を得ることを目標とします。解説を加えながら各種資料の解説、文献の講読を行い、まずは資料の概要についてレクチャーすることから始めます。その上で、各自割り当てを決め、順次報告してもらおうこととなります。	
	民法特別演習 B	本講義は、最新の民法判例（最高裁判決）を検討することにより、民法研究に必要な基本的知識を身につけ、民法に関する研究遂行能力を身につけることを目的とする。 到達目標としては、民法の基本知識を身につけ、具体的な事案に適用される法規範の形成過程を理解できるようになることを設定する。 本講義は、受講者各自が選択したテーマに関する判例・関連文献を取り上げ、他の受講者も含め議論を行う。	
	雇用関係法特別演習	本科目は、雇用関係法特論で学んだ内容をふまえて、雇用関係法に関連する判例や論文にあたりながら、具体的な問題および政策課題について検討し理解を深めることを目的とする。働き方改革関連として、長時間労働の規制、同一労働同一賃金原則、高度プロフェッショナル制度をはじめ、外国人技能実習制度、セクシュアルハラスメント・パワーハラスメントなど近年法改正が行われ注目されるテーマを中心に取扱う。雇用関係法に関する判例や論文の読解、考察を通して、主体的かつ多面的に考える能力を養うことを目標とする。	
	商法特別演習	企業(会社)の運営および企業活動における法的問題について、自ら関連文献を収集し、正確に読み込み、分析する手法を習得する。分析結果を自ら整理し、問題解決のためにどのように適用するかを考える力、それを正確に表現する力(プレゼンテーション、レポートの作成など)を培うことを目標とする。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	企業システム特別演習	<p>本授業では、受講者が各自の研究計画に即し、資料の読解や先行研究の読解・整理を行い、その成果を逐次発表し議論を重ねること で、修士論文作成に必要な調査、報告、議論などに関わる基礎的 能力を身につける。具体的には、最初に研究計画を発表し、次に関連 するテキストの読解を行う。さらに関連する研究論文を要約し、自 分の研究計画の課題を見つけていく。単元毎にまとめの発表をさせ るほか、中間構想発表会の場で発表をさせるなど学生のアウトプ ットのを多く設け、教員・院生との頻繁な対話のなかで、最終的に 修士論文のテーマ・全体の構成を確定する。</p> <p>(8 安田 均) 株式会社における勤続昇給について、文献・データを紹介しつつ、 多角的に考察できるよう指導する。</p> <p>(10 コーエンズ久美子) 企業運営、企業活動を規整する法制度、判例についての分析方法を 指導する。</p> <p>(15 高橋良彰) 法文や判決の歴史的背景を探りながら、法的判断能力を高めるため の調査方法・研究の指導を行う。</p> <p>(16 洪 慈乙) 会計に関する諸事象のうち、とりわけ関心のある領域もしくは分野 における問題意識を形成するように指導する。</p> <p>(29 砂田洋志) 輪読とコンピュータによる実習を交えながら、計量経済学の理論及 び応用に関する研究指導を行なう。</p> <p>(45 鈴木明宏) 企業の戦略的行動を理解するために必要な、ゲーム理論の基礎・応 用並びにその周辺分野について学ぶ。</p> <p>(49 阿部未央) 労働者の労働条件に関する諸問題について、裁判例や論文を紹介し ながら、多角的に考察できるよう研究指導を行う。</p> <p>(51 小笠原奈菜) 民法（財産法・家族法）についての研究指導を行なう。</p> <p>(61 西平直史) 経営問題における数理モデルの構築とモデルを用いた解析手法につ いての研究指導を行う。</p> <p>(68 兼子良久) マーケティングとともに、消費者行動論などの隣接分野の学術成果 を取り込みつつ、マーケティングに関わる研究指導を行う。</p> <p>(87 吉原元子) 主にケーススタディの手法を用いて、隣接分野の学術成果を取り込 みつつ、中小企業論に関する研究指導を行う。</p> <p>(95 柴田 聡) 経営学を学ぶために求められる定量的手法を用いた企業分析の方法 について学ぶ。</p>	
	国際政治特論	<p>戦後日本外交史についての専門書を講読していきます。目標は、1) 日本外交史の専門知識を身につけること、2)専門書を読解する能 力、関係する史実などを調べる能力を身につけること、3)今後の日 本外交の課題を、史実をもとに考えていく知識と能力を身につける こと、4)課題の打開に向けた方策を検討、提言する能力を身につけ ること。授業計画としては、前半は専門書の講読をおこない、後半 にて受講生の関心に応じたトピックを個々の受講生に報告してもら います。</p>	
	グローバル・ガバナンス論 特論	<p>本講義では、環境問題や貧困、難民・移民など、現代の様々なグ ローバル問題に焦点をあて、グローバル化、グローバル・ガバナ ンス、人間の安全保障、人権、国家、国際機構、地域機構、非政府組 織（NGO）といったキーワードを用いながら、国際関係論の主要な議 論を交えて問題を分析し、解決策を考える。受講者は、国際関係論 の概念や理論に関する知識を深めながら、プレゼンテーションや ディスカッションを通して、現代のグローバル問題を分析し、理解 し、自分なりの解決策が提案できるようになることを目標とする。</p>	
	国際法特論	<p>現代国際法の基本的な論点をおさえ、国際社会における国際法や国 際組織の位置づけ・役割について理解する。この授業を履修するこ とによって、1) 国際法の研究動向について説明でき、2) 国際的 な実行や学説について分析することができ、3) 本講義で学んだこ とを、自身の研究テーマに積極的に活かすことができるようになる ことが到達目標である。国際法学に関する日本及び欧米の関連文献 に基づいて講義・報告・検討する。題材とする文献は国際法の体系 書とし、国際法の全体像をおさえることに重点をおく。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	現代中国政治特論	<p>目標：(1)現代中国の政治課題について理解できる。(2)中国の視点から国際社会を捉えることができるようになる。</p> <p>授業計画：(1)授業の全体像について(2)中国共産党の統治構造と支配の仕組み(3)人民代表大会制度(4)行政システム(5)政治協商会議(6)政法委員会と司法(7)国民世論とソーシャルメディア(8)中国政治におけるシンクタンク(9)公務員の腐敗の深刻化(10)中国における文民統制(11)外交政策の特徴(12)中央と地方の関係(13)民族問題(14)環境問題(15)まとめ</p> <p>授業方法：テキストを輪読する。授業では学生の報告、教員による補足・解説、質疑応答、議論という流れで行う。</p>	
	国際取引法特論	<p>本授業では、受講者が各自の研究計画に即し、資料の読解や先行研究の読解・整理を行い、その成果を逐次発表し議論を重ねることで、修士論文作成に必要な調査、報告、議論などの仕方を身につける。</p> <p>具体的には、最初に研究計画を発表し、次に関連するテキストの読解を行う。さらに関連する研究論文を要約し、自分の研究計画の課題を見つけていく。単元毎にまとめの発表をさせるほか、中間構想発表会の場で発表をさせるなど学生にはアウトプットの場を多く設け、教員・学生との頻繁な対話のなかで、最終的に修士論文のテーマ・全体の構成を確定する。</p>	
	国際金融論特論	<p>国際金融論における中心的トピックである為替相場の決定理論を解説する。講義内容としては代表的理論である購買力平価、金利平価、マネタリーアプローチ等を取り上げる。この他に為替介入、通貨危機、国際金融アーキテクチャーといった国際金融の現状を理解するために必要なトピックについても講義する。また、購買力平価を対象としたExcelを用いた実習によって理論と現実との橋渡しも行う。学生が理論を理解した上で現状分析ができるようになることを目標とする。</p>	
	国際経済論特論	<p>国際貿易に関する研究について学術論文を通して学ぶ。</p> <p>「授業の到達目標」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学術論文を読む能力を身につける ・内容をまとめる能力を身につける ・口頭発表する能力を身につける <p>「授業の方法」</p> <p>発表者は、事前に自分の興味のあるテーマに合った学術論文を読んで内容をまとめ発表する。発表した内容についてディスカッションを行う。</p>	
	国際政治特別演習	<p>演習形式にて、日本外交と関わりを持ちながら進められてきた戦後日本の出入国管理制度と外国系住民政策の歩みを学びます。目標は、関連する政策についての専門知識や専門書を読解する能力、関係する史実などを調べる能力、今後の日本の多文化共生政策、統合政策の課題を、史実をもとに考えていく知識と能力を身につけることです。授業計画としては、前半では出入国管理政策についてのテーマを、後半は外国系住民（多文化共生政策）にかかるテーマを扱い、それぞれ受講生がレポートをおこない、それをもとに質疑応答をおこないます。</p>	
	グローバル・ガバナンス論特別演習	<p>本講義では、現代の様々なグローバル問題に焦点をあて、国際関係論の主要な議論を交えながら問題を分析し、自身で解決策を考える。受講者は、国際関係論の概念や理論に関する知識を深めながら、プレゼンテーションやディスカッションを通して、現代のグローバル問題を分析し、理解し、自分なりの解決策が提案できるようになることを目標とする。その際、自身の研究計画に即して、先行研究や資料の読解・整理を行い、研究手法を身に付ける。研究成果は逐次発表し議論を重ねていく。</p>	
	国際法特別演習	<p>国際社会における諸問題に対する理解を深めるために、国際連合を中心に国際法の基本的な論点をおさえ、国際社会における国際法や国際組織の位置づけ・役割について理解する。この授業を履修することによって、1) 国際法の研究動向について説明でき、2) 国際的な実行や学説について分析することができ、3) 本講義で学んだことを、自身の研究テーマに積極的に活かすことができるようになることが到達目標である。国際法学に関する日本および欧米の関連文献を輪読・報告・検討する。輪読する文献は、院生の問題関心や修士論文のテーマに対応させて、国際法の観点から有益と思われるものを選択する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	現代中国政治特別演習	<p>目標：現代中国の政治課題について、自らの問題意識に基づいて、独力で研究を推進する能力を身につけることができる。</p> <p>授業計画：(1)授業の全体像(2)テーマ選定と発表のための方法論の確認(3)-(15)報告、質疑応答、議論</p> <p>授業方法：現代中国政治に関するテーマを各自で選定し、報告する。授業は、学生の報告、教員による補足・説明、質疑応答、議論という流れで行う。なお、テーマ選定、構成、文献収集、レジュメ作成、プレゼンなどについては授業の中で適宜指導する。</p>	
	国際取引法特別演習	<p>本授業では、受講者が設定した研究テーマを、国際取引法全体のなかで位置付けることを目指す。自らの研究に隣接する分野の先行研究を調べ、実際に他分野と連携して行われる研究の事例を学ぶことで、広く国際取引法全体のなかで自分の研究を位置づける視座を獲得し、分野横断的な研究の在り方を学ぶ。また、研究テーマに関する理解を深めるために、関連する裁判例の分析方法も研究する。</p>	
	国際金融論特別演習	<p>国際金融に係る時事的なトピックについて現状分析ができるようになることを目標とする。国際マネーフローについては国際通貨制度の歴史を踏まえた上で、変動相場制におけるマネーフロー、とりわけ米国の国際マネーフローの構造を確認しつつ、国際金融危機について解説する。次に、新興国に係る国際金融のトピックとして通貨危機を取り上げる。通貨危機のメカニズムを解説した後に通貨危機の事例を紹介し、新興国による為替相場制度の選択について講義する。さらに、欧州において進展した通貨統合について解説する。通貨統合を進めた背景、理論としての最適通貨圏について説明した後、財政・金融政策の制度を踏まえて欧州債務危機について講義する。</p>	
	国際経済論特別演習	<p>「授業の目的」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際産業連関分析について学び、私たちの消費が貿易を通してどこに影響を及ぼすのか分析します。 <p>「授業の到達目標」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際産業連関分析について理解する。 ・Excelやプログラミングを用いて計算ができる。 ・国際産業連関分析を行い、問題に対し答えが出せる。 <p>「授業の方法」</p> <p>最初に国際産業連関分析について基本的な知識を学び、その後演算ソフトを用いて実際のデータを分析する。講義中に演習課題を出します。</p>	
	国際システム特別演習	<p>本授業では、受講者が設定した研究テーマを、国際システム全体のなかで位置付けることを目指す。自らの研究に隣接する分野の先行研究を調べ、実際に他分野と連携して行われる共同研究の事例を学ぶことで、広く国際システム全体のなかで自分の研究を位置づける視座を獲得し、分野横断的な共同研究の在り方を学ぶ。</p> <p>(3 荒井太郎)</p> <p>研究テーマに関連した参考文献を輪読する。また、修士論文の執筆に必要な裁判例の分析方法を解説する。</p> <p>(21 松本邦彦)</p> <p>日本外交および植民地支配について、そしてそれらと在日外国人、戦後日本における多文化共生政策との関係を中心に指導します。</p> <p>(43 山口昌樹)</p> <p>学術論文の読み方を教示した上で参考文献を輪読する。また、修士論文の執筆に必要な計量分析の手法について解説しつつ実習を行う。</p> <p>(56 赤倉 泉)</p> <p>研究テーマに関連した参考文献を輪読する。また、修士論文の執筆に必要な政治学の手法について解説する。</p> <p>(64 中村文子)</p> <p>学術論文の読み方を学びながら、自身の研究テーマに沿った文献を持ち寄り輪読する。また、修士論文の構成を組み立てて、それについても議論する。</p> <p>(82 丸山政己)</p> <p>各自の研究テーマに関連する国際法文献を輪読する。また、修士論文の執筆に必要な判例や事例の分析方法を身につける。</p> <p>(101 時任翔平)</p> <p>研究テーマに関連する参考文献を輪読する。また、修士論文の執筆に必要な分析手法やデータについて解説する。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	公共システム特別研究 I 公共システム特別研究 II	<p>特別研修 I では、受講者が各自の研究計画に即し、資料の読解や先行研究の読解・整理、データ分析等を行い、その成果を逐次発表し議論を重ねることで、修士論文作成に必要な調査・分析、報告、議論などの仕方を身につける。具体的には、最初に研究計画を発表し、次に関連するテキストの読解を行う。さらに関連する研究論文を要約し、自分の研究計画の課題を見つけていく。単元毎にまとめの発表をさせるほか、中間構想発表会の場で発表をさせるなど学生にはアウトプットの場を多く設け、教員・院生との頻繁な対話のなかで、最終的に修士論文のテーマ・全体の構成を確定する。</p> <p>特別研究 II では、受講者が設定した研究課題を修士論文として完成させる。修士論文作成に必要な調査・分析、報告、議論などに関わる能力をさらに向上させる。特に、章の構成から注や引用における注意点まで、論文作成に必要な事項をより詳細に多面的に学ぶことで、完成度の高い修士論文の完成を目指す。</p> <p>(11 是川晴彦) 公共経済学の理論を用いて国や地域が抱える課題の本質や解決策を分析していく指導を行う。</p> <p>(28 山田浩久) 地域構造論的な観点から指摘される地域課題の解決をテーマとし、学生が主体的に行う地域調査に基づき、都市計画に関する研究指導を行う。</p> <p>(32 下平裕之) 19世紀後半～20世紀前半の経済学説について、現代の産業政策や福祉政策について有益な知見を導出するという視点から研究指導を行う。</p> <p>(36 今野健一) 特に統治機構論を中心とする憲法学の課題について、憲法判例の思考形式の分析、立法政策に関する機能的評価と代替策の提示などを眼目とする研究指導を行う。</p> <p>(39 高倉新喜) わが国の刑事手続の諸問題を、国家刑罰権の実現と被疑者・被告人の人権擁護とのバランスを図りながら解決していく研究指導を行う。</p> <p>(41 阿部晃士) 社会調査データを用いた計量社会学の手法により、人びとの意識や行動と社会現象のメカニズムに関する研究指導を行う。</p> <p>(48 伊藤晶文) 自然地理学（主に地形学）の主な研究手法を用いて、地域の地形環境変遷や防災、環境影響評価についての研究指導を行う。</p> <p>(52 西岡正樹) ドイツ語圏刑法との比較法的視点から、刑罰制度に関する理論的考察を中心とした研究指導を行う。</p> <p>(54 中島 宏) 判例研究や比較憲法の手法を用いて、日本の憲法判例法理やフランスの憲法学についての研究指導を行う。</p> <p>(55 田北俊昭) 空間経済学の手法を用いて、都市・地域経済や交通・情報経済に関する研究指導を行う。</p> <p>(57 和泉田保一) 行政法の基本原則を踏まえた上で、行政の活動形式や重要判例の理解及び批判的検討について、研究指導を行う。</p> <p>(70 坂本直樹) 経済分析の手法を用いて、国や地方公共団体の財政運営についての研究指導を行う。</p> <p>(75 杉野 誠) 経済分析の手法を用いて、環境問題・都市問題についての研究指導を行う。</p> <p>(80 溜川健一) マクロ経済モデルを用いて、財政・金融政策の数値シミュレーション分析を行う手法を学ぶ。</p> <p>(84 川村一義) 公共政策に関して受講者が設定した研究テーマに基づき、政策立案に活用できる学術的で説得的な知見の導出を目指し、データの収集・分析を行う。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	企業システム特別研究 I 企業システム特別研究 II	<p>特別研究 I では、受講者が各自の研究計画に即し、資料の読解や先行研究の読解・整理を行い、その成果を逐次発表し議論を重ねることで、修士論文作成に必要な調査、報告、議論などの仕方を身につける。具体的には、最初に研究計画を発表し、次に関連するテキストの読解を行う。さらに関連する研究論文を要約し、自分の研究計画の課題を見つけていく。単元毎にまとめの発表をさせるほか、中間構想発表会の場で発表をさせるなど学生にはアウトプットの間を多く設け、教員・院生との頻繁な対話のなかで、最終的に修士論文のテーマ・全体の構成を確定する。</p> <p>特別研究 II では、受講者が設定した研究課題を修士論文として完成させる。修士論文作成に必要な調査、報告、議論などに関わる能力をさらに向上させる。特に、章の構成から注や引用における注意点まで、論文作成に必要な事項をより詳細に多面的に学ぶことで、完成度の高い修士論文の完成を目指す。</p> <p>(8 安田 均)</p> <p>株式会社における勤続昇給について、文献・データを紹介しつつ、多角的に考察できるように指導する。</p> <p>(10 コーエンズ久美子)</p> <p>企業運営、企業活動を規整する法制度、判例についての分析方法を指導する。</p> <p>(15 高橋良彰)</p> <p>法文や判決の歴史的背景を探りながら、法的判断能力を高めるための調査方法・研究の指導を行う。</p> <p>(16 洪 慈乙)</p> <p>会計に関する諸事象のうち、とりわけ関心のある領域もしくは分野における問題意識を形成するように指導する。</p> <p>(29 砂田洋志)</p> <p>輪読とコンピュータによる実習を交えながら、計量経済学の理論及び応用に関する研究指導を行なう。</p> <p>(45 鈴木明宏)</p> <p>企業の戦略的行動を理解するために必要な、ゲーム理論の基礎・応用並びにその周辺分野について学ぶ。</p> <p>(49 阿部未央)</p> <p>労働者の労働条件に関する諸問題について、裁判例や論文を紹介しながら、多角的に考察できるように研究指導を行う。</p> <p>(51 小笠原奈菜)</p> <p>民法（財産法・家族法）についての研究指導を行なう。</p> <p>(61 西平直史)</p> <p>経営問題における数理モデルの構築とモデルを用いた解析手法についての研究指導を行う。</p> <p>(68 兼子良久)</p> <p>マーケティングとともに、消費者行動論などの隣接分野の学術成果を取り込みつつ、マーケティングに関わる研究指導を行う。</p> <p>(87 吉原元子)</p> <p>主にケーススタディの手法を用いて、隣接分野の学術成果を取り込みつつ、中小企業論に関する研究指導を行う。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	国際システム特別研究 I 国際システム特別研究 II	<p>特別研究 I では、受講者が各自の研究計画に即し、資料の読解や先行研究の読解・整理を行い、その成果を逐次発表し議論を重ねることで、修士論文作成に必要な調査、報告、議論などの仕方を身につける。</p> <p>具体的には、最初に研究計画を発表し、次に関連するテキストの読解を行う。さらに関連する研究論文を要約し、自分の研究計画の課題を見つけていく。単元毎にまとめの発表をさせるほか、中間構想発表会の場で発表をさせるなど学生にはアウトプットの場を多く設け、教員・学生との頻繁な対話のなかで、最終的に修士論文のテーマ・全体の構成を確定する。</p> <p>特別研究 II では、受講者が設定した研究課題を修士論文として完成させる。修士論文作成に必要な調査、報告、議論などに関わる能力をさらに向上させる。特に、章の構成から注や引用における注意点まで、論文作成に必要な事項をより詳細に多面的に学ぶことで、完成度の高い修士論文の完成を目指す。</p> <p>(3 荒井太郎) 研究テーマに関連した参考文献を輪読する。また、修士論文の執筆に必要な裁判例の分析方法を解説する。 (21 松本邦彦) 日本外交および植民地支配について、そしてそれらと在日外国人、戦後日本における多文化共生政策との関係を中心に指導します。 (43 山口昌樹) 学術論文の読み方を教示した上で参考文献を輪読する。また、修士論文の執筆に必要な計量分析の手法について解説しつつ実習を行う。 (64 中村文子) 学術論文の読み方を学びながら、自身の研究テーマに沿った文献を持ち寄り輪読する。また、修士論文の構成を組み立てて、それについても議論する。 (82 丸山政己) 各自の研究テーマに関連する国際法文献を輪読する。また、修士論文の執筆に必要な判例や事例の分析方法を身につける。</p>	
臨床心理学コース	臨床心理学に関する必修科目 臨床心理学特論A	<p>心理援助は、様々な領域で、様々な対象に対して、様々なアプローチを選択しながら行われる営為である。しかしながら、そこには心理援助を行う上で共通に見られる現象や押さえておかなければならないポイントがある。本講義では、そうした心理援助において臨床家が考えておかなければならない基本的な事柄や概念について、テキストを精読しながら学ぶ。また、心理臨床の活動領域は、近年広がりを見せており、各領域において求められる知識、技能、態度について理解が深められればと考えている。本講義の目標は、以下の4点である。</p> <p>①臨床心理士に求められる態度や姿勢、倫理について説明できる。 ②さまざまな領域における心理支援についてイメージを持ち、また説明できる。 ③向精神薬に関する基本的な事項を説明することができる。 ④臨床心理士の活動に関わる法律について理解し、概要を説明することができる。</p>	
	臨床心理学特論B	<p>本講義は、特に、ライフサイクル（乳幼児期、児童期、思春期・青年期、成人期、高齢期）の観点からさまざまな心の問題やアセスメント、さらには支援について理解することを目的として、毎回、指定された文献を購読し、その内容に関するディスカッションを行う。受講生は、事前に、指定された文献に目を通し、既習事項と関連付けて、理解できる点と理解できない点を整理し、これらに基づき主体的にディスカッションに参加することが求められる。</p> <p>上記を通じて、臨床心理学の理論と実際を学ぶ。</p> <p>尚、講義の到達目標は、以下の通りである。</p> <p>①臨床心理学の代表的な理論を理解できる。 ②発達課題と心の問題の関連を理解できる。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	臨床心理学面接特論A (心理支援に関する理論と実践)	<p>本講義は、臨床心理学面接で用いられる基本技法についての概説、ロールプレイングによる演習、ミニ・カウンセリング演習および受講生の発表等を通じ、公認心理師の実践で用いられる心理療法の基本的な理論と方法について、理解を深めることを目的とする。到達目標は、以下の通りである。</p> <p>①力動論に基づく心理療法の理論と方法について説明できる。 ②行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法について説明できる。 ③その他の代表的な理論に基づく心理療法の理論と方法について説明できる。 ④心理に関する相談、助言、指導等における力動論と行動論・認知論、その他の理論に基づく心理療法の応用について説明できる。 ⑤心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整ができる。</p>	
	臨床心理学面接特論B	<p>事例を理解するうえで、多様な見方があることを知ることは臨床家として大切な事項となる。本講義では、まず心理臨床業務を行う上で必須の観点といえるナラティブ・アプローチについての概説する。さらに、ナラティブ・アプローチに関するテキストの購読や、その内容に関するディスカッションを通じて、ナラティブ・アプローチについての理解を深める。上記を通じて、事例を分析する際に、多様な視点からの分析に加えて、ナラティブの視点からも分析する構えができるようになることを本講義の到達目標とする。</p>	
	臨床心理学査定演習A (心理的アセスメントに関する理論と実践)	<p>本講義では、臨床心理学におけるアセスメント全体についての概説、さらには各種検査の講義、及び教員による検査実施場面の観察学習を行う。加えて受講生は各種検査の体験ロールプレイを行い、その結果をレポートにまとめることでアセスメントの実践において中心的な技法である心理的アセスメントに関する基本的な理論を習得するとともに、アセスメントの実施法や解釈、フィードバック方法について理解を深める。本講義の到達目標は以下の通りである。</p> <p>①心理的アセスメントの意義について説明できる。 ②心理的アセスメントに関連する理論と方法について説明できる。 ③心理に関する相談、助言、指導等における心理的アセスメントの意義、理論・方法の応用について説明できる。</p>	
	臨床心理学査定演習B	<p>アセスメントを正確に行うことは、セラピーやトリートメントと同様に心理臨床家として求められる最も大切な事項の一つといえる。本演習においては、まず心理臨床におけるアセスメントの意義について論じ、そののちいくつかの代表的な投射法の心理検査について概説し、事例分析に役立つような知識の定着を図る。具体的には、特に犯罪非行臨床の現場で用いられることの多いSCT (文章完成法)、TAT (絵画統覚検査)、統合型HTP法、風景構成法の4種の投射法について講義、演習を行う。加えて、架空事例分析実習を通じて、ケースを立体的に理解する手立てを身に付ける。本講義では、心理臨床におけるアセスメントに必要な、基本的な知識と技法の習得を目指す。</p>	
	臨床心理学基礎実習	<p>本実習では、大学の心理臨床施設の機能や運営方法に関する見学実習を行った上で、各種実習を通じて、心理臨床実践に関する実践力の基礎を身につける。具体的には、①実習に関する理論と実践に関する講義 (6H×2回/佐藤・関口) ②プレイセラピー観察 (4H×3回=12H/佐藤・関口・河合)、③心理面接ロールプレイ実習 (プレイ・思春期青年言語・保護者言語 各12H 計36H/佐藤・関口・河合)、④心理検査ロールプレイ実習 (10H/関口)、⑤相談室マネジメント実習 (20H/佐藤・関口・河合) から構成される。</p> <p>本実習では、到達目標として以下の3点を掲げている。</p> <p>①心理臨床施設で実習するにあたって重要な事項を説明できる。 ②ケースの見立てに基づく面接計画を立てることができる。 ③心理検査の実施方法について説明することができる。</p> <p>(50 佐藤宏平/42H)</p> <p>①実習に関する理論と実践に関する講義、②プレイセラピー観察、③心理面接ロールプレイ実習 (保護者言語面接)、④相談室マネジメント実習 (2共同) を担当する。 (92 関口雄一/52H)</p> <p>①実習に関する理論と実践に関する講義、②プレイセラピー観察、③心理面接ロールプレイ実習 (幼児児童プレイセラピー)、④心理検査ロールプレイ実習、⑤相談室マネジメント実習 (共同) を担当する。 (97 河合輝久/36H)</p> <p>①プレイセラピー観察、②心理面接ロールプレイ実習 (思春期青年言語面接)、③相談室マネジメント実習 (共同) を担当する。</p>	オムニバス方式 共同 (一部)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	臨床心理実習A (心理実践実習A)	<p>学内実習施設における担当ケース実習、および学外施設における施設実習を通じて、心理支援の実際に触れ、スーパーバイザー（藤岡・菅藤・伊藤）の指導のもと、心理支援の基礎的な知識及び技能を獲得するとともに、支援計画の策定、チームアプローチの実践、多職種連携及び地域連携の重要性、公認心理師としての職業倫理及び法的義務について体験的に学ぶ。到達目標は、以下の5点である。</p> <p>①心理に関する支援を要する者等に対する支援に関する基礎的な知識及び技能（コミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等）を有し、スーパーバイザーの指導のもと、心理支援を実践することができる。</p> <p>②心理に関する支援を要する者等の基礎的な理解に基づき、スーパーバイザーの指導のもと、支援ニーズを把握するとともに、支援計画の作成することができる。</p> <p>③心理に関する支援を要する者へのチームアプローチの基本について説明することができる。</p> <p>④多職種連携及び地域連携の重要性を理解し、スーパーバイザーの指導のもと、適切に対応することができる。</p> <p>⑤公認心理師としての職業倫理及び法的義務に関して基礎的な理解に基づき、スーパーバイザーの指導のもと、適切に対応することができる。</p> <p>(2 菅藤健一・42 藤岡久美子・147 伊藤洋子/180H)</p> <p>学内実習施設における担当ケース実習の面接実習（スーパーバイズを含む）、学外施設（保健医療領域）における施設実習の事前指導、事後指導、並びにスーパーバイズ。</p>	共同
	臨床心理実習B	<p>学内実習施設における担当ケース実習を通じて、心理支援の実際に触れ、スーパーバイザー（藤岡・菅藤・佐藤・本島・関口・河合）の指導のもと、心理支援の基礎的な知識及び技能を獲得するとともに、支援計画の策定、チームアプローチの実践、多職種連携及び地域連携の重要性、臨床心理士としての職業倫理及び法的義務について体験的に学ぶ。以下、5つの到達目標を掲げる。</p> <p>①心理に関する支援を要する者等に対する支援に関する基礎的な知識及び技能（コミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等）を有し、スーパーバイザーの指導のもと、心理支援を実践することができる。</p> <p>②心理に関する支援を要する者等の基礎的な理解に基づき、スーパーバイザーの指導のもと、支援ニーズを把握するとともに、支援計画の作成することができる。</p> <p>③心理に関する支援を要する者へのチームアプローチの基本について説明することができる。</p> <p>④多職種連携及び地域連携の重要性を理解し、スーパーバイザーの指導のもと、適切に対応することができる。</p> <p>⑤臨床心理士としての職業倫理及び法的義務に関して基礎的な理解に基づき、スーパーバイザーの指導のもと、適切に対応することができる。</p> <p>(2 菅藤健一・42 藤岡久美子・147 伊藤洋子/45H)</p> <p>学内実習施設における担当ケース実習の事前指導・事後指導（インターンカンファレンス・ケースカンファレンス）を担当する。</p>	共同
A群	心理学特別演習（統計）	<p>教育・心理統計で用いられる代表的な方法について解説し、それぞれの統計的手法における基本的かつ具体的な問題について学ぶ。学部レベルの記述統計及び推測統計の基礎的学習を踏まえて、多変量データを中心に、その考え方と分析方法について理解し、心理学的研究が遂行できる資質能力の向上をめざす。</p> <p>本授業の目標は、以下のとおりである。</p> <p>①心理学の研究方法を理解できるようになる。</p> <p>②心理統計を用いて、心理学的研究に適用できるようになる。</p> <p>③統計ソフトを用いたデータ処理ができるようになる。</p> <p>④処理した結果を記述し、結果を考察できるようになる。</p>	
	心理学研究法特論	<p>臨床心理学領域における研究を行う上で必要な知識と技能を習得する。講義の前半は、受講生自身の興味あるテーマに関連する研究論文（英語論文の含めること）の「方法」の箇所をそれぞれ報告し、ディスカッションを行う。また講義の後半は、事前配布の資料に基づいて、量的研究やアナログ研究、効果研究、質的研究や事例研究といった臨床心理学研究に特有の方法論を学習する。</p> <p>授業の到達目標は、以下の通りである。</p> <p>①臨床心理学領域における研究方法を説明できる。</p> <p>②臨床心理学領域における研究を立案できる。</p> <p>③臨床心理学領域における研究遂行に必要な知識・技能を身に付けている。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
B群	発達心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	<p>心理臨床や心理支援において、発達段階やライフサイクルの理解は重要である。本講義では、生涯にわたる発達のプロセスやメカニズムを理解し、各発達期で生じやすい心理的問題に対する適切な支援のあり方について学ぶことを目的とする。また、福祉領域における子ども発達支援の実践について施設見学実習や事例検討を通じて理解を深める。</p> <p>本講義では、以下の目標の達成を目指す。</p> <p>①乳児期から老年期までの各段階の発達の特徴を説明できる。 ②各発達段階で生じやすい心理的問題を理解し、支援のあり方や手法について自分の考えを明確に述べるができる。 ③福祉領域における子どもの発達の支援と実際について事例を踏まえて理解を深めることができる。</p>	
	教育心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	<p>本講義では、不登校、いじめ、非行、発達障害等に関する文献購読を通じて、各々の理論的背景と根拠に基づいた支援方法について理解を深める。また、スクールカウンセラーによる支援の実践、教育センター・適応指導教室における支援、多職種連携といった教育分野における支援のあり方についても学ぶ。さらには、教師のメンタルヘルスの問題についても触れる。こうした学びを通じて、以下の到達目標の達成を目指す。</p> <p>①教育分野における今日的課題について説明できる。 ②子どもの発達に即した心理学的支援について説明できる。 ③スクールカウンセラーの実践について説明できる。 ④教育センター・適応指導教室における実践について説明できる。 ⑤学校内外における多職種連携について説明できる。 ⑥教育分野に関わる公認心理師の実践について説明できる。</p>	
C群	家族心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	<p>家族療法を中心に、ブリーフセラピー、家族アセスメント等について学んでいく。一般に、家族療法はケースを記述する際に用いる言葉や概念が、カウンセリング技法として一般的なクライエント中心療法や精神分析的な心理療法等の個人療法とは若干異なる。そのため本講義では、まず家族臨床の実践を理解する前に、他の個人療法とは異なる独特なもの見方や概念、用語（システム論、社会構築主義）について概説する。また5回目以降、家族療法に関する事例を中心とした書籍を講読するとともに、家族アセスメントの演習を行う。加えて、家族療法の映像教材を視聴し、家族療法の実践に触れる。最後に、家族療法から派生したブリーフセラピー（家族療法、ナラティブセラピー含む）のワークショップを行い、ロールプレイを通して、ブリーフセラピーの理解を深める。</p>	
	犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	<p>少年保護法制の理解、犯罪・非行の現況や犯罪・非行少年の心理的特徴の理解と支援についての理解を深め、犯罪・非行臨床だけではなく心理臨床場面や学校現場で直面する問題に対応できる心理学的知識を学ぶ。本講義の到達目標は以下の通りである。</p> <p>①少年保護法制の基本的事項をふまえて、少年保護の現状について説明できる。 ②犯罪・非行臨床の現況と将来について、多角的な角度から考察し、説明できる。 ③犯罪・非行に至る少年の心理的特徴と支援の方法を体験的に学ぶ。</p>	
D群	精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	<p>精神医学の歴史、精神医学における診察と検査、治療方法について学び、その後、成人の診断分類と治療の概要、児童青年期の診断分類と治療の概要、老年期の診断分類と治療の概要について論じる。また、上記を通じて、心理臨床の専門家として必要な精神医学および精神医療についての基礎的な知識を獲得することが目的となる。</p> <p>「精神科医の診断や治療の基本となる考え方を知り、精神障害の基本的な診断分類を覚え、精神科領域で用いられる薬物療法、精神療法（心理療法）、リハビリテーションについて理解を深めること。」を以て、到達目標とする。</p>	
	大脳生理学特論	<p>臨床心理学領域に関わる諸問題を、大脳生理学（神経科学、神経心理学等を含む）の観点から講義することによって、基礎的知識の習得から臨床心理学領域で必要となる知識の獲得と、脳科学と臨床心理学をつなぐような研究や脳科学に基づく臨床心理学研究を理解する思考法の獲得を目的とする。到達目標は以下の通りである。</p> <p>①臨床心理学領域における大脳生理学の位置づけと最新研究を中心に概観することによって、臨床心理学領域に必要な大脳生理学の基礎的な知識を習得することができる。【知識・理解】 ②学習した大脳生理学の知識や科学研究の知見を実際の研究や臨床に応用できる。【技能】</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
E群	心理療法特論	<p>心理療法の実践の前提となるアセスメントおよびケースフォーミュレーションに加え、代表的な個人心理療法（力動的心理療法、クライエント中心療法、認知行動療法）の理論や方法に関する知識を得ることを目的とする。そのために、アセスメントとケースフォーミュレーションの総論に加え、代表的な個人心理療法の理論と方法、その実際を学ぶ。</p> <p>本授業の到達目標は次の2点である。</p> <p>①アセスメントとケースフォーミュレーションについて概説できる ②代表的な個人心理療法の理論と方法を理解し概説できる</p>	
	投映法特論	<p>本講義では、まず投映法とロールシャッハテストの意義について論じ、その上で、ロールシャッハ検査の実施法、スコアリング、さらには解釈について概説する。さらに、実際にロールシャッハテストを実施し、スコアリング、解釈を試みた上で、その結果について、受講者全員でディスカッションを行う。上記を通じて、下記の目標の到達を目指す。</p> <p>①ロールシャッハ検査の理論、実施法、スコアリング、解釈の基本手順について説明することができる。 ②ロールシャッハ検査結果とその他の情報から、パーソナリティのアセスメントを行うことができる。</p>	
	産業臨床心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	<p>本講義では、産業分野における支援で必要となる基本習得を目的として、個人を支援するための代表的なキャリア発達理論、や組織を支援するための基本的な考え方、産業メンタルヘルス、キャリア支援の実際を取り上げ、それぞれについてのショートレクチャーやレポート作成、グループディスカッションを行う。到達目標として、以下を挙げる。</p> <p>①代表的なキャリア理論を理解し、説明できる。 ②組織支援の基本的な考え方を理解し、説明できる。 ③産業メンタルヘルスに関する基本的な事項を説明することができる。 ④キャリア支援の実際について、支援の留意点も含め、説明することができる。</p>	
	心の健康教育に関する理論と実践	<p>心理援助の専門職は、心理、発達、健康に関する支援を要する個人への援助のみならず、すべての国民に対して、その心の健康の維持と増進を目的に、心理学に基づく知識の提供、教育を行うことが求められる。本講義では、心の健康教育を計画・実行する上での基礎を身に付けることを目的として、心の健康教育に関する諸理論を学び、その実践に関する演習（ワーク）を行い、実際に特定のテーマに関する心の健康教育を企画する。その際、地域において心の健康に関する文化の創生に寄与しうる企画となるように、地域の実態を踏まえて検討する。上記の体験を通じて、次の4点の到達目標の達成を目指す。</p> <p>①心の健康教育に関する理論について説明できる ②心の健康教育に関する実践について説明できる ③チームで協力して心の健康教育を計画・実践できる ④地域の実態を踏まえた有効な心の健康教育を計画・実践できる</p>	
	心理学実践実習基礎	<p>学内実習施設における担当ケース実習、カンファレンス出席、および学外施設の見学実習を通じて、心理支援の実際に触れ、スーパーバイザー（藤岡・佐藤・関口・菅藤・本島・河合）の指導のもと、心理支援の基礎的な知識及び技能を獲得するとともに、支援計画の策定、チームアプローチの実践、多職種連携及び地域連携の重要性、公認心理師としての職業倫理及び法的義務について体験的に学ぶ。</p> <p>①心理に関する支援を要する者等に対する支援に関する基礎的な知識及び技能（コミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等）を有し、スーパーバイザーの指導のもと、心理支援を実践することができる。 ②心理に関する支援を要する者等の基礎的な理解に基づき、スーパーバイザーの指導のもと、支援ニーズを把握するとともに、支援計画の作成することができる。 ③心理に関する支援を要する者へのチームアプローチの基本について説明することができる。 ④多職種連携及び地域連携の重要性を理解し、スーパーバイザーの指導のもと、適切に対応することができる。 ⑤公認心理師としての職業倫理及び法的義務に関して基礎的な理解に基づき、スーパーバイザーの指導のもと、適切に対応することができる。</p> <p>(2 菅藤健一・42 藤岡久美子・50 佐藤宏平・92 関口雄一・97 河合輝久/90H)</p> <p>学内実習施設における担当ケース実習の事前指導、事後指導、並びにスーパーバイズ</p>	共同

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	心理実践実習B	<p>学内実習施設における担当ケース実習を通じて、心理支援の実際に触れ、スーパーバイザー（藤岡・佐藤・関口・菅藤・本島・河合）の指導のもと、心理支援の基礎的な知識及び技能を獲得するとともに、支援計画の策定、チームアプローチの実践、多職種連携及び地域連携の重要性、公認心理師としての職業倫理及び法的義務について体験的に学ぶ。</p> <p>到達目標は以下の通りである。</p> <p>①心理に関する支援を要する者等に対する支援に関する基礎的な知識及び技能（コミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等）を有し、スーパーバイザーの指導のもと、心理支援を実践することができる。</p> <p>②心理に関する支援を要する者等の基礎的な理解に基づき、スーパーバイザーの指導のもと、支援ニーズを把握するとともに、支援計画の作成することができる。</p> <p>③心理に関する支援を要する者へのチームアプローチの基本について説明することができる。</p> <p>④多職種連携及び地域連携の重要性を理解し、スーパーバイザーの指導のもと、適切に対応することができる。</p> <p>(2 菅藤健一・42 藤岡久美子・50 佐藤宏平・92 関口雄一・97 河合輝久/45H)</p> <p>学外実習施設（教育領域・福祉領域）における担当ケース実習の事前指導、事後指導、並びにスーパーバイズ</p>	共同
	心理実践実習C	<p>学外実習施設における担当ケース実習等を通じて、心理支援の実際に触れ、スーパーバイザー（藤岡・佐藤・関口・菅藤・本島・河合）の指導のもと、心理支援の基礎的な知識及び技能を獲得するとともに、支援計画の策定、チームアプローチの実践、多職種連携及び地域連携の重要性、公認心理師としての職業倫理及び法的義務について体験的に学ぶ。</p> <p>以下の5つの目標の達成を目指す。</p> <p>①心理に関する支援を要する者等に対する支援に関する基礎的な知識及び技能（コミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等）を有し、スーパーバイザーの指導のもと、心理支援を実践することができる。</p> <p>②心理に関する支援を要する者等の基礎的な理解に基づき、スーパーバイザーの指導のもと、支援ニーズを把握するとともに、支援計画の作成することができる。</p> <p>③心理に関する支援を要する者へのチームアプローチの基本について説明することができる。</p> <p>④多職種連携及び地域連携の重要性を理解し、スーパーバイザーの指導のもと、適切に対応することができる。</p> <p>⑤公認心理師としての職業倫理及び法的義務に関して基礎的な理解に基づき、スーパーバイザーの指導のもと、適切に対応することができる。</p> <p>(2 菅藤健一・42 藤岡久美子・50 佐藤宏平・92 関口雄一・97 河合輝久/90H)</p> <p>学外実習施設（教育領域・福祉領域）における担当ケース実習の事前指導、事後指導、並びにスーパーバイズ</p>	共同
	心理実践実習D	<p>臨床心理実習A（心理実践実習A）及び心理実践実習Cとして実施される学外実習の事前事後指導を行う（9時間）。施設における担当ケース実習等の振り返りを通じて、心理支援の基礎的な知識及び技能、支援計画の策定、チームアプローチの実践、多職種連携及び地域連携の重要性、公認心理師としての職業倫理及び法的義務の理解を深める。</p> <p>(2 菅藤健一・42 藤岡久美子・50 佐藤宏平・92 関口雄一・86 本島優子・97 河合輝久/9H)</p> <p>「心の健康教育」に関わる地域心理支援として、保護者向けや学校での児童生徒向けのセミナーの企画・運営を行う（36時間）。地域心理支援活動を通じて地域に根差した心の健康に関する文化の創生に必要な知識を習得し、チームアプローチの実践、多職種連携及び地域連携の重要性、公認心理師としての職業倫理及び法的義務の理解を深める。</p> <p>(86 本島優子・97 河合輝久/36H)</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	課題研究Ⅰ	<p>修士論文作成に向けて、院生がそれぞれ設定した臨床心理学にかかわる主題について、先行研究のレビュー・研究方法等の検討を進め、各自がそれぞれの問題意識を明確化し、修士論文作成に向けての実行可能な研究計画を立て、実行へ向けての準備を整えることを目的とする。それらを通して自分自身の問題解決能力や論理的思考能力、およびコミュニケーション能力を高め、仲間との協働性を学ぶ機会となることがねらいである。具体的な到達目標として、以下を掲げる。</p> <p>①臨床心理学に関する自己の関心や問題意識を、研究ベースに乗せることができる。</p> <p>②その研究目的に沿った研究計画を組み立てることができる。</p> <p>③その研究計画等をわかりやすくプレゼンテーションすることができる。</p> <p>④その際の質問等に対して、適切に回答することができる。</p> <p>⑤研究計画に、研究倫理に基づく準備を組み込むことができる。</p> <p>⑥他者の研究にも関心を持ち、それに対する自分の考えを述べたり他者の考えや意見から自らの研究の質の向上に活かすことができる。</p> <p>尚、研究指導教員の専門分野、主要な研究テーマは以下の通りである。</p> <p>(2 菅藤 健一) (司法・矯正心理学)：非行少年のアセスメント、処遇 (42 藤岡久美子) (発達心理学)：幼児期、中年期の心理的適応 (50 佐藤宏平) (臨床心理学・家族心理学)：抑うつ、家族療法 (86 本島優子) (乳幼児心理学)：アタッチメントと心理的適応 (92 関口雄一) (教育臨床心理学)：児童期の攻撃性、学校適応 (97 河合輝久) (臨床心理学・学生相談)：メンタルヘルス・ファーストエイド、メンタルヘルスリテラシー</p>	
	課題研究Ⅱ	<p>修士論文作成に向けて、課題研究Ⅰで計画された研究計画に基づいて、データ収集・分析処理等を実行し、それらを文章化し、最終的には修士論文として完成・提出し、かつ、その研究内容を適切に発表し、質疑応答に適切に対応することができるように進めることを目的とする。その過程では、それぞれのゼミにおいて協同的問題解決体験等を経験し、さらに論理的思考能力や表現力、協働性を身につける機会となることがねらいである。具体的な到達目標は、以下の通りである。</p> <p>①研究を踏まえつつ、研究計画を実行に移すことができる。</p> <p>②データの保管等、適切に対処しながら、データの入力・集計・分析等に対応できる。</p> <p>③主要な分析や適切な分析方法を選択することができる。</p> <p>④修士論文全体の構造を踏まえて、適切にまとめることができる。</p> <p>⑤統計記号の表記の仕方や引用文献の記載の仕方は、その条件を満たすことができる。</p> <p>⑥提出締め切り等を守って提出し、自身の研究内容を過不足なく発表することができる。</p> <p>⑦研究協力者への報告・御礼やデータの処分等に責任を持つことができる。尚、研究指導教員の専門分野、主要な研究テーマは以下の通りである。</p> <p>(2 菅藤 健一) (司法・矯正心理学)：非行少年のアセスメント、処遇 (42 藤岡久美子) (発達心理学)：幼児期、中年期の心理的適応 (50 佐藤宏平) (臨床心理学・家族心理学)：抑うつ、家族療法 (86 本島優子) (乳幼児心理学)：アタッチメントと心理的適応 (92 関口雄一) (教育臨床心理学)：児童期の攻撃性、学校適応 (97 河合輝久) (臨床心理学・学生相談)：メンタルヘルス・ファーストエイド、メンタルヘルスリテラシー</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
芸術・スポーツ科学コース	スポーツ科学プログラム		
	文化コーディネーター実習（スポーツ）	スポーツタレント発掘事業等の企画に関するフィールドワークを通して、事業運営について学ぶとともに、これまでに学んだスポーツ科学の知識や技術を実践に応用する力、主体的に課題を見つけ、解決する力、コミュニケーション能力を身につける。また、社会におけるスポーツ活動の役割を実践的に理解するとともに、スポーツ施設・団体・スポーツクラブ等の管理・運営やスポーツイベント等の企画・運営に関するマネジメントやコーディネート能力を身につける。	共同
	地域社会文化実習（スポーツ）	地域社会では、その歴史や風土によって、地域独自の精神的、物質的、行動的文化を形成している。そのような独自の文化性を日本と台湾のスポーツ文化の観点から理解することを目的とする。なお、本講義では、日本と同じアジアの台湾の文化に着目し、滞在しながら、その文化性の相違を体験・理解する。さらに、実習にあたっては、山形大学と交流締結関係にある台湾師範大学の学生の協力・交流によって、目的を遂行するものである。	
	地域スポーツ実践特別演習	地域におけるスポーツ活動の現場に出向き、活動に参加することや、クラブ・事業等の運営、指導の実際に触れることを通じて、地域におけるスポーツ活動について学ぶ。また、様々な対象やクラブ・事業の目的に応じた支援を行う上で必要な知識・技術を学ぶ。これらの活動や、これまでに学んできたことを活かしながら対象に応じた取組みを検討し、今後さらに深く学ぶべき内容を見つけることを通じて、実践的な課題解決能力を養成する。	共同
	生涯スポーツ特論	本講義では、生涯スポーツに関する理論的・実践的なトピックを選んで、現代社会と生涯スポーツの関わりを社会学的視点から論ずる。現代社会と同様にスポーツの世界もグローバル化してきている。本講義では現代社会構造と生活構造の変化を踏まえて、多様化するスポーツの様相について概説する。特に、生涯スポーツの観点から、地域づくりとスポーツ、ニューススポーツと生涯スポーツ、総合型地域スポーツクラブ、環境問題とスポーツについて取り上げる。	
	スポーツ教育学特論	スポーツ教育の目標・内容とスポーツ政策との関連性や指導計画・学習指導過程、効果的な指導形態の在り方、指導と評価の一体化の意義等についての理解を深め、実際の授業を観察・分析・評価することを通じて実践的な力を身に付けさせる。また、学習指導要領における内容の変遷の理解を基に、生きる力や生涯スポーツにつながるスポーツ教育を展望し、生涯学習社会におけるスポーツ教育の意義と今後の在り方について講義するとともに、討議を通して考察する。	
	コーチング学特論	本授業は、コーチング学を専門とする教員によって単独で実施する。授業の到達目標については、「スポーツ・コーチングに要する学際的な専門的知識の修得」と「最新のコーチング理論やその実際の理解」、「自らのコーチ像・コーチングに関する合理的な思考力の涵養」である。実際の授業は、スポーツ・コーチングに関する学際的な科学的知識、最新のコーチング理論やその実際について、教員から概説を行う「講義」を主とする。また、授業をとおして得られた知識をもって、自らのコーチ像、合理的なコーチング計画について考察させたり、グループワークやプレゼンテーション等の「演習」を含んだ授業を展開することとする。さらには、授業内容の理解を深めるために、参考書等の文献を手掛かりに自主学習を行うことで、省察的实践者としての素養を身につけさせることを企図して実施するものである。	
トレーニング科学特論	トレーニングの理論的背景や基礎知識、関連する諸科学とトレーニングとの関わりについて理解を深め、トレーニング実践や研究の手法を学ぶ。また、スポーツトレーニングの理論的背景や基礎知識を身につけ、エビデンスと実践に結び付けて考える。そのために、トレーニング科学や関連する分野の研究手法、年代や対象に応じたトレーニング計画の立案や実践及び評価方法を理解する。これらの内容についてのプレゼンテーションを通して、論理的思考性や表現方法を身につける。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	パフォーマンス解析特論	本授業では、スポーツにおいてパフォーマンスを解析するために必要な知識を身につけることを目標とする。そのため、ビデオ映像や筋電図によって得られる身体運動に関する各種定量データの意味について、実際のデータを扱いながら説明する。また、身体運動を定量的に記述することの有用性や注意点について理解させ、スポーツのパフォーマンスの評価方法について議論させる。さらに、スポーツの指導現場におけるパフォーマンス解析の活用事例についての討論し、実践的な知識へと展開させる。	
	スポーツ心理学特論	本授業は、スポーツ心理学を専門とする教員によって単独で実施する。授業の到達目標については、「スポーツ心理学に関する専門的知識の修得」と「スポーツ心理学における実践的方法論や対処法の理解」、「文献・情報収集能力の涵養」である。実際の授業は、スポーツ心理学において重要な概念や理論・モデル、メンタルトレーニングやメンタルサポート、チームビルディング等の実際について、教員から概説を行う「講義」を主とする。また、授業をとおして得られた知識を社会にどのように還元させられるかについて考察させたり、グループワークやプレゼンテーション等の「演習」を含んだ授業を展開することとする。さらには、授業内容に関連する文献・情報を収集し、授業内容に対する理解を深める態度を養うことで、スポーツ心理学の研究者としての基礎的な力を身につけさせることを企図して実施するものである。	
	スポーツ文化論特論	日本の伝統的運動文化としての武道の文化的特性を理解し、現代における意義を明らかにする。スポーツ文化における伝統スポーツに着目し、日本の伝統スポーツである武道の歴史と文化的特性（修行、道、稽古、型、精神性）を講義し、さらに、武道文化が確立した近世に著された代表的な武道伝書「兵法花伝書」、「五輪書」、「一刀斎先生剣法書」を取り上げ、その技術観を理解する。それらを踏まえ、現代スポーツにおける武道の意義を論究する。	
	スポーツ栄養学特論	スポーツパフォーマンスの向上やコンディショニングには適切な栄養補給が欠かせない。また、ジュニア選手の場合には健全な発育を促すためにも、指導者には正しい栄養補給の知識が必要とされる。この授業ではジュニアからマスターズにいたるまでの、あらゆる対象の競技スポーツ選手における栄養管理の重要性とその科学的根拠を正しく理解し、パフォーマンスとコンディショニング向上を目指した食事指導の実践的知識の習得をめざす。	
	人間栄養科学特論	本特別演習では人間栄養学に関する文献を読み専門分野の理解を深めることを目的とし、文献を通して基礎的な内容から高度な専門的知識を身に付ける。同時に必要な情報を収集する能力やまとめて発表する能力を身に付ける。学生と教員とで議論をしながら、以下の事柄について学習を行う。 (①：栄養疫学（栄養疫学、食品の機能性、疾患の発症と予防など人間栄養学に関する最新の英語論文を選択し、レジュメ作成（和文翻訳）、プレゼンテーションおよび質疑応答を行う。必要に応じて、担当教員が補足説明を行い、受講生全体の習熟度の向上を目指す。）、②：腎臓病、③：糖尿病、④：肝臓病、⑤：炎症性腸疾患、⑥：メタボリックシンドローム、⑦：脂質異常症、⑧：骨疾患、⑨：ポリフェノール、⑩：プロバイオティクス、⑪：時間栄養学、⑫：うつ病)	
	食健康科学特論	授業形態は、講義と学生主体の参加型授業を組み合わせる。授業の到達目標は、健康教育および食教育に関する専門的知識を習得すること。さらに、人間にとっての健康および食行動の意味や機能について、総合的な観点から俯瞰する視野や豊かなコミュニケーション能力を習得すること。授業計画は、第1回でガイダンスを行った後、第2回から第7回において健康および食に関する課題の歴史の変遷や国内外の状況を概観して基礎的事項を確認する。その後、第8回から第14回では、食と健康の相互関連性に関する専門的文献を輪講し、ディスカッションを行う。第15回で総括を行う。	
	生涯スポーツ論特別演習	本演習では、少子高齢化と生涯学習社会における生涯スポーツの諸問題について、文献講読並びにスポーツ行政、団体、施設などの実地指導を通じて検討する。演習の内容は、現代の社会・生活構造の変化を踏まえて、生涯スポーツの観点から、社会構造とスポーツ参加の実態、地域社会における住民参加のスポーツ計画づくり、総合型地域スポーツクラブの設立と運営の諸問題について取り上げる。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	スポーツ教育学特別演習	現代社会におけるスポーツ教育をめぐるいくつかの問題を取り上げ、それに関する文献を精読していく。本講義では、教科体育に限らず課外における運動部活動などの学校教育におけるスポーツ教育場面に関わるトピックやライフサイクルやジェンダーといった様々な観点からスポーツ教育について講義するとともに、討議を通して考察する。	
	コーチング学特別演習	本授業は、コーチング学を専門とする教員によって単独で実施する。授業の到達目標については、「コーチング学に関する文献の輪講により、学際的かつ高度な知識の理解と論理的思考能力や論理的表現力の修得」、「情報収集能力やコミュニケーション能力等の涵養」、「コーチング学における研究者としての基礎的知識の理解」である。実際の授業は、コーチング学に求められる基礎知識を教員から概説する「講義」を行う。続けて、コーチング学に関する基礎的文献及び専門的文献を「輪講」し、教員と学生を交えたメンバーで議論して、文献内容の理解を深めることとする。同時に、コーチング学における今日的な課題を発見・解決する方法を探究し、専門知識や方法を的確に表現する力を身につけさせることを企図して実施するものである。	
	トレーニング科学特別演習	トレーニング科学に関する文献等を読み解きながらトレーニングの理論的背景や基礎知識について理解を深め、具体的なトレーニング計画を作成すると同時に、その評価の方法や研究手法について学ぶ。また、スポーツトレーニングの実践と科学的な根拠を結びつけて、目的に応じて具体的な方策を検討し、トレーニング科学や関連する分野の研究手法をより深く理解する。これらの学びによって、年代、対象に応じたトレーニング計画の立案や実践及び評価や、プレゼンテーションを通して身につけた論理的思考性、表現方法などをトレーニングの実践現場にも応用することができるようになる。	
	パフォーマンス解析特別演習	本授業では、スポーツにおいてパフォーマンスを解析するために必要な技術を身につけることを目標とする。そのため、ビデオ映像を用いた動作の計測方法や、フォースプレートを用いた力の計測方法について、実際に計測機器を扱いながら説明する。また、計測したデータに誤差を取り除く処理をしたり、数値計算を施したりする方法を解説し、スポーツのパフォーマンスを評価するために必要な各種変数を導出させる。さらに、コンピュータプログラミングを用いて、効率的にデータを解析する方法について議論を展開させる。	
	スポーツ心理学特別演習	本授業は、スポーツ心理学を専門とする教員によって単独で実施する。授業の到達目標については、「スポーツ心理学に関する文献の輪講により、高度な知識の理解と論理的思考能力や論理的表現力の修得」、「文献・情報収集能力や文章読解力の涵養」、「スポーツ心理学における研究者としての基礎的知識の理解」である。実際の授業は、スポーツ心理学に関する基礎的な知識（統計学的内容も含む）を教員から概説する「講義」を行う。続けて、スポーツ心理学に関する基礎的文献及び専門的文献を「輪講」し、教員と学生を交えたメンバーで議論して、文献内容の理解を深めることとする。同時に、スポーツ心理学における今日的な重要課題について解決する方法を探究し、専門知識や方法を的確に表現する力を身につけさせることを企図して実施するものである。	
	スポーツ栄養学特別演習	様々な競技や対象者の栄養アセスメントと必要栄養補給量の算定根拠について演習し、栄養サポートの事例検討より栄養指導法を学ぶ。また、栄養サポートに必要な献立や栄養指導資料作成を行う。	
	人間栄養科学特別演習	本特別演習では人間栄養学に関する文献を読み専門分野の理解を深めることを目的とし、文献を通して基礎的な内容から高度な専門的知識を身に付ける。同時に必要な情報を収集する能力やまとめて発表する能力を身に付ける。学生と教員とで議論をしながら、以下の事柄について学習を行う。 ①：栄養疫学（栄養疫学、食品の機能性、疾患の発症と予防など人間栄養学に関する最新の英語論文を選択し、レジュメ作成（和文翻訳）、プレゼンテーションおよび質疑応答を行う。必要に応じて、担当教員が補足説明を行い、受講生全体の習熟度の向上を目指す。） ②：腎臓病、③：糖尿病、④：肝臓病、⑤：炎症性腸疾患、⑥：メタボリックシンドローム、⑦：脂質異常症、⑧：骨疾患、⑨：ポリフェノール、⑩：プロバイオティクス、⑪：時間栄養学、⑫：うつ病)	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	食健康科学特別演習	<p>授業形態は、学生主体の参加型授業を中心とし、適宜講義を組み入れる。授業の到達目標は、健康教育および食教育に関する専門的知識・技能を習得すること。さらに、教材の開発・演習を通して、豊かなコミュニケーション能力を習得すること。「食健康科学特論」での既習事項をふまえ、健康教育および食教育に関する国内外の先進的な事例を参考に、現代の健康に関する諸課題から各自テーマを選択し、その解決に資する教育プログラムを考案・実践し、相互評価を行う。第1回はガイダンスを行い、第2回～第4回は行動科学に基づいた健康教育・食教育について専門事項を確認する。第5回～第9回で各自教材開発を行い、第10回～第14回で教材の実践と相互評価を行った後、第15回で総括を行う。</p>	
	スポーツ科学特別研究 I スポーツ科学特別研究 II	<p>特別研究Iでは、スポーツ科学や関連する諸分野に関する文献研究を中心に、専門分野の理解を深めながら、論理的思考や表現力を身につけるとともに、修士論文作成に必要な研究手法を学ぶ。 特別研究IIでは、プレゼンテーションやディスカッションを繰り返しながら、質の高い修士論文作成を目指すことで、論理的思考性やコミュニケーション能力、表現力を身につけていく。</p> <p>(46 大森 桂) 行動科学の理論をふまえ、効果的な食教育の方法について、国内外の先進事例をふまえて実証的に調査研究する方法について指導する。</p> <p>(53 渡邊信見) トレーニング科学の観点から、様々なスポーツにおける体力や技術の評価に関して研究指導を行う。また、これらの知見の実践現場への応用について指導を行う。</p> <p>(72 矢口友理) 様々な競技や対象者における栄養摂取の現状分析や栄養摂取とコンディショニング・基礎体力との関連についての研究指導を行う。</p> <p>(74 楠本健二) 人間栄養学の観点から、様々な疾病と栄養素摂取状況との関連について学術論文から知見を得たり、実際の現場で介入指導を行い評価するなどの研究指導を行う。</p> <p>(91 池田英治) スポーツ（特に、競技スポーツ）にまつわる多様な課題に対して、コーチング学およびスポーツ心理学の観点から研究する上で必要となる各種の方法論（研究デザイン、分析方法等）について指導する。</p> <p>(93 井上功一郎) スポーツバイオメカニクスに関わる研究に対して指導を行う。また、各種機器を用いて身体運動を正確に計測・分析する手法を指導する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
音楽芸術プログラム	文化コーディネーター実習(音楽)	地域における音楽文化振興の意義を具体的に把握するとともに、地域における音楽文化活動の発展に寄与し得るコーディネーター能力や、鑑賞者のニーズに応え得る演奏活動への企画・推進の能力を修得することをねらいとして、以下の2点を実践する。第一に、社団法人山形交響楽協会(山形交響楽団)等における事業に参画し、運営及び演奏に係る準備等の実習を通して活動の概要を把握する。第二に、地域の音楽に対する関心やニーズを捉え、その特性を踏まえた啓発活動や地域文化振興を図る目的で、アウトリーチ活動の企画・立案及び演奏会の実施等を行う。時間数は事前・中間・事後指導をあわせて80時間とする。 ①事前指導 ②社団法人山形交響楽協会(山形交響楽団)での実習 ③中間指導 ④アウトリーチ活動における演奏のための練習 ⑤アウトリーチ ⑥事後指導	共同
	地域社会文化実習(音楽)	地域社会では、その歴史や風土によって、地域独自の精神的、物質的、行動的文化を形成している。そのような独自の文化性を日本と台湾の音楽文化の観点から理解することを目的とする。なお、本講義では、日本と同じアジアの台湾の文化に着目し、滞在しながら、その文化性の相違を体験・理解する。さらに、実習にあたっては、山形大学と交流締結関係にある台湾師範大学の学生の協力・交流によって、目的を遂行するものである。	
	地域音楽活動実践特論	地域の学校教育や社会教育における音楽活動の現状と課題を把握し、音楽による地域文化振興及び地域の諸課題解決の可能性を探ることを目指す。具体的には、地域の学校教育や社会教育における音楽活動の現状を把握し、その上で地域文化振興の基盤である学校や公立文化施設等において児童生徒や一般市民を対象とした鑑賞プログラムやワークショップを企画・立案し、生徒や教師、地域住民とふれあひながら音楽による地域文化振興及び地域の諸課題解決の可能性を探る。	
	地域音楽活動実践特別演習	地域の学校教育や社会教育における音楽活動の現状と課題を把握し、音楽による地域文化振興及び地域の諸課題解決の可能性を実践を通して探ることを目指す。具体的には、「地域音楽活動実践特論」において把握した地域の学校教育や社会教育における音楽活動の現状と課題に基づき、その解決のための方策として学校や公立文化施設等において児童生徒や一般市民を対象とした鑑賞プログラムやワークショップを実施し、音楽による地域文化振興及び地域の諸課題解決の可能性を探る。	
	舞台芸術実習	総合舞台芸術のオペラを通して、舞台表現技術を学ぶ。様々な分野のスタッフと共同で1本のオペラ公演を製作することにより、音楽演奏面はもとより企画・運営面からのアプローチを取り入れて実践的な活動を行うことができるようになる。 (33 渡辺修身/15回) 指揮の知見から、主に音楽スタッフ側としてのトレーニング方法をオペラの実践的活動に関わり指導する。 (144 藤野祐一/15回) 声楽・演出の知見から、主に歌手のトレーニング方法をオペラの実践的活動に関わり指導する。	共同
	音楽表現特別演習(声楽)A	授業は個人レッスンの形態をとる。学部で培った音楽的土台の上に更に専門的な内容を積み上げ、演奏家として必要な資質を身につける。舞台におけるコミュニケーションというテーマで演奏者と聴衆のあり方の研究指導を行う。 大学院1年前期ではセッコ・チタティーヴォの演奏法を研究する。目標として①イタリア語のレチターレ(演ずる)という感覚を涵養する。②モーツァルトのオペラを題材として、セッコ・チタティーヴォの演奏技術を研究する。	
	音楽表現特別演習(声楽)B	授業は個人レッスンの形態をとる。学部及び大学院1年前期で培った音楽的土台の上に更に専門的な内容を積み上げ、演奏家として必要な資質を身につける。 後期のBでは、ドイツ歌曲(モーツァルト、シューベルト、シューマン、ブラームス、R.シュトラウス、H.ヴォルフ等)の歌曲作品を取り上げ、詩の解釈、ディクシオン、演奏表現技術を磨く、目標として30分程度のリサイタルプログラムを構築し、その演奏法を研究する。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	音楽表現特別演習（ピアノ）A	学部で学んできたピアノ演奏における基本的な技術、教養をより安定させる。多岐にわたる作曲家の作品に触れてその作風や歴史を紐解いたり、或いは興味のある作曲家を絞り込んで深く追究するきっかけを作る。自らの技術を磨きながら音楽的知識をより深め、その上で音楽、或いは楽器との関わり方を確かめていく。	
	音楽表現特別演習（ピアノ）B	ピアノ演奏の技術向上を図りながら、より一層専門的な知識に踏み込んでいく。楽譜を読み解く力（分析力と読解力）を身につけ、そこから見える時代背景や習慣等も捉えた上で、それらを演奏に生かすためのより高度で専門的な技術を習得し、延いては演奏家、教育者として必要な素養を身につけていく。	
	音楽表現特別演習（管弦打）A	本授業では、管弦打楽器の作品について演奏法を学ぶ。各選択の管弦打楽器の構造や特性を理解し、基礎的な奏法を身につけ、音楽表現上の特性等を研究しながら楽曲を独奏できるようにすることを目指す。授業は個人レッスンで進める。個々の技能の程度に合わせた楽曲を選択し、その表現内容を様々な要素に分析して実践し、最終的に包括的な音楽表現にまとめる。 1. 各選択の管弦打楽器について楽器の構造や機能、音楽表現上の特性を理解する。 2. 各選択の管弦打楽器の基礎的な奏法を身につける。 3. 各選択の管弦打楽器の簡単な独奏曲を適切な奏法で音楽表現を工夫しながら演奏できる。	
	音楽表現特別演習（管弦打）B	本授業では、音楽表現特別演習（管弦打）Aで身につけた各選択の管弦打楽器の基礎的な奏法を踏まえ、より発展的・応用的な奏法の習得と上級のエチュードや独奏曲を演奏できるようにすることを目指す。個々の技能の程度に合わせた楽曲を選択し、その表現内容を様々な要素に分析して実践し、最終的に包括的な音楽表現にまとめる。 1. 各選択の管弦打楽器について音楽表現上の特性を理解する。 2. 各選択の管弦打楽器の応用的・発展的な奏法を身につけ、上級のエチュードの演奏ができる。 3. 各選択の管弦打楽器の独奏曲を適切な奏法で音楽表現を工夫しながら演奏できる。	
	作曲特論	後期バロック時代から近現代までを対象として、西洋音楽における歴史的作曲家の作品の分析を試みる。各時代の音楽様式に対する幅広く深い知識を身につけ、その作曲意図や音楽語法について研究をする。さまざまな楽曲の「音組織」「和声法」「対位法」「楽器法」「管弦楽法」等について考察し、理解力を高め、さらに自らの音楽語法を追究する。研究により得た知識を活かし作曲または編曲作品の創作を試み、作曲研究発表会（演奏会）で発表をする。	
	作曲特別演習	室内楽、声楽、合唱、吹奏楽、管弦楽曲など、さまざまな編成による楽曲の実例を通してその技法を学び、応用できるよう研究を深める。古典派やロマン派に留まらず、近現代の音楽技法、記譜法、楽器法なども分析し考察しながら自己の語法を追究する。実際の演奏を聴いた上で学ぶことが多くあるため、書いた作品は演奏者にその意図を伝え演奏してもらい、自己のイメージと隔たりがないかを確認し適宜修正を加える。作曲研究発表会（演奏会）の企画・運営も行う。	
	音楽教育学特論	人間と音楽の関りを、音楽教育に関わる諸論考や資料を繙き考察していく。具体的には次の5点に着眼して課題を設定する。i) 人間にとっての音楽の存在とは何か、ii) 人はなぜ音楽を聴き、歌い、作り、楽しむのか、iii) 学校で音楽を教えることや習うことは人間が成長していく上でどのような意味があるのか、iv) 音楽は人間の成長や生活に何をもたらすのか、v) 音楽が社会で果たする役割は何か。その上で、音楽教育に関わる論文、新聞・雑誌記事、歴史上のトピックとその関連資料を手掛かりに自分なりの考えや答えを導き出す。	
	音楽教育学特別演習	音楽教育学特論の学修成果を踏まえ、人間と音楽の関りを明らかにするために音楽教育研究の基本原則を理解し、実際の手法を身につけることを目指す。具体的には歴史的研究、記述的研究、実験的研究、哲学的研究、美学的研究に分類し、その研究手法を実際の論文等を分析考察し理解する。その上で、研究課題を設定し、実際の手法に基づいて研究を進めるための適切な研究計画を立案する。また適切な研究手法を用いて研究課題を解明し、研究報告にまとめるまでの一連の流れを学修する。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	室内楽特別演習（声楽）A	<p>合唱の基礎及び日本の伝統的歌唱について理解し実践する。声楽の初歩である発声法、呼吸法の基礎を学ぶ。次に合唱曲を仕上げていく過程を経験しその方法について学習する。演奏形態は混声合唱で行い、教材としては邦人合唱作品、中世及びバロック期の合唱作品モーツァルトの合唱作品及びブラームスの合唱作品を取り上げる。</p> <p>日本の伝統的な歌唱法と西洋の歌唱法との比較検討も行うことによって、歌唱法について理解を深める。 (33 渡辺修身/15回) ルネサンス・バロック期合唱作品の演奏法について研究・指導を行う (144 藤野祐一/15回) アカペラ合唱作品及びロマン派合唱作品の演奏法について研究・指導を行う</p>	共同
	室内楽特別演習（声楽）B	<p>合唱におけるパートの役割を認識し実践する。演奏形態は混声合唱を中心とする。合唱基礎演習の内容を深化させ、定期演奏会での合唱ステージに参加して本番の演奏を体験することにより合唱音楽を作り上げていく過程を学習する。アカペラ合唱作品にも取り組み、ハーモニーの作り方を実践的に研究する。 (33 渡辺修身/15回) ルネサンス・バロック期合唱作品の演奏法について研究・指導を行う (144 藤野祐一/15回) アカペラ合唱作品及びロマン派合唱作品の演奏法について研究・指導を行う</p>	共同
	室内楽特別演習（管弦打）A	<p>室内楽曲を仕上げていく過程を経験し、その方法について学習する。器楽アンサンブル形態で授業を進め、高度なアンサンブル能力を身につけることを目標とする。履修者の中より指導者を選び、指導法を含めた演奏法を研究する。個々の技能の程度に合わせた楽曲を選択し、その表現内容を様々な要素に分析して実践し、最終的に包括的な音楽表現にまとめる。</p> <p>①基礎奏法を学び、合奏を通してアンサンブル能力を高める。 ②パート練習および分奏を試み、合奏としてまとめ上げる。状況に応じて個人練習とする場合もある。 ③合奏の編成を考慮し、状況に応じた作品を選び、パート練習、分奏、合奏等を適宜授業時数に振り分ける。</p>	
	室内楽特別演習（管弦打）B	<p>室内楽特別演習（管弦打）Aを踏まえ、より高度な技能に基づく新たな作品の演奏を体験する。器楽アンサンブル形態で授業を進め、より高度なアンサンブル能力を身につけることを目標とする。室内楽特別演習（管弦打）Aを踏まえ、より高度な室内楽曲を仕上げていく過程を経験し、その方法について学習する。履修者の中より指導者を選び、指導法を含めた演奏法を研究する。個々の技能の程度に合わせた楽曲を選択し、その表現内容を様々な要素に分析して実践し、最終的に包括的な音楽表現にまとめる。</p>	
	舞台芸術特別演習A	<p>舞台芸術公演の経過を通して、音楽性、人間性、協調性、社会性を養成する。学部生のオペラ活動と連携し、指導的立場でのオペラ活動を行う。授業で展開される様々な練習について、音楽演奏面においても演技面においても細部にわたって考察する。舞台上において、より説得力のある表現を可能にするための無駄のない動きを研究する。 (33 渡辺修身/15回) 指揮の知見から、主に音楽スタッフ側としてのトレーニング方法をオペラの実践的活動に関わり指導する。 (144 藤野祐一/15回) 声楽・演出の知見から、主に歌手のトレーニング方法をオペラの実践的活動に関わり指導する。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	舞台芸術特別演習 B	舞台芸術特別演習Aを踏まえ、より高度な実践的活動を行う。様々な分野のスタッフと共同で1本のオペラ公演を製作することにより、音楽演奏面はもとより企画・運営面からのアプローチを取り入れて実践的な活動を行うことができるようになる。授業で展開される様々な練習について、音楽演奏面においても演技面においても細部にわたって考察する。舞台上において、より説得力のある表現を可能にするための無駄のない動きを研究する。 (33 渡辺修身/15回) 指揮の知見から、主に音楽スタッフ側としてのトレーニング方法をオペラの実践的活動に関わり指導する。 (144 藤野祐一/15回) 声楽・演出の知見から、主に歌い手のトレーニング方法をオペラの実践的活動に関わり指導する。	共同
	伝統音楽特論	日本の伝統音楽の流れを歴史的に概観し、日本の伝統音楽の流れを歴史的に捉える能力を身につける。配付資料、および視聴覚教材などを用いながら、総説、古代の音楽文化、中世の音楽文化、近世の音楽文化、近代の音楽文化、などの過程を経ながら理解と研究を深めてゆく。月溪恒子『日本音楽との出会いー日本音楽の歴史と理論』（東京堂出版、2010年）を主なテキストとするが、これらを基に、日本音楽の研究のみならず、世界における日本の音楽状況を比較検討、研究するなど、音楽学研究の方法を研究する。	
	総合音楽学特論	民族音楽学の視点と研究方法を学び、西洋音楽や日本の音楽も含めた世界のさまざまな音楽へのアプローチの仕方を紹介する。授業では、まず民族音楽学の基本的な考え方を学ぶ。その上で、ヨーロッパの民俗音楽と舞踊に焦点をあて、映像資料を用いて、その特徴や地域による多様性を学ぶ。次にヨーロッパの芸術音楽と民俗音楽の関係を考え、周辺地域やアジアの芸能をとりこんで作られた芸術作品について考える。また、日本の伝統音楽と西洋芸術作品の関係についても扱う。これらの内容を扱いながら、現代社会における伝統音楽継承や変容の諸問題について考えたり、世界の音楽から人間と音楽の関係を考えたり、自分達の音楽文化について新しい観点から見直したりすることができるようになることを授業の目標とする。	
	音楽芸術特別研究 I 音楽芸術特別研究 II	音楽芸術に関する各専門領域から特定の研究テーマを設定し、各教員の研究領域に基づいた指導を受け、研究遂行能力を養う。また演奏研究の探究と並行して成果をまとめるとともに、中間発表、最終発表の取り組みを通して着想力、創造性、遂行能力、課題発見・解決能力、表現力、計画性、コミュニケーション能力、発表能力等を養う。 (17 佐川 馨) 音楽を教えること学ぶことについて学校教育及び社会教育を対象に課題や問題を抽出し、その解決や音楽教育発展のための方策について探究することを目的として研究指導する。 (33 渡辺修身) 指揮法、管弦楽曲、オペラ作品、管弦打楽器の指導に関して研究の実践と指導を行い、論文指導を行う。 (38 三輪 郁) ピアノの演技術及び作曲家やジャンルに応じた適切な様式感を踏まえた演奏指導をするとともに、演奏に関わるテーマについての研究指導をする。 (58 名倉明子) 和声、対位法、楽式論、管弦楽法、音楽史などの理論と実習を踏まえて、楽曲分析、編曲、作曲に関わる作品制作及び副論文の研究指導を行う。	
造形芸術プログラム	文化コーディネーター実習 (造形)	美術館など造形芸術やデザインに関連する業務を行う公的機関や事業所、法人等の業務に参画し、事業の企画や実施に関する業務やその補助を行う。上記の活動を通じて、地域における芸術文化活動について理解し、その発展に寄与し得る実践的な能力を修得する。	
	地域社会文化実習 (造形)	地域社会では、その歴史や風土によって、地域独自の精神的、物質的、行動的文化を形成している。そのような独自の文化性を日本と台湾の芸術文化の観点から理解することを目的とする。なお、本講義では、日本と同じアジアの台湾の文化に着目し、滞在しながら、その文化性の相違を体験・理解する。さらに、実習にあたっては、山形大学と交流締結関係にある台湾師範大学の学生の協力・交流によって、目的を遂行するものである。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	伝統文化特論	本講義では、山形に伝来する絵馬をテーマに、日本および地域の伝統文化について学ぶ。その成果を大学附属博物館で展示することで伝統文化の現代における活用について考える力を身につける。具体的には、今も身近な存在である絵馬が生まれた歴史的背景や、絵馬から読み取れる当時の社会状況などの基礎知識を講義で学ぶ。その後、大学附属博物館等が収蔵する資料を用いて絵馬の取り扱いと調査方法を習得する。それから実際に山形市内に所在する絵馬を調査することで、地域文化を考察する手法を身につける。そのうえで附属博物館における展示を企画し、さらに理解を深める。一連の学習を通して伝統文化に対する幅広い洞察力と自己の表現能力を効果的かつ段階的に養うものとする。	
	美術史特論	19世紀以降、西洋の美術史学では様式論や図像学、イコノロジーなど美術作品に対するさまざまな分析手法が試みられてきた。この授業では、そうした方法論の提唱者と論説のうち代表的なものをいくつか取り上げ、美術研究の射程の広さと将来への展望を考察する。授業形態としては講義形式により、毎回、異なる理論家のテキストを講読し、適宜、受講生に意見を聴取する。評価は毎回の授業で提出する小レポートと期末レポートでおこなう。最終的には、美術作品を分析するさいのさまざまな視点と手法を修得し、それぞれの目的と有効性（あるいは限界）について理解することを目的とする。	
	アートマネジメント特論	アートマネジメントの基本的な課題を考察するとともに、地域社会における芸術文化活動に対するニーズや国・自治体・民間の芸術文化活動の支援のあり方について講義・演習を行う。講義・演習を通じて、生涯学習社会における芸術文化の果たす機能について理解し、その企画や実施に必要な知識と理論について、また具体的な芸術文化活動におけるマネジメントについて必要な事項を理解する。	
	デザイン方法特論	デザイン史を特にデザイン方法論の視点から考察し、現代の日本におけるデザイン行為の在り方について論じる。デザインと周辺隣接分野、特に美術、工芸、建築、工業、科学技術等との関係とその変化についても検証し、その時代背景や社会や文化から与えられた影響についても考察する。また20世紀末より登場する情報技術を基盤とするデザイン分野、特にwebデザイン、インタラクションデザイン、インターフェイスデザイン、情報デザイン、リレーションデザイン等の方法論を概観し、インターネットコンテンツ、CGI、アニメーション、ゲーム、ワークショップ、VR等におけるデザイン実務がどのように行われてきたのかを検証する。	
	美術教育学特論	社会における美術教育の役割と意義について、学校教育における美術教育の現状を考察しながら、その問題点と課題を明らかにしていく。そこから、我が国の美術教育を現在よりもより良くするためにいかなる教育理念と教育方法が求められるのか、実践的に探求を行う。本講義の目標は、我が国における美術教育の現状と課題を理解し、美術教育の本質を探究しながら解決する具体的な方策を教育理念・教育方法から考察することができる。	
	美術教育学特別演習	学校教育における美術教育における実際の授業を想定し、教育指導方法・題材研究・教育方法・教育資料作成などのそれぞれの観点で、実際に題材研究や制作活動等を取り入れ美術教育をよりよく実現できるように実践的に探求を行う。本講義の目標は、美術教育における教育指導方法・題材研究・教育評価方法・教育資料作成などのそれぞれの観点から、実際に課題研究や制作等の活動を通して実践的に考察することができる。	
	絵画表現特別演習	作品の構想から制作・発表に至る実践事例について検討するとともに、素材・技法研究を踏まえたうえで、具体的な制作および展示活動を行う。上記の学修活動を通じて、絵画表現の芸術的・社会的意義に対する理解を深めるとともに、絵画表現を基礎とした造形活動を展開するための知識と方法を習得し、主体的な創作活動を行うことができるに能力を養う。	
	彫刻表現特別演習	彫刻作品の可能性と地域社会における役割について、作品の構想と実制作を通して考察する。美術館やギャラリーなどの作品展示に特化した展示室以外の空間に彫刻作品を設置することを前提とし、彫刻作品とそれを取り巻く環境・空間・地域について、そこにある課題を分析・研究し、その空間との関係性、地域における立体作品の関わり方を考慮した彫刻作品を構想する。さらに構想した作品を彫刻という立体芸術の造形要素等の理論を踏まえて実際に制作することで、新たな芸術としての価値を実践的に考察する。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	美術史特別演習	本授業では、西洋のさまざまなイメージ（絵画や彫刻のほか、象徴的記号、写真などを含む）が、美的鑑賞の対象としてだけでなく、宗教や呪術、政治的プロパガンダの手段としていかに機能し、受け継がれてきたかを参考文献の精読を通じて検討する。授業形態としては演習形式をとるが、受講生の数により、適宜、講義形式も取り入れる。受講生は少なくとも2回の発表をおこない、自らの興味関心からイメージの有効性に関する議論を展開することが求められる。最終的にはキリスト教や現代文化におけるイメージの実相を検討し、自分なりの視点によりそれらを歴史的に再構築することを目的とする。	
	平面造形特別演習	作品の構想から制作・発表に至る実践事例について検討するとともに、素材・技法研究を踏まえたうえで、具体的な制作および発表活動を行う。上記の学修活動を通じて、平面造形の芸術的・社会的意義に対する理解を深めるとともに、平面造形を基礎とした造形活動を展開するための知識と方法を習得し、主体的な創作活動を行うことができるに能力を養う。	
	立体造形特別演習	立体造形の中で今後彫刻がどのようにあるべきかを、日本における彫刻と工芸という立体造形物の歴史を考察して検証する。現代の日本においてどのような立体作品が望ましく、地域社会に求められているのか、日本における彫刻とはどのようなものであるのか、どうあるべきなのかを、彫刻という立体芸術の日本における歴史を概観し、明治時代以降の西洋彫刻の影響を受けた彫刻作品と江戸時代以前の工芸品である立体造形作品とを比較・検証し考察する。その考察をもとに作品を構想し、実際に彫刻作品として制作して検証する。	
	デザイン表現特別演習	20世紀末より登場する情報技術を基盤とするデザイン分野、特にインターネットコンテンツやメディア芸術作品等の制作を通して、デザイン理論やデザイン方法論の理解を深めるとともに、デザイン実務の実際を体験する。またそれらの作品の公開、メディアの運営、プラットフォームの構築なども実践し、デザイン行為と社会、文化との関係やその影響を検証し、考察する。メディアの転換期とも呼ばれる21世紀初老からのデザイン環境におけるデザインの在り方とその意義について知見を深める。	
	造形芸術特別研究Ⅰ 造形芸術特別研究Ⅱ	特別研究Ⅰでは、造形芸術活動に関する特定の課題を選定し、研究や企画立案・実践を行う。上記の研究活動を通じて、地域文化の振興に必要な造形芸術活動について、地域のニーズを踏まえたうえで、専門的な観点から具体的な芸術文化活動に関する研究または企画立案を行うことができる能力を涵養する。 特別研究Ⅱでは、造形芸術特別研究Ⅰの成果や課題を踏まえたうえで、具体的な芸術文化活動に関する研究または企画・実践を行うことができる能力を涵養する。 (9 降旗 孝) 学校教育における造形美術教育を具体的な視点にして、本質を追求した教育理念や多様な題材研究や題材論、そして実践的な教育方法について深く考究することを目的と課題とし、研究指導する。 (34 小林俊介) 地域の造形文化振興に寄与する具体的提案を伴う実践的研究を行うことを目的に研究指導する。	